

目 次

《2011年度研究部活動報告》

運営委員会	1
運営委員・研究分科会代表者合同会議	3
研究会	4
研修委員会	6
研修会	7
研究分科会	8
研修分科会	8

《2011年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会	9
2. 逐次刊行物研究分科会	12
3. パブリック・サービス研究分科会	16
4. レファレンス研究分科会	19
5. 理工学研究分科会	21
6. 西洋古版本研究分科会	22
7. 和漢古典籍研究分科会	24
8. 情報リテラシー教育研究分科会	26
9. Lーラーニング学習支援システム研究分科会	29

《2011年度研修分科会活動報告》

研修分科会	30
-------	----

《研究分科会刊行物一覧》

《2011年度研究分科会月例会について（報告）》

《2012/2013年度研究分科会会員の更新結果（報告）》

《研究講演会》

《研修会》

2011年度研修会 2011年10月27日（木）～10月28日（金）	38
テーマ：「読む」ということ	
第1日（10月27日）	
・江戸の村にも図書館があった （青木 美智男）	40
・iPadで学術書が読めるか？～学術書の新しい読書体験 （島田 貴史）	60
・大学生の読書について考える （平山 祐一郎）	71

第2日（10月28日）

・読書のイメージ：『読むこと』への意識と描き方（安形 麻理）	77
・紙と電子メディア：読みの作業効率と環境負荷の比較（柴田 博仁）	81
・書物と読者をつなぐもの（和田 敦彦）	92
《2011年度研修会の総括と回顧》（研修委員長 伊原 千秋）	93
《2011年度 東地区部会研究部決算報告書・監査報告書》	94
《2012年度 研究部活動計画（案）》	95
《2012年度 東地区部会研究部予算（案）》	96
《関係規程》	
研究部細則	97
研究分科会申し合わせ	99
研修委員会規則	101

《2011 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2011 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）

委員	三上 耕一	(明治学院大学)	(2011 年 4 月 1 日～9 月 30 日)
	萩原 昌幸	(明治学院大学)	(2011 年 10 月 1 日～)
	小川 英一	(神奈川大学)	
	鈴木 学	(日本女子大学)	
	新井 圭子	(慶應義塾大学)	
	高橋 正広	(早稲田大学)	
	伊藤 義裕	(青山学院大学)	
	齋藤 雅彦	(専修大学)	
	小林 愛	(東京理科大学)	

研究部担当理事校 東京農業大学

第 1 回 2011 年 4 月 12 日(火) 15:00～17:00 於：東京農業大学

1. 2010 年度研究部決算報告について
2. 2011 年度研究部予算案について
3. 2011 年度研究部活動計画（案）について
4. 特別助成金申請について
5. 2010 年度研究分科会活動報告について
6. 2010 年度研究分科会会計報告について
7. 2011 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
8. 2011 年度部会総会について
9. 研究分科会マニュアル 2011 年度版（案）について
10. 2011 年度研究部運営委員会日程について

第 2 回 2011 年 5 月 13 日（金）13:00～14:30 於：東京農業大学

1. 2011 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 2011 年度研究分科会予算計画について
3. 2011 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について
4. 2011 年度研究分科会報告大会について
5. 分科会関連業務分担について
6. 研究分科会会員更新スケジュールについて

7. その他

- (1) 2011 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
- (2) 2011 年度東地区運営委員会日程について
- (3) 2011 年度研修分科会について

第 3 回 2011 年 6 月 10 日（金）12:00～12:30 於：亜細亜大学

1. 研究講演会最終打ち合わせについて
2. 2011 年度研究分科会報告大会の実施スケジュールについて
3. 第 1 回研修分科会について
4. その他
 - (1) 第 2 回研修分科会について
 - (2) 2011 年度私立大学図書館協会スケジュールについて

第 4 回 2011 年 7 月 15 日（金）15：00 ～ 17：00 於：青山学院大学

1. 2011 年度研究分科会報告大会について
2. 2011 年度研究分科会夏期合宿（集中研究会）実施計画について
3. 新規研究分科会受付募集の案内について
4. 2012/2013 年度研究分科会会員募集について
5. 第 2、3 回研修分科会について
6. その他
 - (1) 2011 年度私立大学図書館協会スケジュールについて

第 5 回 2011 年 10 月 7 日（金）15：00 ～ 17：00 於：東京理科大学

1. 2011 年度研究分科会報告大会について
2. 2011 年度第 2 回運営委員・研究分科会代表者合同会議開催について
3. 新規分科会受付募集について

第 6 回 2011 年 11 月 18 日（金）13:00～14:30 於：早稲田大学

1. 2011 年度第 2 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 夏期研究合宿（集中研究会）実施報告について
3. 2011 年度研究分科会報告大会について
4. 新規研究分科会受付募集の中間報告について
5. 2012/2013 年度研究分科会会員募集の中間報告について
6. 研究分科会の運営上の諸問題について
7. 2011 年度研究分科会報告大会の運営について
8. 研修分科会について

9. 2011 年度研究講演会の講師と演題について

第 7 回 2011 年 12 月 15 日（木）12：00～12：30 於：明治学院大学

1. 2011 年度研究部中間決算について
2. 2012 年度研究部活動計画（案）について
3. 2012 年度研究部予算（案）について
4. 新規研究分科会受付募集について
5. 2012/2013 年度研究分科会会員募集について
6. 2012 年度研究講演会の講師と演題について
7. 研修分科会について

第 8 回 2012 年 3 月 16 日（金）15：00 ～ 17：00 於：神奈川大学

1. 2011 年度研究分科会報告大会参加状況及び
研究分科会への意見・感想等の集計結果について
2. 2012/2013 年度研究分科会会員参加申込状況について
3. 2012 年度研修分科会会員参加者申込状況について
4. 2011 年度研究部活動報告及び中間決算について
5. 2012 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
6. 2011 年度研修委員会活動報告について
7. 次期研修委員（2012/2013 年度）について
8. 研究分科会マニュアル 2012 年度版（案）について
9. 2012 年度研究部運営委員会日程（案）について
10. 2012 年度研究講演会の講師と演題（案）について
11. 2011 年度東地区部会役員会（第 2 回）について
12. 2012 年度私立大学図書館協会スケジュール（案）について

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第 1 回 2011 年 5 月 13 日（金）15:00～17:00 於：東京農業大学

1. 2011 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
2. 2011 年度研究分科会活動計画（案）について
3. 2011 年度研究分科会報告大会について
4. 研究分科会マニュアル 2011 年度版について
5. 分科会関連業務分担について
6. 2011 年度私立大学図書館協会スケジュールについて
7. 協会ホームページについて
8. 研究分科会会員更新スケジュールについて

第2回 2011年11月18日(金) 15:00~17:00 於:早稲田大学

1. 夏期研究合宿(集中研究会)実施報告について
2. 2011年度研究分科会報告大会について
3. 新規研究分科会受付募集の中間報告について
4. 2012/2013年度研究分科会会員募集の中間報告について
5. 運営上の諸問題について

3. 研究会

2011年度研究分科会報告大会

日時:2011年12月15日(木) 10:00~16:40

2011年12月16日(金) 10:00~15:50

場所:明治学院大学 白金キャンパス パレットゾーン白金2F アートホール

参加数:67大学 168名

発表者:42名

研究発表:

第1日(12月15日)

西洋古版本研究分科会 (10:00~10:50)

テーマ:西洋古版本を見る眼~2010-2011年度 西洋古版本研究分科会活動報告~

発表者:山岸 拓郎(専修大学) 岡田 勢一郎(共立女子大学)

松谷 有美子(清泉女子大学)

和漢古典籍研究分科会 (10:55~11:45)

テーマ:和漢古典籍の書誌作成 ~NC入力への試みと無刊記本の刊年推定~

発表者:生田 陽子(学習院女子大学) 植苗 翔(中央大学)

高浜 みのり(獨協大学) 飯泉 慎也(専修大学)

理工学研究分科会 (13:00~13:50)

テーマ:学協会図書館研究 ~灰色文献を求めて~

発表者:内山 光子(日本大学) 平田 さくら(明治大学)

伊藤 親子(中央大学)

L-ラーニング学習支援システム研究分科会 (13:55~14:45)

テーマ:図書館員による図書館員のためのサブジェクト・リポジトリの可能性

~大学図書館員のメンターを目指して~

発表者:小田切 夕子(麻布大学) 金子 和代(早稲田大学)

パブリック・サービス研究分科会 (14:55~15:45)

テーマ:大学図書館の『資源』を活用した図書館サービス向上の方向性

発表者:加藤 庸介(文化学園大学) 嶋崎 尚代(昭和女子大学)

市川 さやか(法政大学) 撰 正弘(国立音楽大学)

塩瀬 雅博 (女子栄養大学) 杉本 正武 (成城大学)
武藤 恵子 (中央学院大学) 菅原 衣可 (中央大学)
池上 道代 (東洋英和女学院大学) 生澤 佳奈子 (獨協大学)
山田 裕子 (武蔵大学) 阿部 勝樹 (早稲田大学)

分類研究分科会 (15:50~16:40)

テーマ: 「使いやすいNDC」は実現可能か?

発表者: 藤倉 恵一 (文教大学)

第2日 (12月16日)

逐次刊行物研究分科会 (10:00~10:50)

テーマ: 逐次刊行物の蔵書構築について ~コアジャーナルと資料電子化の動向から~

発表者: 横山 友紀 (大東文化大学) 大関 学 (国立音楽大学)
片岡 真裕子 (東京農業大学) 蔵本 祐史 (東洋学園大学)
高橋 泰行 (大正大学) 田代 陽子 (日本女子大学)
田中 麻巳 (立正大学) 三上 彰 (桜美林大学)

レファレンス研究分科会 (10:55~11:45)

テーマ: ネット資源の評価に向けた指針策定

発表者: 原田 暁 (東洋大学)

情報リテラシー教育研究分科会 (13:00~13:50)

テーマ: 各校の現状に適した情報リテラシー教育の提供

発表者: 林 真紀 (東京都市大学) 今井 智子 (文化学園大学)
伊藤 史織 (大正大学)

研修分科会 活動報告 (13:55~14:45)

テーマ: 2011 研修分科会で学んだ事 ~講演、課題を通しての事例収集とグループ討議、見学ツアーの成果を実務に活かすために~

発表者: 奥井 翔太 (文化学園大学) 中根 聡一 (法政大学)
矢ヶ崎 理紗 (成城大学)

海外認定研修報告 (14:55~15:50)

テーマ: ハイデルベルク大学図書館の現地調査報告

発表者: 本間 通正 (東京理科大学)

テーマ: ハワイ大学マノア校シンクレア図書館における学習支援: ラーニングコミュニティの運用

発表者: 江原 つむぎ (立教大学)

見 学 明治学院大学 図書館

4. 研修委員会

研修委員（任期 2010 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

委員長 伊原 千秋（中央大学）

委員 夏井 友子（早稲田大学）

谷藤 優美子（慶應義塾大学）

金万 智昭（専修大学）

矢野 恵子（明治大学）

吉岡 享子（東京農業大学）（2011 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日）

アドバイザー 今村 昭一（早稲田大学）

第 1 回 2011 年 4 月 14 日（木）14：00～17：00 於中央大学

1. 2011 年度の研修委員会の日程と会場について
2. 2011 年度研修会の日程と会場および見学先について
3. 2011 年度研修会テーマについて

第 2 回 2011 年 5 月 12 日（木）14：00～17：00 於明治大学

1. 2011 年度の研修委員会の日程と会場について
2. 2011 年度研修会会場の件について
3. 2011 年度研修会テーマについて

第 3 回 2011 年 6 月 9 日（木）14：00～15：30 於慶應義塾大学

1. 2011 年度の研修委員会の日程と会場について
2. 2011 年度研修会について

第 4 回 2011 年 7 月 7 日（木）14：00～16：30 於東京農業大学

1. 2011 年度の研修委員会の日程と会場について
2. 2011 年度研修会について

第 5 回 2011 年 9 月 29 日（木）14：00～17：00 於専修大学

1. 2011 年度研修会参加申込状況について
2. 2011 年度研修会会場・動線の現地検分
3. 2011 年度研修会準備状況について
4. 第 6 回以降の研修委員会日程について

第 6 回 2011 年 10 月 13 日（木）14：00～17：00 於専修大学

1. 2011 年度研修会参加申込状況について

2. 2011 年度研修会準備状況について（最終確認）
3. 2011 年度研修会会場・動線の実地検分について
4. 第 7 回以降の研修委員会日程について

第 7 回 2011 年 12 月 14 日（水）15：00～17：00 於明治大学

1. 2011 年度研修会をふりかえって
2. 2012 年度研修委員会予算について
3. 第 8 回研修委員会の日程について

第 8 回 2012 年 3 月 1 日（木）15：00～17：00 於中央大学

1. 新旧研修委員自己紹介について
2. 研修委員会の役割と活動の再確認について
3. 新旧研修委員引継ぎについて
4. 2012 年度第 1 回研修委員会の日程について

5. 研修会

2011 年度研修会

期 日：2011 年 10 月 27 日（木）・28 日（金）

場 所：専修大学生田キャンパス 120 年記念館（9 号館）2 階 92A 会議室

テーマ：「読む」ということ

参加者：60 大学 68 名（いずれも延数）

内 容：

第 1 日（10 月 27 日）

基調講演：江戸の村にも図書館があった

専修大学史編集 主幹

青木 美智男

講 演：iPad で学術書が読めるか？～学術書の新しい読書体験

慶應義塾大学 理工学メディアセンター

島田 貴史

講 演：大学生の読書について考える

東京家政大学 教授

平山 祐一郎

第 2 日（10 月 28 日）

講 演：読書のイメージ：『読むこと』への意識と描き方

慶應義塾大学 文学部 准教授

安形 麻理

講 演：紙と電子メディア：読みの作業効率と環境負荷の比較

富士ゼロックス株式会社研究技術開発本部

柴田 博仁

講 演：書物と読者をつなぐもの

特別企画：ポスター展示

見 学：専修大学図書館

6. 研究分科会

次の9研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施した。

(2010年4月1日～2012年3月31日)

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (6) 西洋古版本研究分科会 |
| (2) 逐次刊行物研究分科会 | (7) 和漢古典籍研究分科会 |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (8) 情報リテラシー教育研究分科会 |
| (4) レファレンス研究分科会 | (9) Lーラーニング学習支援システム研究分科会 |
| (5) 理工学研究分科会 | |

休会：図書館運営戦略研究分科会 企画広報研究分科会

研究分科会月例担当理事校 神奈川大学

研究分科会更新担当理事校 日本女子大学

7 研修分科会

大学図書館のアウトソーシング化が進んでいる現在、図書館職員として現状を多角的に分析し、評価し、実現する能力が必要とされてきている。委託外注や電子化、学術情報流通、利用者サービス等について、広い視点で大学図書館の現状を考えることを目的とし、専任の大学図書館職員に求められる基礎知識を学び、自ら探求することを毎回のテーマとする。

この研修は、NPO 法人大学図書館支援機構の企画/運営で行い、研究部担当理事校がこれを管理する。

募集人数：32 名

開催日：2011年度内 全6回 1回4時間 (13:00～17:00)

5月下旬, 7月上旬, 夏に見学ツアー1日(8月下旬)9月, 11月, 12月

水曜日・木曜日

開催場所：東京農業大学図書館ほか

《2011 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：6名（正会員4名，個人会員2名）

会 員：上條 庸子（女子栄養大学） 鈴木 学（日本女子大学）
藤倉 恵一（文教大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学）

以上正会員

小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化学園大学）

以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：54名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は、前期後半の研究を継承し、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の「日本十進分類法 (NDC)」新訂 10 版の試案について検証と評価、および必要な提言をすることをメインテーマとし、『使いやすい NDC』は実現可能か？』とする。また、そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

2) 活動の概要

分類研究分科会は 2 年間で (1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括 の 3 つの期間に分けて活動する。

2010 年度は第 1 期から第 2 期、2011 年度は第 2 期から第 3 期の活動を行う。

2. 1) 第 2 期 日本十進分類法試案の検証

第 2 期の活動として、前期からの継続課題である「日本十進分類法新訂 10 版試案の概要」の検討を行った。

試案については、時系列で以下のように公開されている。また試案は『図書館雑誌』のページ構成上、各 4 ページという制約があるが、日本図書館協会分類委員会ホームページ (<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/187/Default.aspx>) 上では、PDF および HTML で雑誌掲載のものより詳細なものが公開されている。分科会での検討にはこの Web 版を使用した。以下「試案」とはこの Web 版のことを指す。

- ・ その 5 1 類「哲学」の部 図書館雑誌 104(9) p.625-628, 2010.9
- ・ その 6 5 類「技術」の部 図書館雑誌 105(5) p.296-299, 2011.5

また、「使いやすい NDC」の具体像をつかむためには、その利用指針となる「解説」の改

善も不可避であることから、9 版本表編に掲載された「解説」について精読を行い、内容を検討することによって「解説」の問題点を抽出した。

これら検討の結果を、NDC 全体に関わる課題と各類改訂試案、「解説」個々に対する課題とに整理し、2012 年 2 月 1 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見：1 類・5 類および 9 版「解説」について」として日本図書館協会分類委員会に提出した。また、分類委員会より意見書への回答として、同 2 月 28 日付「日本十進分類法新訂 10 版試案に対する意見（回答）」を受理した。

なお、この研究は試案の公開に応じて次期以降も継続する。

2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第 2 期の活動に関連して NDC10 版改訂試案が既存の出版物の分類にどの程度の影響を及ぼすかを推測するために、2009 年度同様の手法を用いて『出版年鑑』をサンプルとした実証実験を行った。

2. 3) 第 3 期 今期のまとめとして

今期の活動計画のメインテーマに掲げた「使いやすい NDC」の具体像は、討議を通じて「利用者のタイプにみあった使いやすさ」「機能面からみた使いやすさ」「物理的形態としての使いやすさ」とそれぞれの視点から課題が提示された。よって、会期末の研究発表はこれを主たるテーマとして『『使いやすい NDC』は実現可能か?』と題して行った。

前期同様、会員個人およびその所属館に対しては、試案の集中的検討と批評を通じて NDC への理解が深まったことから、スキルの向上と業務への反映が一定量達成しえただろう。

さらに分類委員会に行った提言は、今後の審議や各類の検討にある程度の反映が期待されることから、図書館界への貢献もできた研究内容であったと自負するものである。

2. 4) 会場記録

2011 年 4 月 15 日（金） 清泉女子大学
5 月 20 日（金） 女子栄養大学（坂戸）
6 月 17 日（金） 日本女子大学（西生田）
7 月 22 日（金） 清泉女子大学
9 月 7 日（水）～9 日（金） いこいの村へリテイジ美の山（埼玉県秩父郡）
9 月 16 日（金） 女子栄養大学（坂戸）
10 月 15 日（金） 清泉女子大学
11 月 25 日（金） 文教大学（越谷）
12 月 10 日（土） 日本女子大学（目白）
2012 年 2 月 17 日（金） 女子栄養大学（駒込）
3 月 23 日（金） 文教大学（旗の台）

資料

1) 刊行物

特にない。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2011（第 21 回整理技術・情報管理等研究集会）の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ（現・情報組織化研究グループ）により始められた TP&D フォーラムは、第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画し

てきた。2011 年度は熱海で開催され、分科会からは藤倉（実行委員）・上條・小林の 3 名が出席した。

フォーラムの参加者は教員，図書館員，データベース業者などさまざまであり，これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握，(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流，(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお，2012 年度は 8 月 17・18 日に京都にて開催される予定である。

イ．日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より，分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって，分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができるし，逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお，2009 年度以降の活動の中心となっている NDC 試案に対する批評については，編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表している。

2. 逐次刊行物研究分科会

代表者：横山友紀（大東文化大学）

会員数：8名

会 員：横山友紀（大東文化大学） 大関 学（国立音楽大学）
田代陽子（日本女子大学） 高橋泰行（大正大学）
蔵本祐史（東洋学園大学） 片岡真裕子（東京農業大学）
田中麻巳（立正大学） 三上 彰（桜美林大学）

年会費：2011年度は徴収せず

例会開催回数：26回〔夏期研究合宿・臨時例会・特別例会・研究報告大会含む〕

延べ参加人数：157名（講演会講師含む）

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org./e-kenkyu/chikukan/>

活動

1) 基本テーマ

- ・電子ジャーナル、オンラインデータベース等の導入にともなう、逐次刊行物の蔵書構成の変化
- ・電子ジャーナルを含めた雑誌の提供のあり方や利用者教育・利用促進について
- ・オープン・アクセスや機関リポジトリの今後の発展の動向について

2) 活動の概要

2010年度は、個人研究発表や業務についての情報交換等を通して、電子リソースの普及・導入にともなう逐次刊行物の蔵書構成の変化等、逐次刊行物の全体的な動向について参加会員相互で理解を深め合ってきた。

2011年度は、それらを踏まえて「電子ジャーナルを含めた学術雑誌におけるコア・ジャーナルの再考と、所蔵状況の調査」（コア・ジャーナル研究グループ〔以下「コア・ジャーナルグループ」〕）、および、「逐次刊行物を中心とした電子化された資料の今後の可能性とその提供方法について」（資料電子化の動向研究グループ〔以下「電子化グループ」〕）の2つのテーマについて、グループ研究に取り組み、12月の研究報告大会で報告を行なった。また、2年間の活動記録を含めた報告集の刊行準備に取り組んだ。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会 2011年4月19日（火） 東京農業大学世田谷キャンパス 図書館

- ・事務連絡
- ・2011年度分科会活動予定について
- ・課題発表、分科会としての研究方針の協議
- ・各研究グループでの研究方針の協議（各グループのメンバーは下記のとおり）
コア・ジャーナルグループ：大関・田中・横山
電子化グループ：田代・片岡・蔵本・高橋・三上

5月例会 2011年5月17日（火） 国立音楽大学図書館

- ・事務連絡
- ・グループ研究（報告・討議）
- ・図書館見学

- 6月例会 2011年6月21日(木) 大東文化大学図書館
- ・事務連絡
 - ・グループ研究(報告・討議)
 - ・夏期研究合宿で取り組む作業内容やスケジュールについての検討
- 7月特別例会 2011年7月7日(木) 東京農業大学世田谷キャンパス 図書館
- ・講演: 研修分科会: 大学図書館間の連携について
「大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の設立と今後の活動について」
講師 守屋文葉氏(国立情報学研究所)
 - ・グループ研究(報告・討議)
- 7月例会 2011年7月12日(火) 立正大学大崎キャンパス 図書館
- ・事務連絡
 - ・グループ研究(報告・討議)
 - ・夏期研究合宿で取り組む作業内容や進め方についての検討
- 7月臨時例会 2011年7月19日(火) 桜美林大学四谷キャンパス
- ・夏期研究合宿で取り組む作業内容や進め方についての検討・確認
- 8月臨時例会(コア・ジャーナルグループ)
2011年8月4日(木) 大東文化大学図書館
- ・グループ研究のための調査
- 8月夏期研究合宿 2011年8月24日(水)～26日(金) 湯本富士屋ホテル
- ・グループ研究、および、研究報告大会の発表準備
(コア・ジャーナルグループ)
「各分野において教育研究上備えるべき基本的な雑誌」のタイトルリスト作成とそのための手法の確立について作業を進めた。
(電子化グループ)
主に2006年以降の電子ジャーナルやオンラインデータベースの普及状況や、資料電子化への国内外の様々な動向などを概観して、体系的なまとめを行なった。
- 9月臨時例会(電子化グループ)
2011年9月15日(木) 桜美林大学四谷キャンパス
- ・研究報告大会の発表内容の構成検討
- 10月例会 2011年10月4日(火) トムソン・ロイター・プロフェッショナル株式会社(千代田区)、
東洋学園大学本郷キャンパス図書館
- ・トムソン・ロイターセミナー: 「Web of Science と学術雑誌の評価」
講師 高杉友氏、広瀬容子氏(トムソン・ロイター)
 - ・事務連絡
 - ・グループ研究(報告・討議)
- 10月臨時例会(電子化グループ)
2011年10月13日(木) 桜美林大学四谷キャンパス
- ・研究報告大会の発表内容の構成検討、および、発表資料作成

- 10月臨時例会（コア・ジャーナルグループ）
2011年10月19日（水） 立正大学大崎キャンパス 図書館
・グループ研究および作業（タイトルリストの作成作業）
- 11月臨時例会（電子化グループ）
2011年11月8日（火） 桜美林大学四谷キャンパス
・研究報告大会に向けた発表資料の作成
- 11月例会 2011年11月15日（火） 日本女子大学西生田図書館
・事務連絡
・グループ研究（報告・討議）
・研究報告大会の発表内容の検討・調整
- 11月臨時例会（コア・ジャーナルグループ）
2011年11月21日（月） 立正大学大崎キャンパス 図書館
・グループ研究および作業（タイトルリストの作成作業）
- 11月臨時例会（電子化グループ）
2011年11月29日（火） 桜美林大学四谷キャンパス
・研究報告大会に向けた発表資料の作成
- 11月臨時例会（コア・ジャーナルグループ）
2011年11月30日（水） 立正大学大崎キャンパス 図書館
・グループ研究および作業（タイトルリストの作成作業）
- 12月例会 2011年12月6日（火） 日本女子大学西生田図書館
・事務連絡
・研究報告大会の発表準備
- 12月臨時例会 2011年12月13日（火） 桜美林大学四谷キャンパス
・研究報告大会の発表リハーサル
- 12月臨時例会（コア・ジャーナルグループ）
2011年12月14日（水） 立正大学大崎キャンパス 図書館
・研究報告大会の発表の最終調整および最終確認
- 12月臨時例会 2011年12月15日（木） 桜美林大学四谷キャンパス
・研究報告大会の発表リハーサルおよび最終確認
- 12月研究報告大会 2011年12月16日（金） 明治学院大学白金キャンパス
パレットゾーン白金2Fアートホール
・研究報告大会にて研究分科会活動および研究成果の発表
- 1月例会 2012年1月17日（火） 大正大学図書館
・事務連絡
・研究報告大会の発表の反省
・『私立大学図書館協会会報』掲載用の研究報告大会発表要旨の作成について

・報告集『逐次刊行物研究分科会報告』の作成・刊行について

2月臨時例会 2012年2月16日(木) 桜美林大学四谷キャンパス、
喫茶室ルノアール四谷店

・『私立大学図書館協会会報』掲載用の研究報告大会発表要旨の編集・校正作業

2月臨時例会(電子化グループ)

2012年2月21日(火) 喫茶室ルノアール新宿ハルク横店

・『私立大学図書館協会会報』掲載用の研究報告大会発表要旨の最終確認

3月例会 2012年3月13日(火) 東京農業大学世田谷キャンパス

・活動報告書・会計報告書の作成・確認

・報告集『逐次刊行物研究分科会報告』の作成・刊行について

・研究分科会活動のふりかえりとまとめ

2) 刊行物及び事業

2012年夏期『逐次刊行物研究分科会報告』刊行予定

3. パブリック・サービス研究分科会

代表者：加藤 庸介（文化学園大学図書館）

会員数：12校12名

会 員：撰 正弘（国立音楽大学附属図書館・合宿担当）

嶋崎 尚代（昭和女子大学図書館・副代表）

塩瀬 雅博（女子栄養大学図書館・会計担当）

武藤 恵子（中央学院大学図書館）

菅原 衣可（中央大学図書館・合宿担当）

池上 道代（東洋英和女学院大学図書館・HP担当）

生澤佳奈子（獨協大学図書館・合宿担当）

加藤 庸介（文化学園大学図書館・代表）

市川さやか（法政大学多摩図書館・副代表）

山田 裕子（武蔵大学図書館）

阿部 勝樹（早稲田大学中央図書館・会計担当）

杉本 正武（成城大学図書館・HP担当）

年会費：8,000円（正会員）

例会開催回数：10回（夏期研究合宿含む）

延べ参加人数：111人

ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/public/index.htm>

活動

1) 基本テーマ

知識と情報の共有化を目的に、講義を通じて図書館業務を遂行する上で必要とされる知識・技能の修得に努める。また、大学図書館を取り巻く環境の変化について、国内外の情報を収集・理解・分析し、今後の日本の大学図書館の方向性を確認する。

2) 活動の概要

今年度は、12月の研究報告大会に向けてグループ研究を中心として活動した。図書館に関する知識の向上に加え、人的ネットワークの更なる拡充、調査研究の進め方の習得、論理構築力の養成など複合的な能力の向上を目指した。前年度に引き続き講義も行い、図書館業務を遂行する上で必要とされる知識・技能・感性の修得に努めた。

①講義

その時々々の図書館界の動向、会員の興味に合わせたテーマに応じて講師を招聘し、受講した。

②グループ研究

今回は「大学図書館の『資源』を活用した図書館サービス向上の方向性」というテーマのもと、「業務委託と専門性」研究グループと、「図書館力」研究グループ、2つの研究グループに分かれて研究した。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会：4月25日（月）13:00～17:00 文化学園大学（新都心キャンパス）

①文化学園大学図書館見学

②グループ研究

5月例会：5月27日（金）10:00～17:00 文化学園大学（新都心キャンパス）

- ①「文化学園大学図書館のコレクションと貴重書デジタルアーカイブの紹介」
文化学園大学図書館司書長 柳沼恭子氏
- ②「大学図書館の経営戦略：Library for Sustainable Development」
慶応義塾高等学校事務長 加藤好郎氏
- ③文化学園大学図書館ほか施設見学
- ④グループ研究

6月例会：6月23日（木）10：00～17：00 昭和女子大学

- ①「大学図書館の管理・運営から大学図書館経営へ」
慶応義塾高等学校事務長 加藤好郎氏
- ②グループ研究

7月例会：

7月21日（木）10：00～17：00 昭和女子大学

I. 「業務委託と専門性」研究グループ

- ①「受託企業の委託業務への取り組み」
ナカバヤシ(株)、(株)有隣堂、(株)キャリアパワー

7月28日（木）10：00～17：00

II. 「図書館力」研究グループ

- ①神田外語大学図書館見学
- ②グループ研究

夏期研究合宿：8月24日（水）～26日（金） 河口湖（山梨）

- ①「アメリカの大学図書館の現状」 慶応義塾高等学校事務長 加藤好郎氏
- ②グループ研究

10月例会：10月19日（木）10：00～17：00 武蔵大学

- ①武蔵大学図書館見学
- ②グループ研究

11月例会：11月17日（木）10：00～17：00 中央大学

- ①中央大学図書館見学
- ②グループ研究

12月例会：12月8日（木）9：30～17：00 早稲田大学

- ①早稲田大学図書館見学
- ②研究報告大会リハーサル

1月例会：1月19日（木）13：00～17：00 中央学院大学

- ①中央学院大学図書館見学
- ②グループ研究

3月例会：3月14日（水）10：00～17：00 早稲田大学

- ①早稲田大学図書館見学
- ②「情報を扱う職業はおもしろい：ライブラリアンへの誘い」
慶応義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

2) 刊行物及び事業

2010-2011 年度パブリック・サービス研究分科会活動報告書

4. レファレンス研究分科会

代表者：原田暁（東洋大学附属図書館）

会員数：7名

会 員：（正会員） 井口 良子（國學院大學） 石山 光明（創価大学）
小倉 宇思（武蔵大学） 鈴木 学（日本女子大学）
中田 真美子（専修大学）
（ML会員） 黒田 真理（大正大学）

年会費：1,000円

例会開催回数：11回（内訳：月例会10回、夏期研究合宿（集中研究会））

延べ参加者数：72名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/reference/>

活動

1) 基本テーマ

各会員の所属する図書館の状況（図書館サービスの体制、レファレンス業務の状況など）について情報交換することから各会員間の相互理解を深めていき、事例研究、文献レビューなどを行う。その後、それぞれの興味や問題意識をできるだけ生かせるような全体の研究テーマを設定して、研究活動に力を入れる。上記を基本的スタントした上で、研究テーマを「ネット資源の評価に向けた指針の策定」とした。

2) 活動の概要

○2年目の活動概要

2年度の期間中で、1年目は以下の活動を中心として活動した。

- ・会員の基礎理解度を整える
- ・研究課題を設定する
- ・研究課題にとりくむ

2年目は今期の活動最後の年の為、引き続き研究テーマにとりくみ、成果をまとめることを活動の中心とした。

○月例会

月例会：毎月第2金曜日を原則として月例会を開催する

※8月・翌2月は休会とする

合 宿：集中研究会を夏期に開催する

会 場：月例会の会場は会員所属機関の施設を使用することを原則とする

○夏期集中研究

「ネット資源の評価に向けた指針策定」に向けた検証実験

今年度は会員同士の日程が合わなかったため、宿泊を伴わない集中研究会とすることになった。すでに進めている研究課題に集中的に取り組むため、事前に同じ内容の演習問題をウェブ資源のみで調査し、回答に至るまでにどのような問題点・共通項が出てくるかなどを検証した。課題に取り組むにあたり、調査用のシートを作成し、各項目をうめることで検証を重ね、自の調査結果の報告を確認しながら、参照した情報資源に対する評価を行った。その結果、ネット資源の評価に向けた指針策定のための方法論を研究成果としてまとめる。

○研究テーマ「ネット資源の評価に向けた指針策定」に向けた検証実験

レファレンス事例とその解決に向けたプロセスにネット上の情報資源をどのように活用できるか、回答にあたってのその信頼性について確認することは、質問回答型

のレファレンスサービスに必要と思われる。具体的にレファレンスのテキストからの演習問題をサンプルとして、ネット上の情報資源でどれだけ解決できるか。検証事例を集計することで傾向をとらえ、それを元に「指針」として提案していこうという活動である。

・使用テキスト

木本幸子編；木本幸子 [ほか] 共著. 『レファレンスサービス演習 ー改訂版ー』
樹村房, 2004. 8 (新・図書館学シリーズ ; 5)

○研究発表大会における研究成果の発表

12月16日(金) 明治学院大学にて研究成果を発表。

資料

1) 月例会テーマ [月日・会場・テーマ等]

○月例会開催について (2011年度: 2011年4月~2012年3月)

	開催日	会場機関 (キャンパス名等)
4月例会	4月22日 (金)	創価大学 (八王子キャンパス)
5月例会	5月27日 (金)	大正大学
6月例会	6月24日 (木)	日本女子大学 (目白キャンパス)
7月例会	7月8日 (金)	武蔵大学
9月例会	9月30日 (金)	國學院大學 (渋谷キャンパス)
10月例会	10月19日 (金)	創価大学 (八王子キャンパス)
11月例会	11月15日 (火)	國學院大學 (渋谷キャンパス)
12月例会	12月9日 (金)	日本女子大学 (目白キャンパス)
1月例会	1月27日 (金)	専修大学 (生田キャンパス)
3月例会	3月2日 (金)	日本女子大学 (目白キャンパス)

○夏期集中研究会開催について

8月11日(木)、12日(金)、29日(月) 大正大学

○月例会・夏期集中研究の研究テーマについて

研究テーマ「ネット資源の評価に向けた指針策定」に向けた検証実験及び集計。

2) 刊行物及び事業

○刊行物

- ・レファレンス研究分科会ニュース (月1回)

配布先: 分科会会員、OBOG 会員宛てに、メール添付文書にて配信

※購読希望者のみ

内容: 事務連絡、前回例会の記録、次回例会のレジュメ、図書館見学記等。

- ・レファレンス研究分科会報告書 2010-2011

○事業

- ・施設見学

月例会開催の他に、会員所属機関内の研究施設等の見学を行う

4月22日(金)	創価大学理工学部図書館
9月30日(金)	國學院大學内神道教育施設各所
10月19日(金)	創価大学語学教育施設各所
11月15日(火)	資料館 (伝統文化リサーチセンター)

5. 理工学研究分科会

代表者：内山光子（日本大学）

会員数：3名（正会員：3名）

会 員：内山光子（日本大学）
平田さくら（明治大学）
伊藤親子（中央大学）

年会費：なし

例会開催回数：4回

延べ参加者数：17名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/rikogaku/>

活動

1) 基本テーマ

理工学系図書館における各種資料の研究と利用者サービス研究

2) 活動の概要

昨年度に引き続き学協会図書館のサービスや電子化の状況等の調査を行い、夏期集中研究会にて2か所の学協会図書館を見学した。続いて理工系資料に特化した公共図書館である神奈川県立川崎図書館を見学した。一期2年間の学協会図書館研究の結果は研究報告大会にて発表した。他にWeb環境下における理工系レファレンス資料の現状調査を行った。

正会員が少数なため、メーリングリスト（以下ML）による活動を中心に行い、集中研究会や図書館見学の際には、会員以外にも参加を呼びかけた。

資料

1) 月例会テーマ

5月例会 平成23年5月25日(水) 14:00-17:00
中央大学図書館都心キャンパス事務室（後楽園） 参加者3名

- ①平成23年度活動計画について
- ②図書館見学

9月例会 平成23年9月13日(月) (夏期集中研究会) 参加者4名
学協会図書館見学

- ①日本機械学会図書室 10:00～12:00
- ②日本化学会化学情報センター 14:00～15:30

10月例会 平成23年10月25日(火) 神奈川県立川崎図書館 参加者7名
①講演：神奈川県立川崎図書館における理工学資料の収集・提供について
②図書館見学

11月例会 平成23年11月22日(火) 明治大学図書館 参加者3名
①研究報告大会準備
②図書館見学

2) 刊行物及び事業

「理工学文献探索データベース Rikoo!」 <http://www.rikoo.jp/index.php>

6. 西洋古版本研究分科会

代表者：山岸拓郎（専修大学）

会員数：3名

会 員：山岸拓郎（専修大学）

松谷有美子（清泉女子大学）

岡田勢一郎（共立女子大学）

年会費：1,500円

例会開催回数：12回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加人数：54名

研究分科会ホームページ URL：http://www.jaspul.org/e-kenkyu/early_p_book/

活動

1) 基本テーマ

- ①西洋古版本に関する書誌学的研究（書誌学的知識の習得も含む）
- ②図書館で西洋古典資料を扱う際に必要な知識の習得

2) 活動の概要

西洋古版本に関する文献を読み基礎知識習得に努めるとともに、講演会や展示にも参加し理解を深めた。会員の所属機関が所蔵する西洋古版本を用いて資料整理の実践を行った。

資料

1) 月例会テーマ

4月例会

4月26日（火） お茶の水女子大学 参加者4名

- ①今年度の活動計画
- ②参考文献・ツールについての紹介
- ③次回の月例会について打合せ

5月例会

5月27日（金） 文化学園大学 参加者15名

- ①柳沼恭子氏「文化学園大学図書館のコレクションと貴重書デジタルアーカイブの紹介」聴講
- ②加藤好郎氏「大学図書館の経営戦略策定」聴講
- ③図書館見学

6月例会

6月22日（水） お茶の水女子大学 参加者4名

- ①研究発表
- ②手書き文字の学習
- ③ラテン語の学習

7月例会

7月27日（水） 清泉女子大学 参加者3名

- ①大会報告内容の検討
- ②夏期集中研修会の打合せ

8月例会

8月19日（水） 専修大学 参加者4名

- ①大会報告内容の検討
- ②インキュナブラ調査
- ③平正人氏「フランス革命木の図書館整備事業—没収図書をめぐる論争」聴講

9月夏期集中研修会

9月13日（火）～14日（水） 共立女子大学 参加者3名

- ①大会報告内容の検討
- ②大会報告資料の作成
- ③大会報告の予行演習

10月例会

10月12日（水） 専修大学 参加者3名

- ①インキュナブラ調査
- ②大会報告資料の作成
- ③大会報告の予行練習

11月例会

11月29日（火） 専修大学 参加者4名

- ①インキュナブラ調査
- ②大会報告資料の作成
- ③大会報告の予行練習

12月例会

12月9日（金） 明治学院大学 参加者3名

- ①大会報告会場下見
- ②大会報告予行練習
- ③大会報告資料の作成

1月例会

1月25日（水） 清泉女子大学 参加者4名

- ①貴重書調査
- ②次回の月例会について打合せ

2月例会

2月20日（月） 共立女子大学 参加者3名

- ①報告大会要旨の作成
- ②次回の月例会について打合せ

3月例会

3月9日（金） 国際基督教大学、印刷博物館 参加者4名

- ①貴重書調査
- ②活版印刷体験

2) 刊行物及び事業

なし

7. 和漢古典籍研究分科会

代表者： 鶴田香織（大東文化大学）

会員数： 8校8名 + 講師1名

会 員： 鶴田 香織（大東文化大学） 生田 陽子（学習院女子大学）
飯泉 慎也（専修大学） 井形恵美子（駒澤大学）
植苗 翔（中央大学） 佐藤 ゆう（大正大学）
高浜みのり（獨協大学） 長谷川美樹（文教大学）
高橋良政講師（元日本大学）

年会費： 2,000円

例会開催回数： 11回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加者数： 102名

研究分科会ホームページURL： <http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kotenseki/index.html>

活動

1) 基本テーマ

日本・朝鮮・中国で刊行された和漢古典籍についての書誌学的研究を通じて、大学図書館員としての知識を深め、目録作成等の技能の向上を図る。

2) 活動の概要

- ・ 古典籍・書誌学について知識を得るため、基礎的文献をテキストとして書誌用語発表。今年度テキスト： 廣庭基介，長友千代治著『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社，1998
- ・ 会場校所蔵の古典籍について、実際に調書を作成してみる。適宜講師の批評・指導を受けた。
- ・ 研究報告大会に向けての準備。テーマ、発表内容を数度の例会で検討。今期は、目録を作成する上で問題となる無刊記本の刊年推定方法と、現在必要性が増している古典籍資料の書誌データ化をテーマとした。他に和漢古典籍資料の見学会に参加した。

資料

1) 月例会テーマ

第1回： 2011年4月15日（金） 於専修大学図書館・参加9名

- ①天理ギャラリー、印刷博物館で行われる企画展の見学について検討
- ②漢籍データベース協議会参加報告
- ③テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表
- ④専修大学図書館企画展見学
- ⑤調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第2回： 2011年5月20日（金） 於天理ギャラリー、印刷博物館・参加9名

- ①天理ギャラリー見学
- ②印刷博物館見学

第3回： 2011年6月17日（金） 於学習院女子大学図書館・参加9名

- ①夏季集中研究会の日程検討
- ②報告大会のテーマ決定
- ③調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第4回： 2011年7月15日（金） 於中央大学図書館・参加9名

- ①夏期集中研究会の日程・内容の検討
- ②研究報告大会発表準備

夏期集中研究会第1回：2011年8月2日(火) 於中央大学図書館・参加9名

①研究報告大会発表準備

夏期集中研究会第2回：2011年9月12日(月)～13日(火)

於大東文化大学図書館・参加12日8名、13日9名

①研究報告大会事務連絡

②研究報告大会発表準備

③研究報告大会発表者、議題等決定

第5回：2011年10月21日(金) 於大正大学附属図書館・参加8名

①研究報告大会事務連絡

②研究報告大会発表準備

第6回：2011年11月25日(金) 於獨協大学図書館・参加8名

①研究報告大会事務連絡

②研究報告大会準備と発表リハーサル

第7回：2011年12月2日(金) 於駒澤大学図書館・参加9名

①研究報告大会事務連絡

②研究報告大会準備と発表リハーサル

第8回：2012年1月20日(金) 於文教大学越谷図書館・参加9名

①図書館見学

②目録学の講義

第9回：2012年3月9日(金) 於大東文化大学図書館・参加6名

①和漢古典籍研究分科会ホームページの更新内容確認

②調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成

2) 刊行物及び事業

なし

8. 情報リテラシー教育研究分科会

代表者：林 真紀（東京都市大学）

会員数：3名

会 員：伊藤 史織（大正大学）
今井 智子（文化学園大学）

年会費：無し

例会開催回数：10回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：27名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/joholite/index.html>

活動

1) 基本テーマ

- ・情報リテラシー教育とは何か？
- ・大学図書館における情報リテラシー教育とは何か？
- ・各校の現状に適した情報リテラシー教育の提供とは何か？

2) 活動の概要

前半：研究テーマ「参加各校の情報リテラシー教育の向上」

- ・各館の事例調査および問題点・改善策を検討。
- ・情報リテラシー教育とは何かについて、調査・研究。
- ・情報リテラシー教育実施状況チェック表の作成に着手。

後半：研究テーマ「各校の現状に適した情報リテラシー教育の提供」

- ・各校の情報リテラシー教育実施内容詳細の調査・比較検討。
- ・公共図書館における情報リテラシー教育の取り組みについて、調査・研究。
- ・大学図書館における情報リテラシー教育について、調査・研究。

資料

1) 月例会テーマ

第1回月例会

開催日：2011年4月20日（水）

会 場：東京都市大学世田谷キャンパス図書館

テーマ：①連絡事項等確認

②「情報リテラシー教育チェック表」作成について

第2回月例会

開催日：2011年5月25日（水）

会 場：大正大学附属図書館

テーマ：①連絡事項等確認（2011年度第1回運営委員会・分科会代表者
合同会議の内容伝達、7月の月例会日程調整）

②文教大学図書館のガイダンスの事例紹介

③課題「情報リテラシー教育チェック表」作成の発表

④今後の取り組み（次回までの課題）について

第3回月例会

開催日：2011年6月24日（金）

会 場：文化学園大学図書館

- テーマ：①連絡事項等確認（8月の月例会日程調整）
②各大学の情報リテラシー教育の現状比較
③夏期集中研究会の実施について

第4回月例会

- 開催日：2011年7月22日（金）
会場：東京都市大学世田谷キャンパス図書館
テーマ：①連絡事項等確認（8、9、10月の月例会日程調整）
②各大学の情報リテラシー教育実施チェック表の活用について
③夏期集中研究会の実施内容の検討

夏期集中研究会

- 開催日：2011年9月15日（木）16日（金）
会場：文化学園大学図書館
テーマ：第1日目：研究分科会報告大会の発表準備。
第2日目：1. 国立、区立の公共図書館で実施されている
利用教育の調査。
<見学先>
国立国会図書館、千代田区立図書館。
2. 研究分科会報告大会の発表準備。

第5回月例会

- 開催日：2011年10月21日（金）
会場：大正大学附属図書館
テーマ：研究分科会報告大会発表用資料作成

第6回月例会

- 開催日：2011年11月10日（木）
会場：文化学園大学図書館
テーマ：研究分科会報告大会発表用資料作成

第7回月例会

- 開催日：2011年12月9日（金）
会場：大正大学附属図書館
テーマ：研究分科会報告大会発表用資料作成およびリハーサル

第8回月例会(臨時)

- 開催日：2011年12月13日（火）
会場：大正大学附属図書館
テーマ：研究分科会報告大会最終打合せ

第9回月例会

- 開催日：2012年3月16日（金）
会場：東京都市大学世田谷キャンパス図書館
テーマ：①連絡事項等確認
・2011年度活動報告書の提出について
・次期分科会の休会について

- ・2011 年度会計報告について
 - ・ホームページの更新について
- ②分科会ホームページの掲載内容について

2) 刊行物及び事業
特になし。

9. Lラーニング学習支援システム研究分科会

代表者：小田切夕子（麻布大学）

会員数：2校2名

会 員：小田切夕子（麻布大学） 金子和代（早稲田大学）

年会費：無し

例会開催回数：2回

延べ参加者数：4名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/l1s/>

活動

1) 基本テーマ

大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築並びに評価、分析

2) 活動の概要

「大学図書館員のためのリポジトリ」を図書館員のための問題発見と課題解決に役立つ学習支援システムとし機能させるために、その基礎研究として PBL(Problem-based learning あるいは Project-based learning)に関する文献調査を行い、研究概念の整理とシステム運用のための枠組の検討を行った。また、「研修分科会」へ当リポジトリを提供し、コンテンツ収集をはかるとともに、研修分科会内での課題の割り当てや集約などに利用してもらった。

資料

1) 月例会テーマ

第1回例会

2011年9月12日（月）15:30-17:30 国立公文書館ほか

1. 国立公文書館見学 2. 事務連絡 3. 12月報告大会について

第2回例会

2011年11月10日（木）10:00-18:00 パシフィコ横浜

1. 事務連絡 2. 図書館総合展見学 3. 図書館総合展フォーラム参加 4. 12月報告大会原案作成準備

2) 刊行物及び事業

【TakaQによるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/takaq/>

【XoopsによるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/xoops/>

【MoodleによるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/moodle/>

【携帯電話によるLラーニング】

<http://l-learning.jp/i/>

【大学図書館員のためのリポジトリ】

<http://www.l-learning.jp/xoonips/>

《2011 年度研修分科会活動報告》

研修分科会

代表者：合田 豊二（研究部担当理事校：東京農業大学）

会員数：29 名

会 員：赤間 廣子(青山学院大学)	椎名 由美(青山学院大学)
下大沢 葉子(跡見学園女子大学)	村上 祐司(桜美林大学)
内藤 沙織(学習院大学)	中村 裕史(神奈川大学)
中村 裕史(神奈川大学)	山岸 いづみ(共立女子大学)
柄田 明美(国立音楽大学)	田中 優美(駒澤大学)
関口 千登世(城西大学)	福庭 規子(上智大学)
杉本 正武(成城大学)	矢ヶ崎 理紗(成城大学)
七島 美和子(専修大学)	武政 朗子(中央大学)
荒木 幸弘(東海大学)	富樫 早苗(東海大学)
伊藤 真実(東京音楽大学)	畑川 直哉(東京農業大学)
野川 夢美(桐朋学園大学)	熊倉 武(獨協医科大学)
宮原 柔太郎(日本体育大学)	奥井 翔太(文化学園大学)
中根 聡一(法政大学)	伊能 秀明(明治大学)
菅居 道昭(明治学院大学)	青野 有香里(立教大学)
林 佐智世(麗澤大学)	

※ 登録会員の参加が困難な場合は、所属機関より、各回、別の者が受講することも可能。

年会費：5,000 円

開催回数：6 回

延べ参加者数：146 名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/el-ken-b/>

活動

1) 基本テーマ

発展し続ける情報化社会の中で大学図書館職員にとって必須の基本的知識を実態に即した技術として習得することをテーマに、既存の研究分科会参加の準備機能を持つ場として 2009 年度に新設された。

研修内容と目的概略

- ① 大学の中で、図書館員の役割を理解できるようにする。
- ② 利用者に必要な情報を組織的かつ迅速に対応できるようにする。
- ③ 情報化社会の最新情報に到達し実務に反映できるようにする。

2) 活動の概要

研修は NPO 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議等を実施する。

資料

1) 月例会テーマ

第 1 回 2011 年 5 月 26 日（木） 東京農業大学（世田谷）

講 演： 機関リポジトリ
(東京歯科大学：阿部 潤也 氏)

実 習： L-ラーニング研究分科会 図書館員のためのリポジトリ
(L-ラーニング学習支援システム研究分科会代表：小田切 夕子 氏)

第2回 2011年7月7日(木) 東京農業大学(世田谷)

課題: 節電対策について

講演: 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の設立と今後の活動について
(国立情報学研究所: 守屋 文葉 氏)

実習: 節電対策を考える

(NPO 法人大学図書館支援機構: 高野 真理子 氏)

事例報告: 東京農業大学図書館新館建築計画

(東京農業大学: 畑川 直哉 氏)

第3回 2011年8月24日(水) 夏季見学ツアー

見学先: 国立公文書館

国立国会図書館国際子ども図書館

東洋文庫

第4回 2011年9月22日(木) 専修大学(生田)

課題: アウトソーシングについて

講演: 図書館運営と資金獲得 ―図書館を取り巻く諸問題について―
(明治大学: 中林 雅士 氏)

実習: アウトソーシング

(NPO 法人大学図書館支援機構: 高野 真理子 氏)

第5回 2011年11月2日(水) 神奈川大学(横浜)

課題: 延滞ペナルティについて

講演: ①FD活動と協働できる情報リテラシー教育を考える
(同志社大学: 井上 真琴 氏)

②延滞ペナルティについて

(NPO 法人大学図書館支援機構: 高野 真理子 氏)

第6回 2011年12月8日(木) 慶応義塾大学(三田)

課題: 大学図書館の機能と役割

図書館の将来像

マネジメントとは何か

講演: サービスの企画: ラーニングコモンズ等の事例を通して
(アカデミック リソース ガイド: 岡本 真 氏)

実習: 2011 研修分科会のまとめ

(NPO 法人大学図書館支援機構: 高野 真理子 氏)

研究分科会報告大会での活動報告

日時等: 2011年12月16日(金) 明治学院大学(白金)

報告者: 奥井 翔太(文化学園大学)

中根 聡一(法政大学)

矢ヶ崎 理紗(成城大学)

2) 刊行物及び事業

なし

《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	逐次刊行物 研究分科会	パブリック・サービス 研究分科会	レファレンス 研究分科会
書名 又は 誌名	逐次刊行物 研究分科会報告	パブリック・サービス研究分 科会活動報告書	①レファレンス研究分科会 ニュース ②研究分科会報告
刊行頻度	隔年1回（各期で1回） *2010/2011年度は未刊行	隔年1回（各期で1回）	①月1回 ②隔年1回（各期で1回）
価格	無料	無料	無料（①②）
発行部数	200部	40部	②100部
配布対象 頒布方法 在庫	継続購読（大学図書館等） 約100部。無料。 会員や当該号執筆者へ無料で 頒布。 在庫は数十部。 57号より一部について分科会 HP上で公開。	分科会会員、分科会会員所属 機関などに配布。 在庫は僅少。	①分科会会員、OB・OG会員（購 読希望者）宛てに、メール添 付文書にて配信。 ②例年の配布対象者に送付
発行目的 主な内容	逐次刊行物にかかわる研究の 公表および分科会の活動報 告。 会員の研究発表や講演録、分 科会活動の概要報告等。	分科会の研究報告。	①事務連絡、前回例会の記 録、次回例会のレジュメ、図 書館見学記等。 ②今期の活動内容報告
コメント 今後の 刊行予定	逐次刊行物研究 分科会HPにて、第57号より 一部公開、第59号（最新号） は全文公開。 2006/2007、2008/2009、 2010/2011年度の3期分を第60 号として2012年度に刊行予定 （HPでの公開も予定）。		

※以下の研究分科会は刊行物なし

分類研究分科会
理工学研究分科会
西洋古版本研究分科会
和漢古典籍研究分科会
情報リテラシー教育研究分科会
ラーニング学習支援システム研究分科会

《2011年度研究分科会月例会について(報告)》

研究部担当理事校 東京農業大学図書館 【2011年度4月から担当】
 月例会担当理事校 神奈川大学図書館 【2011年度4月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況

研究分科会名称	月例会開催数	夏期合宿(集中研究会)開催期間
分類研究分科会	10	9月7日～9月9日(合宿)
逐次刊行物研究分科会	9	8月24日～8月26日(合宿)
パブリック・サービス研究分科会	9	8月24日～8月26日(合宿)
レファレンス研究分科会	10	8月11日・12日・29日(集研)
理工学研究分科会	3(5)	9月9日……………(集研)
西洋古版本研究分科会	9	9月13日・14日……………(集研)
和漢古典籍研究分科会	9	8月2日・9月12日・13日(集)
情報リテラシー教育研究分科会	8(1)	9月15日・16日(集研)
eラーニング学習支援システム研究分科会	2(3)	実施せず

*月例会開催数の()はメールリングリスト開催で外数

*夏期合宿・集中研究会内訳(【】は前年度)

夏期合宿3【5】、集中研究会5【2】、実施せず1【2】

2. 2011年度中の動き

本年度は2年周期で活動する研究分科会の最終期にあたる。年度内の会員異動は2件(代表交代、退会各1)であった。本年度も会員数については、依然減少傾向にあり、各研究分科会員数にもばらつきが生じている。

本年度特筆すべきは、2011年3月11日の東日本大震災の被害を各大学少なからず蒙った中での、新年度移行(新体制)となったことである。以後、災害復旧対応(学生支援含)の長期化が予想される中、各分科会が精力的に月例会開催を推進した異例な年度となり、特に夏季合宿等少なからず影響を及ぼした。

3. 今後の課題

今年度の会員異動は最終年度ということもあり、年度内の大幅な変動は見られなかった。しかし、更新年度である2012年の応募状況は、11分科会に対し、3名未満が4分科会、そのうち0名が3分科会という結果である。さらに、2010-2011年度活動した各分科会も応募人数を減らしている。特徴的なのは、継続者が激減した代わりに、新規応募者が増えたことである。研修分科会(実施3年)と報告大会の実績が功を奏したのではないだろうか。新規応募者の増加は望ましいが、後継者を育てるという意味では、継続者の安定的確保も今後注視する必要があるだろう。継続課題でもある、活動期間中における会員の人事異動(資格変更等)に伴う、分科会活動の停止(休会)問題。合わせて各大学図書館の専任職員減少傾向は、研究分科会および研修分科会への応募状況を反映し、今後さらに加速すると思われる。

《2012／2013 年度研究分科会・研修分科会会員の更新結果(報告)》

研究部担当理事校 東京農業大学図書館
研究分科会更新担当理事校 日本女子大学図書館

1. 更新状況

(2012年4月20日現在)

分科会名	更新前		更新後		増減	備考
	参加人数	機関数	参加人数	機関数		
1 分類	6	6	7(6)	7	1	
2 逐次刊行物	8	8	0	0	▲8	今期休会予定
3 レファレンス	7	7	4(1)	4	▲3	
4 図書館運営戦略	0	0	0	0	0	休会2期目→今期廃会予定
5 理工学	3	3	0	0	▲3	今期休会予定
6 パブリック・サービス	12	12	6	6	▲6	
7 西洋古版本	3	3	4(2)	4	1	
8 企画広報	0	0	6	6	6	前期休会→今期活動
9 和漢古典籍	8	8	6(2)	6	▲2	
10 情報リテラシー教育	3	3	0	0	▲3	今期休会予定
11 Lラーニング学習支援システム	2	2	7(2)	7	5	
12 研修分科会(単年度更新)	29	29	12	11	▲17	

①参加諾否後の集計：36 機関 52 名参加※ (2012年4月20日現在) ※それぞれ数は延数

②更新後参加人数欄の()内は継続会員数

③企画広報研究分科会は2009年4月から2012年3月まで休会后、今期活動再開

※2009年4月14日第1回研究部運営委員会で休会承認、2012年5月18日第2回研究部運営委員会にて再会承認予定

④図書館運営戦略研究分科会は2010/2011年度休会、今期廃会予定

※2010年3月12日第8回運営委員会で休会承認、2012年5月18日第2回研究部運営委員会にて廃会承認予定

⑤今期より休会予定の分科会については2012年5月18日第2回研究部運営委員会にて承認予定

2. 研究分科会会員更新経過

[更新スケジュール]

2011年9月15日(木)

①研究分科会代表者宛「2012/2013年度研究分科会会員募集要項の原稿提出について(依頼)」送付

②加盟大学図書館長宛「新規研究分科会受付募集の案内について(お願い)」送付

※①, ②とも提出期限は12月12日(月)

2011年12月10日(金)

・各研究分科会代表者宛に以下の件についてメールで配信

①分科会統合の手続きについての確認およびお知らせ

②分科会名称変更の手続きについての確認およびお知らせ

※①, ②とも手続き期限は12月24日(土)

2011年12月12日(月)

・研究分科会代表者より「2012／2013研究分科会会員募集要項(原稿)」提出完了

- ・加盟大学より新規研究分科会受付手続き完了(該当なし)

2011年12月24日(土)

- ①分科会統合の手続き完了(該当なし)
- ②分科会名称変更の手続き完了(該当なし)

2012年1月20日(金)

- ・研究分科会の会員更新用として以下の資料を送付および参加応募の依頼をする
 - ①「研究分科会会員の更新について(お願い)」
 - ②「2012/2013年度 研究分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
 - ③「2012/2013年度 研究分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
 - ④「研究分科会会員募集に関する手引き」
 - ⑤「2012/2013年度 研究分科会会員募集要項」(11分科会)※②, ③とも提出期限は2月15日(水)
- ・研修分科会の会員更新用として以下の資料を送付および参加応募の依頼をする
 - ①「研修分科会会員の更新について(お願い)」
 - ②「2012年度 研修分科会参加申込書」(機関用・提出書類)
 - ③「2012年度 研修分科会参加申込書」(個人用・提出書類)
 - ④「2012年度 研修分科会会員募集要項」※②, ③とも提出期限は2月15日(水)

2012年2月15日(水)

- ①研究分科会の会員更新書類提出締め切り：26機関42名(応募者数・延べ数, 会員区分なし)
- ②研究分科会の会員更新書類提出締め切り：11機関12名

2012年2月20日(月)

- ・研究分科会代表者宛て応募者数中間報告をメールで配信

2012年3月6日(月)

- ・各研究分科会代表者宛て応募者数報告をメールで配信
- ・各研究分科会代表者宛「研究分科会参加希望者承認の諾否, 及びその通知について」を送付
※諾否回答締め切り：3月13日
- ・各研究分科会代表者宛「2012/2013年度 研究分科会参加申込書」(個人用・提出書類)を送付

2012年3月27日(月)

- ・分科会参加申込大学図書館長宛て以下の文書を送付
 - ①「2012/2013年度 研究分科会会員の決定について及び2012年度 研修分科会会員の決定について(通知)」送付
 - ②「2012-13年度研究分科会・2012年度研修分科会参加者一覧」(機関別)送付

[更新期間中の経緯]

2011年

- | | |
|-----------|--|
| 5月13日(金) | 第1回運営委員・研究分科会代表者合同会議において, 会員更新スケジュールの説明及び会員募集要項の原稿依頼 |
| 11月18日(金) | 第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議において, 会員募集要項の原稿提出を依頼 |
| 12月12日(金) | 研究分科会会員募集要項, 新規届の締切 |

※募集要項は休会中を含め全 11 分科会より提出

- 12 月 15 日(木) 第 7 回運営委員会にて、1 月以降の会員更新スケジュールの説明
12 月 20 日(火) 「研究分科会会員の更新について (お願い)」の一部変更について確認
12 月 24 日(土) 統廃合届、名称変更届の締切(該当なし)

2012 年

- 2 月 15 日(水) 研究分科会参加募集を締切(26 校 42 名：応募者数・延べ数、会員区分なし)
3 月 6 日(月) 各分科会代表者宛に次期分科会参加応募者の諾否確認のための文書を送付、
各分科会代表者宛に次期分科会参加応募者の個人票を送付
3 月 13 日(火) 代表者からの諾否回答締切
3 月 21 日(水) 東地区部会 HP に「研修分科会会員追加募集」案内を掲載
3 月 27 日(月) 分科会参加申込者から参加承諾された大学図書館長宛に以下の文書を送付
「2012/2013 年度 研究分科会会員の決定について及び 2012 年度 研修分
科会会員の決定について(通知)」
「2012-13 年度研究分科会・2012 年度研修分科会参加者一覧」(機関別)
4 月 2 日(金) 東地区部会 HP に「研修分科会会員追加募集」案内を掲載(4 月 20 日締切)

【集計】

- 研究分科会参加者 25 機関 40 名(参加許諾者・延べ数、会員区分なし)
研修分科会参加者 11 機関 12 名(参加許諾者)
※ともに 2012 年 4 月 20 日現在

3. 今後の課題

今期の研究分科会参加会員数は前期(2010/2011 年度)に比べさらに大きく減少している。ここ数年の業務委託および派遣社員をスタッフとする図書館運営の定着により、専任職員の減員が進んだ結果と言えよう。今期は分科会活動が成立しない分科会がさらに増えることとなった。

その一方、休会中の分科会が活動を再開できるようになり、また会員数を伸ばした分科会もある。このことから、機関側が求めているニーズと活動している分科会で取り上げる研究内容とが合致していないケースが多くなっていることが考えられる。継続して一定数の参加者を確保している分科会もあることから、研究内容も含めて分科会活動の見直しが求められている可能性がある。

2009 年度に新設された単年度開催の研修分科会は研究主体の研究分科会とは異なり、主に図書館初任者および業務経験が浅い職員を対象として、大学図書館員としての基本的知識・技能の習得を目指す学習機能を持った分科会である。研修分科会参加者は、年度を通して受動的な学習期間を経た後には、能動的に研究成果を発揮できる研究分科会へ、さらには個々に研究成果を発信できる研究的図書館員へとキャリアパスの一つの形を描くことが可能となる。そのためにも、まずは研究分科会の活動の継続性は重視される必要がある。

大学図書館も大学組織における人事異動の対象に含まれることが一般的となり、実際の人事異動の時期が研究分科会・研修分科会の募集期間とうまくマッチしていない現実もある。分科会会期および各分科会の年度計画とのすりあわせも含めて、募集時期の見直しが重要となっていることも指摘しておく。

《研究講演会》

私立大学図書館協会 2011 年度東地区部会研究講演会次第

日 時：2011 年 6 月 10 日（金） 13：45～16：45

会 場：亜細亜大学 2 号館 1 階 200 教室

参加者：277 名

受 付 13：00～

1. 開会の辞 13：45～

司会者 (研究部運営委員) 神奈川大学 小川 英一

2. 挨拶

研究部担当理事校 東京農業大学図書館長 友田 清彦

3. テーマ

大学図書館と Google Books

(1) 講 演 「Google、Google ブックスと大学図書館」 14：00～15：00

グーグル株式会社戦略事業開発本部マネージャー 佐藤 陽一

<休 憩> 15：00～15：15

(2) 講 演 「慶應義塾図書館のグーグル図書館プロジェクト」 15：15～16：30

慶應義塾大学三田メディアセンター課長 松本 和子

慶應義塾大学メディアセンター本部課長 入江 伸

質疑応答 16：30～16：45

4. 閉 会

※講義のレジメは、「私立大学図書館協会会報」138号に掲載予定

《研修会》

2011年度研修会

期 日：2011年10月27日（木）・28日（金）

場 所：専修大学生田キャンパス120年記念館（9号館）2階92A会議室

テーマ：「読む」ということ

参加者：60大学 68名（いずれも延数）

《開催趣旨》

「電子書籍元年」といわれた昨年は、国民読書年でもありました。文字の媒体が紙から電子へと変化するなかで、「読む」という行為やその意味は、どのように変化してきたのでしょうか、あるいは今後変化していくのでしょうか。本年度の研修会では、さまざまな角度から「読む」ということについて迫りたいと考えました。歴史から現状、そして最新事情までを学べるように多彩な分野から6名の方にご講演いただきます。

このような変化の中で、大学図書館はどのように対応していくべきなのか、講演を聞き、講演者や他の参加者の方々とも積極的に対話していただくことで、新たな気づきが得られるような場になれば幸いです。多くの方のご参加をお待ちしています。

《プログラム》

第1日（10月27日）

- | | | |
|------------------------------------|-------------------|-------------------|
| * 受付 | | 9:45～10:15 |
| * 挨拶・オリエンテーション | | 10:15～10:30 |
| | 会場担当校挨拶 | 専修大学図書館長 大庭 健 |
| | 研修委員長挨拶 | 中央大学事務部担当課長 伊原 千秋 |
| * 基調講演： 「江戸の村にも図書館があった」 | | 10:30～12:00 |
| | 専修大学史編集主幹 | 青木 美智男 |
| | 〈昼休み〉 ※図書館見学自由 | 12:00～13:30 |
| | 展示「水滸伝 vs 八犬伝」 | |
| * 講演： 「iPadで学術書が読めるか？～学術書の新しい読書体験」 | | 13:30～15:00 |
| | 慶應義塾大学理工学メディアセンター | 島田 貴史 |
| | 〈休憩〉 | 15:00～15:30 |

* 講演： 「大学生の読書について考える」
東京家政大学教授
15:30～17:00
平山 祐一郎

* 懇親会： 会場：専修大学生田キャンパス120年記念館
(9号館) 5階「CABIN」
17:20～18:50

第2日(10月28日)

* 講演： 「読書のイメージ：『読むこと』への意識と描き方」
慶應義塾大学文学部准教授
10:00～11:30
安形 麻理

〈昼休み〉 ※図書館見学自由
展示「水滸伝 vs 八犬伝」
11:30～13:00

* 講演： 「紙と電子メディア：作業効率と環境負荷の比較」
富士ゼロックス株式会社研究技術開発本部
13:00～14:30
柴田 博仁

〈休憩〉
14:30～15:00

* 講演： 「書物と読者をつなぐもの」
早稲田大学教育・総合科学学術院
15:00～16:30
和田 敦彦

* まとめとアンケート
16:30～17:00

* 特別企画：ポスター展示

* 見学：専修大学図書館(自由見学)

講演の題名 **江戸の村にも図書館があった**

青木美智男(専修大学史編集主幹)

はじめに

はじめまして。専修大学で大学史の編集に従事しております青木美智男と申します。本日はこのような会にお招きいただきましてありがとうございます。つい最近後期高齢者の仲間入りしましたので75歳になります。5年前まで専修大学文学部で日本文化史の講義を担当しておりました。専門の研究は、江戸時代の文化史です。本日は、私の専門の研究から「江戸の村にも図書館があった」という題で、江戸時代の図書と読書についてお話ししてみたいと思います。

私事になりますが、私は専修大学に赴任する前に、愛知県にあります日本福祉大学時代におりまして、福祉大学が名古屋市内から知多半島に総合移転するさい、付属図書館長を務めたことがあります。人文系大学の移転で一番大きな問題は、図書をどう移動するかにありましたので、知力より体力優先で私にその仕事が回ってきました。移転業務が中心でしたので、そのためイチジク館長とかキュウ館長などと教職員の皆さんからあだ名をつけられるようになってしまいました。ただ一つだけ、図書館職員の皆さんにお願いをしました。それは名古屋市内という文化の中心地から、地半島の突端に近い場所に移ることによって、学生たちが大学図書館に求める文化的な依存度が大きく変わります。名古屋市内であれば近隣の大学の図書館や名古屋中央図書館、県立図書館を利用できますが、その点で知多半島はまったく条件が異なりますので、大学図書館にかける期待度がすごく大きくなります。どうかそんなハンディの無いように、このさい図書の内容を充実してください。少なくともこんな基本的な書物も無いのですか、と学生や先生方をガッカリさせるようなことはしないようにして欲しいとお願いしただけです。そうでないと陸の孤島のような、海と緑と太陽が売り物の場所に大学が移転したら、恐ろしいことになりますよ、と言いました。どこまで実現できたかはわかりませんが、同じことを専修大学についても感じております。

ここ生田の高台に来ると知的興奮を覚えるのは図書館だけです。一度本日降りられました向丘遊園駅の周辺を歩いて見てください。まともな本屋さんと古本屋さんは一軒もありません。さびしい限りです。山の上にある一軒の本屋さんも悲しい限りです。大学図書館が果たす役割がすごく大きいのです。

江戸時代に始まる出版文化概説

書物をなぜ本というのか 本の出版量は、その国の文化の高さのバロメーターだと言われているが、それは、さまざまな情報を多くの国民が共有できる可能性が高いからである。その情報を提供する手段として現在は、テレビ・ラジオやパソコンなど光線による方法があり、電子ブックまで登場している、これまでの伝統的な情報媒体は新聞や書物＝本でしたし、これからもそうであると思う。完全に代わることはないだろう。

そこで原本を写本するような時代では、その情報を得る人々は限られる。多くの人々が感動したり、そこからさらに新たな文化を生み出す可能性がきわめて限定される。そこで同じ情報を大量に伝達できる手段として印刷技術の導入が求められることになり、それを運送できる運輸手段が必要になる。

ところで図書館はその名の通り、図版と書物を集め、それを市民に公開し利用させる場所であるが、その書物を別に「本」とも言うのはなぜか。紙に書かれた図や文章、そして印刷物を一冊にまとめたものを書物と言うのは、非常によく分かるが、それをなぜ「本」と言うのだろうか。

本とはもともと「中心」とか「要」という意味ですので、そこから転じたとすれば、書物に書かれている文章の内容が問題になる。本とは「物の本」＝真理や原理という意味の略号であり、そんな内容の文章が一冊にまとめられている書物を言います。江戸時代初期に京都に生まれた書持を売る商家に「物之本屋」という看板を掲げている書物商がありました。この書物商は、どんな書物を店頭に並べているのかと言いますと、漢学とか経典とか学術的な書物ばかりであった。

だから「物之本」の略字である「本」というのは、真理や原理について書いてある書物のことをいうことが分かる。つまり「本」＝書物ではないのである。

書物の中でも内容が知的なものを「本」と言ったのである。そしていつしか書物といわれるものすべてを本というようになっていったのである。

ついでながら、江戸時代こうした本を集め収蔵する人々が各地に現れる。そうした蔵書をなんと呼んだのかと言うと、文庫、御文庫と呼んだ。それは鎌倉時代の金沢文庫、室町から戦国時代に至る足利文庫と同じ発想である。尾張藩が家康から譲られた駿河御譲本は、御文庫と呼ばれて大切に保存され、今日に至っている。金沢文庫も足利文庫もそこに収集所蔵されている蔵書を調査・研究しようと思えば全国からさまざまな階層の人々がやってきて学問・研究の発達を助けたが、なぜそれが可能だったかと言うと、そこが寺院に付属していてアジール的存在だったからである。つまり戦争に巻き込まれず、安心して学問・研究に没頭できる安全な場だったからである。だから長い平和が続く江戸時代には、その必要がなくどこでも学問・研究に専念できるようになったため、足利学校の機能が大きく

変わることになった。

出版業と本屋は京都から その点で欧米との接触と、豊臣秀吉の朝鮮侵略のさい略奪してきた銅活字と印刷機の導入が大きな転機となった。まもなく植え字、木活字（植字版、一字版）の技術が生まれ、後陽成帝グループの慶長版、学問好きな徳川家康が、伏見版（木製活字）とか駿河版（銅製活字）といわれる刊行物を世に出した。そして南禅寺らの京都五山版、仮名古典の開版に精力を注いだ町衆本阿弥光悦らの、いわゆる嵯峨本、長崎ではキリスト教布教用のきりしたん版が続々と刊行され、一時活字版時代を現出する。つまり日本の古典などの多くが活字化され、ルネンサンス的状况を生み出すのである。

しかし発行部数は少なく、きりしたん版はキリスト教の弾圧によって断絶した。駿河本などは家康の死後、事業が継続されることはなかった。「ただ好事家のもてあそび」（出典注をつける）と後にいわれたように、武士のなかの知識人や、貴族・僧侶・医師・豪商などの狭い人間関係のなかで流布したにすぎなかった。しかし元和偃武以後になると、すでに紹介した文章だが

式十四五年以前迄、諸国におゐて弓矢をとり治世ならず。是によつて其時代の人達は手ならふ事やすからず。故に物書人はまれにありて、かかぬ人多かりしに、今は国治り天下太平なれば、高きもいやしきも皆物を書たまへり。

と、『慶長見聞集』巻之四「童子あまねく手習ふ事」に記されているように、「高きもいやしきも」学問や文芸をはじめ知への関心がいちだんと高まりだすと、それに応える動きがあらわれた。これが印刷による知の普及である。

最初に関心を高めたのが、京都の豪商たちである。こうした人々の期待に応じて開版活動を商売する者たちを「物之本屋」、略して「本屋」といった。「物之本」、つまり真理を探求するものを扱う商売という意味である。だから学術・思想・宗教関係など、物事の前例や手本となる出版物の刊行が主であった。

しかし活字印刷は、ぼう大な数の活字の必要や、ふり仮名や挿絵など紙面構成の困難さがネックとなる。そこで活字印刷物の挿絵などですでに使われていた版木彫刻による整版印刷、つまり木版印刷が寛永初年ごろから本格化する。こうして出来上がりはやや不鮮明だが、安価でしかも難字やふり仮名、挿絵が自在であるなど、自由な紙面構成が魅力の木版へと大きく傾斜していった。そして仮名草子をはじめ、大小の挿絵を自由に挿入できる絵入り本など、多様な編集を可能にしたことが、読者層を大きく拡大するきっかけをつくり、企業として成り立つ条件が整った。こうして作者、画工、彫師、摺師、経師屋（製本）などを統括して企画・製作・販売する書物屋（出版企業）の本格的な成立を促すことになった。（仮

名草子の紙面を見せる) 出版業は文化の中心地だった京都での開業が圧倒的に多かった。

近世文学研究の井上隆明さんの労作『近世書林板元總覽』の解説「近世書林について」によれば、慶長3年(1598)から元禄16年(1703)までの一〇五年間のあいだに創業した「書林板元」は、全国で1171軒あるという。その内京都が701で、全体で約60パーセントを占める。そして延宝6年(1678)刊の『都雀』と貞享2年(1685)刊の『京羽二重』には、①物之本屋(書物屋)、②唐本屋(輸入書)、③書本屋(鈔本屋、写本)、④浄瑠璃屋(正本屋)、⑤板木屋(堀師兼業)、⑥古本屋にわけられているが、おそらく大半は、近世出版史研究の今田洋三さんは、『江戸の本屋さん』のなかで、寛永以来、京都の「物之本屋」は、幕府や寺院、そしてある特定の学派などと特別の関係をもって経営を安定させてきたという。つまり、彼らの蔵板数の大半は、宗教書であり漢籍や日本古典などだった。教訓物である仮名草子類でも必ずしも庶民向けの出版流通ルートにのっていなかったと思われる、今田さんはいふ。

本屋は天下の台所大坂へ 江戸時代を通じて全国で開版した書物業(「書林版元」)の数は、なんと6000軒を超えると井上さんはいふ。

しかし、政治でも経済でも京都が落ち込みだし、代わって将軍のお膝元である江戸や天下の台所大坂が繁栄しだすと、そこに文化を伝え広める媒体としての書物業の創業が急速に増え出した。

前出の井上さんの調査によれば、宝永元年(1704)から天明8年(1788)の84年間のなかで、出版業の中心は京都に代わって大坂へ移り、江戸での活動がいちだんと活発になりだすことが分かる。つまりこの間に、大坂では564の創業が見られ、江戸では492なのに対して、京都は538とふるはない。

どうしてこんな現象がおこったのだろうか。それはほかでもない。京都の「物之本屋」が幕府や寺院などの庇護のなかで、新たな文化の胎動を読み取れなかったからであろう。代わって全国市場の中心となった大坂で町人層が台頭してくると、それを見据えた新しい形式の文芸「浮世草子」が刊行され、大きな反響を呼ぶにいたった。

町人たちの台頭は、庶民のあいだに読み書きそろばんの普及をもたらした。当然町人らはその識字力を使って文化を享受しようとしだす。しかしそんな人々にとって輸入の唐本を和本になおして売り出しても難解に変わりはない。彼らが求めるものは、どちらかといえば暮らしに役立つ重宝記や好色物である。こうして大坂の新興の書物業は、日常生活に必要なハウツウ物から、井原西鶴の『好色一代男』をはじめとする浮世草子の出版に力をいれ、お堅い「物之本」づくりから、

読者としての庶民が求めるさまざまな書物の大量販売という、新しい時代の到来をもたらしたのだった。

つまり、西鶴の好色本を中心とする浮世草子、人気の近松浄瑠璃本（正本）、俳諧の隆盛にみる俳書や句集、そして「天下の台所」の完成による大坂町人の地位の向上と家産の維持のために、儒学的な教訓物から経済的知識を知る書籍まで、じつに多様な内容の本がつぎつぎと刊行され文化市場を賑わすことになったのである。

本屋はこの過程で刊行する書物の内容が専門化していき、それぞれ仲間的な組織が生まれるようになる。井上さんが前出のお仕事で、「世間的には」と分類された、①書肆（和刻本、学術書）、②書林（随筆、本格的な絵本）、③草紙屋（草双紙、版画、摺り物）、④本屋（古本・貸本）、⑤正本屋（芸能の詞譜、台本）という区別がそれであろう。もっとも書肆と書林の区別はそれほどなかったようだし、正面きって「草紙屋」・「正本屋」などとはいわず、「書房」とか「書店」、「書舗」などということが多い。

書物業のことを業界用語でいまでも板元という。その板元がどこかということとは、書物の一番最後にある「奥付」をみれば分かる。「奥付」には、かならず「京都 書肆——堂」とか「東都書林 ——」などと、板元の所在地と名前が記されている。しかしいまの本と違って、二つないし三つ四つと複数の板元名が列記されている「奥付」によく出会う。初期の京都では二社以上の共同出資で板を彫る場合にこの形がとられたという。いまでいうジョイント・ベンチャーの草分けだが、これを「相板」といった。この場合は、相手が勝手に印刷をするのを防止するため、板木を分けて持つことが多かった。そんな目で西鶴本の「奥付」をみると、貞享3年（1686）刊の『本朝二十不孝』からやや違うのに気づかれるだろうと、今田さんはいう。

つまり、天和2年（1682）刊の『好色一代男』の「奥付」の版元は、荒砥屋孫兵衛ただ一人である。翌々年の貞享元年刊の江戸板でも川崎七郎兵衛だけである。その後立て続けに出版された『西鶴諸国はなし』も『好色五人女』、『好色一代女』もみな一人である。ところが、『本朝二十不孝』になって板元は、千種屋五兵衛（大坂）、池田屋三郎右衛門（大坂）、万屋清兵衛（江戸）と三軒の名前が列記されていることが分かる。以後西鶴物は二三を除いてみな「相板」である。しかもその多くは、大坂の板元と京都か江戸、ときには三都の板元による「相板」である。今田さんは、この違いを共同出資方式による刊行ではなく、江戸や大坂市場への販売拡大のための連携「相板」だという。こうして西鶴物は、新しい販売方式によって三都同時発売によって多くの読者を獲得していったのである。

近世大坂を版元とする出版物に関しては、享保8年（1723）、大坂本屋仲間

が結成されて以降のものは、「開板御願控書」という文書が残されているので判明する。現在『享保以後大阪出版書籍目録』という名で刊行されている。これを見れば、大坂出版の特色を読み取ることができる。重宝記や節用集、手習用手本、教訓物など、日用的な実用書や教養書のなんと多いことか。

しかし、だからといって元禄時代の出版が大きく大坂に移動してしまったのではない。伝統文化の中心京都でもまた新興の出版業者があらわれ、知的教養書や新たな趣向を凝らした浮世草子の刊行などで息を吹き返した。たとえば、貝原益軒の『和漢名数』などの教養書や道徳的教訓書（『和俗童子訓』、『大和俗訓』）、益軒仲介の宮崎安貞『農業全書』などを出して気を吐いた柳枝軒多左衛門や、庶民向けで好色性と生活実感豊かな浮世草子をつぎつぎと刊行し、それらを八文字屋本といわせるほどの人気をよんだ八文字屋八左衛門は、絵入り狂言本、役者評判記でさらに名をあげ、元禄時代を代表する出版業者に成長した。

江戸へ集中する文化と本屋 ところで、将軍のお膝元江戸ではどうなのだろうか。

なにせさまざまな職業を持つぼう大な人口をかかえ、短期とはいえ参勤交代で出府する地方武士が滞在し、当時世界有数の巨大都市に成長しつつあったから、書物の需要もまたうなぎ上りに増えていった。

しかし、学問的な「物之本」や教養書は、もっぱら京都で印刷されたものを江戸へ運び、その出版業者の出店があつかつていたが、寛文ごろ（1660年代）にそうした出店が急速にふえだした。江戸で旗をあげた出版業者たちは、どちらかといえば、娯楽性に富んだ絵本類や、古い浄瑠璃本、お伽草子、仮名草子などを刊行する者が多かった。そのようななかで注目されるのが、菱川師宣の枕絵本が延宝年間（1670年代）には江戸で刊行されだしていたことである。

ではなぜ江戸では、開府とともに京都のような動きが現れなかったのだろうか。知の広がりをもたらす書物は、多くの人々に多大な影響をあたえる。ときにはそれが、幕府を支える政治思想を批判するものだったり、なにか政治的事件が起こり、それをまことしやかに報道したり揶揄する落書のたぐいだったりすれば、ただちに評判になり幕府も捨てておけない。

また暦のように民間で勝手に作られ流布されては困るものもある。なにせ将軍のお膝元でそんな出版物が横行するようでは、他にしめしが見つからない。延宝8年（1680）登場した五代将軍綱吉は、学問好きで儒学思想に基づく政治を実現しようと衝撃的な政策を打ち出し、緩みだした幕藩制のたがを締め直しにかかった。このため多くの大名や旗本は改易・減封にあい、ちょっとした不正を理由に代官が多数罷免された。この政治をのちの人々は天和の治と名付けて賞讃したが、一種の恐怖政治である。当然批判が起こり、出版によって巷間に流布することを

警戒してか、綱吉の代になると出版物へ目がいちだんときびしくなり、統制が強化された。

しかし綱吉は腹心の大老堀田正俊の江戸城中での刃傷事件による死後、恣意的な政治へと政策を大きく転換させ、生類憐みの令などの悪法を発令する。そして人間より犬・猫を大事にするだけでなく、それをあらゆる生き物へと拡大するほどだったから、人間によるこの法令に対する批判や非難に関する出版物にはきびしい弾圧を加えた。

なかでも元禄6年（1693）、江戸で流布した『馬のものいひ』なるシパンフは、将軍や幕閣、大奥の女中に擬せられた馬・犬・狼・鳶・鳩などが集まって、それぞれが人を馬鹿にした話を繰り広げるたわいのないものだったが、幕府は怒った。役人らから取調べを受けた江戸の町人はなんと三五万人におよんだ。そのうえ不遇な浪人筑紫園右衛門を捕らえ市中引き回しのうえ斬首の形に処したのである。今田さんは、実物がどこに残っているか分からないという。よほどきびしい探察があつてのことだろうと想像されている。

こんなことが江戸の出版業者を萎縮させたのは当然であつた。上方で浮世草子がもてはやされていたころ、元禄期の江戸での出版事情は、政治批判をすればあつという間に処刑される事態だったのである。そのためだろうか。綱吉の死と同時に、「徳川氏初世以来宝永五年迄の中に、当代の如く落書の多きは絶てなし。いかに人民の憤怒背しかを想像するに足るべし」（『江戸時代落書類聚』）と編者の矢野隆教が驚くほど、ほど続々と批判の声があがった。それらは「宝永落書」とまとめられるほど多数にのぼり、その数は、悪政の権化と江戸町人らから批判された幕府天保の改革の立役者水野忠邦の場合と肩を並べる量であるといえよう。

しかし元禄時代が終わると、幕府は別の角度から出版への監視の目を強めだした。それは、「曾根崎心中」などじっさいの事件を素材にした近松の「心中物」が人気を博し、「近松さんのように」死にたいなどと影響力をもち始めたことに危機感をもった幕府が、事実あつたことをシナリオにしないという形で、人形浄瑠璃の「正本」（台本）の板行や絵草紙への統制強化に出たのである。

享保の改革は、近世の出版業にとって一大転機となった。幕府は、まず業者たちに対して書物屋仲間を組織することを命じた。そして彼らに当時の出版状況をつぶさに調べさせ、その調査報告（『書物外題目録帳面』）をベースに、享保7年（1723）町奉行が、政治・風俗すべてにわたる本格的な出版統制令を出した。

要約すれば、①幕府に都合の悪いことやいいかげんなことを書けば、いかなる本でも処分する。②好色本は絶板とする。③大名の先祖など過去を書くことを禁ずる。④すべての出版物の最後に奥書（奥付）に作者名・板元の実名を載せよ。⑤徳川家康をはじめ徳川家、幕府に関することは一切書いてはならない、という

ものである。

そして幕府は、刊行予定の書物がこれらの禁止令を守っているか否かを、三都に組織された書物屋仲間の行司によって判断させるという自己規制方式を採用した。それはすでに享保の改革と同時に組織化がなされていた京都書物屋仲間をモデルにしたものだった。こうして書物屋仲間による出版内容の自己規制（検閲）とともに、仲間は、重板（同じ書物を刊行する行為）、類板（少し内容を変えただけで刊行する行為）などを禁止し、自分が刊行した書物の板権（蔵板）の所有が認められることになった。

こうして海賊板の横行が取り締まれることになったが、検閲の関係上、仲間の刊行する書物の販売の範囲は、三都それぞれの地域に限定されたので、他からの自由な直接販売が困難になった。そのため、全国版にしようと思えば、三都の書物屋仲間の「相板」によらねばならなくなり、そのためもあって、三都書物屋仲間の情報交換など相互交流と結束がしだに強くなっていった。そして三都以外の書物屋が刊行する出版物を規制し、「相板」を強制したり板権を買い取ったりして地方の書物屋の全国展開を抑えるようになった。

先に紹介した井上隆明さんの調査によれば、寛政元年（1789）から慶応4年（1869）までの80年間の「書林板元」の創業数は、全国で2322にのぼる。そしてそのうちの約40パーセントにあたる917が江戸で産声を上げた。京都の落ち込みがすごく、次いで大坂だが、注目されるのは地方出版の隆盛である。とくにそれまで西高東低だった地方出版業者の創業が、三河以東が大きくのびる点だろう。

こうして近世の出版業も文化が江戸へ中心を移したことにあわせ江戸へ移った。つまり、近世初期、その大半は京都からの出店だった時代から、元禄ごろから江戸で創業する地店屋がしだいに増え、書物屋仲間が組織されるころには、通町組（現在の日本橋一丁目東側辺）と中通組（室町三丁目から京橋までの中央通辺）、そして中通組から分かれた南組が存在するほどになった。そして成員は文化元年（1804）には、通町組22、中通組9、南組20、計51存在した。しかしこれだけではない。

これまでみてきたのは、書肆・書林、その周辺の随筆類などを扱う「物之本屋」たちである。江戸にはこの他、地本草紙問屋、いわゆる地本屋が多数存在し、かれらもまた仲間を組織していた。江戸地本と呼ばれる書物屋は、洒落本や黄表紙、そして浮世絵、文化文政期の滑稽本や人情本、読本など、江戸地本とか東錦絵とよばれるローカル色豊かな出版物をあつかう書物屋である。嘉永6年（1853）の諸問屋再興調には古組として154名の名があげられている。じつはさらにこの他、板木屋仲間がいることも忘れないで欲しい。かれらもまたしばしば出版

にかかわっていたからである。

異色の本屋須原屋市兵衛と蔦屋重三郎 こうした江戸の書物屋のなかで、もっとも注目されるのは南組の須原屋グループである。なかでも須原屋市兵衛による『解体新書』とその内容見本の『解体約図』の刊行だろう。そして森島中良の『紅毛雑話』、宇田川玄随の『西説内科選要』などの刊行にみる世界にむけた目や建部清庵の『民間備荒録』にみる社会の動きを見る目、さらに平賀源内の『物類品隲』など特産物生産へ傾斜する産業動向を見据えた博物書の刊行など、時代を先取りした真摯な姿勢は感嘆に値する。

そしてもう一人、ほかでもない映画にまでなった地本屋蔦屋重三郎（略して蔦重）だろう。まさに江戸地本や浮世絵など地方色豊かな江戸文芸や絵画を、時代を代表する文芸、そして江戸土産にまで仕立てあげた人物である。蔦重は、当時江戸一流の文人や画工を動員して天明期の江戸文化の粋を出版の上に開花させ、華やかな文化演出者として写楽や歌麿を世に出し、東錦絵を芸術として確立させた。また時代の流れを逆流させようとする寛政の改革の政策には黄表紙をもって抵抗し松平定信に弾圧されたが、そのきびしい出版統制の下から、蔦重の食客だった十返舎一九と手代をつとめていた曲亭（滝沢）馬琴らが、まもなく化政期の時代にふさわしい文芸をつくりだし、化政文化の主役へ踊り出たのだった。

化政文化を演出したのは、江戸の地本屋たちである。寛政の改革で、蔦重のような創造性豊かな本屋は抑えられてしまったが、彼らは改革での風俗統制を逆手にとって、あらたな文芸や絵画を生み出したのだった。つまり改革で教訓物、武家物などの出版を奨励されたが、そこで、武家物から読本が生まれ、一途に男への操を守る女心を描いた人情本は、男への忠誠を求める改革の趣旨を逆手にとったストーリーだし、政治にも風俗にもまるで関係ない庶民の日常の暮らしに目を向けさせ、統制と無関係を装いお上の目を逃れる手法をとったのが、底辺に生きる人々の生き様を滑稽に描いて笑いを誘う滑稽本である。

なかでも十返舎一九の『東海道中膝栗毛』は全国版になり超ロングセラーになった。しかしこれには仕掛けがあった。それはストーリーの面白さもさることながら、「物之本」ならまだしも、こんな江戸地本を板元の栄邑堂村田屋が第五編の上下から、通油町の鶴屋喜右衛門と組んで、大坂書林の河内屋太助と西村源六に「相板」を申し入れ、大坂の書物仲間問屋から上方でも直販できるようにしたことが大きい。

そして鶴屋といえば、柳亭種彦と浮世絵師歌川国貞にコンビを組ませ、合巻『修紫田舎源氏』を世にだし大評判をとった地本屋である。これもまた黄表紙の流れをくむ大人の絵本（絵草紙）である。

合巻とはすでに紹介したように、黄表紙が紙数五丁一冊という絵草紙の原則を守りつつ、改革の期待の一つである仇討ち物などで物語が長編化するのにあわせて「五冊ものを一卷にして売るなり」と、合冊にして売り出した製本上の名称であるが、それが絵草紙の別称になった。これらは歌舞伎の舞台を彷彿とさせる絵と文章で女性に人気の読み物となった。

滑稽本や人情本などの庶民向けの書物には、漢字にみなルビがふってあり、合巻＝絵草紙の文章のほとんどは平仮名で書かれている。こうした漢字にルビをつける方式は、江戸初期から仮名草子のような庶民向けの書物にはしばしば取り入れられているが、その伝統をさらに徹底させたのが、この時期の戯作本である。だからすでに紹介したように寺子屋で読み書きを習うとき、平仮名が読めれば社会に出てなんとか暮らしていけるといったのはこのことである。庶民が読む本には、漢字にいまでいうルビがふってあるか、文章のほとんどが仮名文字だからである。

こうしてちょっと字が読めれば、だれにでも親しむことができるように工夫がされていた。しかも庶民が日常の暮らしのなかで寝そべって読んだり、仕事の合間に読む合巻＝絵草紙のような本は、懐のなかに入れて歩けるように形が小さく工夫されていた。携帯用で小本という。それに対して滑稽本や人情本など主に読むことが中心の書物は、小本に比べてやや大きい。中本というが、大抵挿絵が入っているので絵入中本という。さらに読み本でも漢字がやたらと多く筋書きが難解な読本は、形がさらに大きい。読本にも挿絵が入っているから、絵入大本という。

当時、書物の広告には、書名のほかに本の大きさが書かれている場合が多い。これは逆に大きさで、書物の性格や中味が分かるからである。ちなみに携帯用の地図などは、折本といって折たたみができるようになっているのが多かった。いまに受け継がれて方法である。

なぜなら、こうした通俗本はどんな本にも、表紙に「新春初兌」と大きく印刷されている通り新春に刊行されるのが慣行だったからである。派手な表紙で新春を飾り読者の気をひくためである。また『東海道中膝栗毛』の主人公弥次と北が江戸を出てから帰るのに21年間もかかったのも、そのためである。毎年春に一卷しか刊行されず、全巻終わるのに21年かかったというわけである。その点で三馬の『浮世風呂』も春水の『梅暦』シリーズも、種彦の『修紫田舎源氏』もみな同じで、読者は首を長くして春を待ったのである。

しかしそれは読者の気持ちを考えて、いまの新年号と同じで、前年の師走には発売されていたのである。

書物を読者の運ぶ媒体の発達—貸本屋が本屋と読者をつなぐ—

貸本屋の繁栄 しかし出版が大衆化したといっても、本の値段が高いのはいつの世も同じで、庶民には高値の花である。とくに読本などは、そもそも発行部数が少なく高価だったので、かんたんには手にはいらなかった。たとえば読本を代表する『南総里美八犬伝』など馬琴物の作品で発行部数が千部を越えるものはなかった。数冊まとめたブックケース（帙という）入では、いまの値段で1万円以上もした。

ところが馬琴作の読本は、当時の人々に大変よく親しまれていた。なぜだろうか。一つは、刊行するやすぐに歌舞伎になったりするからだが、もう一つは、高価な本を買い取って貸す商売、つまり貸本屋が購入しそれを読者に賃貸して読み手を増やしていったからである。文化5年（1808）、江戸には656軒の貸本屋があり、天保年間（1830—40年代半ば）には、なんと800軒にまで増加したという。

しかし貸本屋は店舗をもって商売することが少なかった。主人や丁稚が本を風呂敷に包んで背負いお得意さんを回る方が多かった。一店で170から180軒のお得意さんをもってたと、今田さんはいう。江戸だけで13万軒をこすお得意さんがあったことになる。

ではどんな本を読者に提供したのだろうか。

貸本屋唐と日本を背負てくる（『誹風柳多留』）

貸本屋無筆にかすも持っている（同）

貸本屋なにを見せたか胴突かれ（『絵本柳樽』）

などお得意さんによってさまざまで、まじめな書籍から、読み書きできない者へは絵本、ときには後家さんなどにきわどい本を出してみせ、ど叱られるようなこともあったようである。

為永春水の『春色辰巳園』には、こんな場面が描かれている。

所へちょうど貸本の荷を背負ったりし若者、これ桜川甚吉なり、
米「おや甚吉さん、久しぶりだの、何ぞ新版があるなら借りようじやねいか、
甚「へい、それはありがたい
と格子をあけて荷を下ろし、

と、こういう会話から商売が始まる。そしてさっそく「貞操婦女八賢誌」という絵入読本をだして「これが評判のいい新版でございます」と勧めると、借り手の

女性は作者の名前を聞いて「この狂訓亭という作者はどうも嫌いだ、楚満人と名のつた時分か見ているけれど、どうも面白いのは少ないもの」と作者批判をしながら、貸本屋の口車に乗って、つい本を借りてしまうシーンである。こんな作者をめぐる読者との会話から、本や作者の評判を聞き出し、版元へ伝えたのだろう。

しかも本を買えないような階層に貸し付ける。いまでいうレンタル料が気になる。貸賃のことを「見料」といったが、それは貸本屋が巡回してくる期間でばらばらである。幕末の江戸では15日がふつうで、「名所類、一冊につき三十文、随筆類 大本二十四文、絵本類 十文」というのが相場だった。大坂では江戸よりやや安かったといわれている。

貸本屋はときに風呂敷のなかには禁書の写本をしのびこませ、幕政批判や海外情報を流して捕まることがあったが、それは読者にさがして欲しいなんて強く頼まれたためにちがいない。それほど読者とのつながりも強かった証拠である。

これが貸本屋の強みで、読者の読書傾向をよくつかんでいたから、ときには書物屋の出版に介入するほどになった。その力量は、「板元は親里なり、読んでくださる御方様（読者）は婿君なり、貸本屋は御媒人なり」と洒落本作者の山東京伝をうならせるほどになっていたのである。つまり、本屋は貸本屋の意向を無視して勝手に出版できない状況が生まれだしていたのである。

貸本屋は、当然三都のほか各地の都市や盛り場にはほとんど存在した。とくに熱海や城崎温泉など、大きな湯治場での客は大のお得意さんだった。長逗留の湯治客たちは、貸本を読んでひまな時間をつぶしていたのである。

私たちが村の古文書を調べるとき、その家の蔵書に出会うことがある。そしてその多くが写本類である。それは借りた貸本を自分の手で写したものである場合が多い。また時々書物の表紙の内側に、「落書き又貸し無用に候」などと記した屋号入の印鑑を見つけることがある。おそらくこれは借主がどうしても手元に置いておきたく買い取ったにちがいない。

名古屋に大惣あり そんな貸本屋のなかでもっとも大きな規模を誇ったのは、尾

張名古屋の大野屋惣八（大惣）だろう。明治のなかごろまで続いた大惣は、蔵書数1万数千で、東海道を通過する文人墨客のサロンとして有名だったが、大惣は出版業もやり、難解な書物は名古屋の文人らに依頼して読みやすくして刊行するなど、読者中心の経営方針を貫いた。

読本作家の曲亭馬琴は京都へ旅する途中で大惣に立ち寄るほど、江戸で有名になるほどの蔵書を誇った。明治の文豪坪内逍遙はその利用者の一人だったが、明治の中ごろその使命を終えて廃業した。そのとき蔵書一万数千点をときの名古屋市は購入する財政力がなかった。そこで東京帝国図書館（現在の国会図書館）、東

京帝国大学図書館、京都帝国大学図書館に三分割されて入ることになった。帝国図書館はすべて分類項目にしたがって分散所蔵した。東京帝国大学図書館は大正の関東大震災で焼失してしまった。京都帝国大学図書館だけが、大惣本として一括管理し、その威容を留めている。

では名古屋になぜこんな巨大貸本屋が誕生したのだろうか。名古屋は尾張初代藩主徳川義直の超学問好きもあって、代々文化政策に力を入れてきた。とくに父家康の学問好き素質を受け継いだ義直がそうだった。彼は家康の死後、御三家に分割された家康の蔵書を城内に「御文庫」をつくり厳重に保管し、自らも日本の古代に関心を持ち研究にいそしんだ。

藩内にその伝統が脈々と受け継がれ、すぐれた古代学者が生まれたが、彼らの研究成果の出版ということになるが、うまく進まなかった。なぜなら、名古屋の本屋の多くは京都の出店か、京都に修行に出て名古屋で店を開く場合が多かったから、どうしても本店から圧力がかったからである。そこで京都の本屋との「相板」で刊行せざるを得なかった。これは金沢も仙台の場合も同じで、地域に独自の出版資本が育つ大きな障害となっていたのである。

三都書物仲間の統制力は強い。独自に刊行しようとしても、すぐに類本だといわれて出版許可が下りない。だからいやいや「相板」せざるをえず、ときには板権を譲りわたして刊行するという屈辱を味わってきた。御三家独自の出版物でも、形式的に三都書籍商仲間の検閲を受けねばならなかったほどであった。

江戸後期、名古屋には永楽屋東四郎という気骨のある書物屋が出て、尾張書林仲間の結成を藩に訴え出た。尾張藩もまた創立した藩校明倫堂から続々と研究成果が出はじめたので、その公刊を期待していたから、それを許可した。この動きを当時の名古屋の文人は

尾府（名古屋城下）下、もとは書林少なし、明公（九代宗睦）、明倫堂御取り立ての頃より、文事盛んになりて、書林多くなれり、その前は開板禁制なり、明公のころ、開板御免になりしより

と受け止めるほど、藩の決断で明るい状況が生まれた希望をもった。しかしそう甘くはなかった。まず、すでに刊行されていた本居宣長の『古事記伝』がやり玉にあげられ、京都・大坂書籍商仲間から販売が禁止されるや、以後急速に尾張の本屋の出版物が次々と販売禁止の処置を受けることになった。

結局以後、三都書籍商仲間に妥協し、尾張の本屋は「相板」によって全国に向け販売の道を選択した。永楽屋といえば、葛飾北斎の『北斎漫画』の刊行で有名だが、その永楽屋ですら、江戸に店を持つことでしか、独自出版の道を切り開く

ことができなかつた。しかもそれには三十年近くかかつたのである。

地方都市に本屋が誕生しても全国版にのせるには、資本力のある三都書物屋との「相板」しかなく、儲けは薄い。資本力が乏しいから、出来ては潰れる。名古屋には文化文政期の最盛期で30軒ほどの本屋が生まれたが、その後半減してしまふ。金沢でも数件にすぎない。こんなことで書物の流通もままならなかつたのである。

ところが各地の城下町では学問や文化への熱意は高まるいっぽうであつた。だから有力な武士や町人たちは三都出版の本を買い求め蔵書数を誇りだす。買えなければ借りて写す。こうしてどこの城下にも村にもものすごい蔵書数を誇る家が誕生したのである。

しかし本を購入できない人々の文化への渴望に応えるには、どうしたのだろうか。これこそが地方の貸本屋の使命である。できるだけたくさんの書物を、しかも多種多様な書物を購入し貸し出す。そんな商売抜きの仕事として、大野屋惣兵衛は貸本屋をはじめたのである。

だから当初は「見料」(レンタル料)を取らなかつた。こうした名古屋の文化人たちや町人の要望に応じているうちに、いつしか巨大化してしまつたのである。大惣は、三都書物仲間の統制の強さが生んだ落とし子だったのである。

三都には、こんな巨大貸本屋は育たない。なぜならその必要なかつたからである。そんな貸本屋は人が集住する城下町などには、どこにでもあつたが、店を構えていない場合が多いので目立つことはなかつただけである。大惣は貸本屋が本業で、本の出版がサイドビジネスだったのとは反対に、本の売買のかたわら貸本屋を兼ねるような本屋もあつたから、なかなかその実態をつかめないのが現状である。

ただ山間でも海辺でも温泉場があれば、貸本屋がそこに出入りしていた。湯治客は一泊や二泊で帰らない。10日も20日も逗留するのがふつうだ。朝から晩まで湯につかっているわけではないので、退屈しのぎに本が読みたくなる。そこで貸本屋の出番となり、けっこうお客がつく。とくに但馬の城崎温泉や伊豆の熱海温泉など人気の湯治場では、貸本屋が繁盛した。

寝そべりながら、煎餅を食べながら本を読む。行儀が悪い。ときには落書きもするし、隣の客に又貸しする。そこで貸本屋の蔵書印には、きまつて「落書き・又貸し禁止候」という警告文が記されていた。

知を広める地方の本屋と村の蔵書家=図書館

地方の本屋も健闘 江戸の初期には、巡回の本屋が各地を回って町や村の読者の期待に応じていた。行商「の本売り」というが、「本屋ほん、

いまはやりの好色の草紙めさぬか」なんていう呼び声で御客を誘ったという。しかし各地の城下町などに常設の店舗を持つ本屋が店開きするようになると、しだいに少なくなっていく。

右の図版は、十返舎一九が『東海道中膝栗毛』の大成功に味をしめて、みちのくの百姓を主人公に仕立て、ほぼ同じコースを歩かせた合巻『金草鞋』を執筆するため、取材旅行で信州松本城下を訪れたさい、いろいろとお世話になった本屋高見屋の店先の光景である。

さいわい高見屋は現在でも松本市内で営業をされていて、日記や経営帳簿を残してきた、きわめて珍しい本屋さんである。この図から、店先の看板から慶林堂といい「和漢書物」という書籍の販売と、「硯・墨・筆 品々」と書かれた看板が見られるように、高見屋さんは本屋と文房具屋を兼ねていたことが分かるだろう。

高見屋の文書の調査と分析をされた江戸文学者の鈴木俊幸さんによれば、高見屋はこの他に本の出版と貸本屋も営業していたという。三都の本屋でも書籍以外の商品を扱うのがふつうだから、地方の城下町の本屋が知の総合商社のような営業をするのは当然だといわれる。

問題は、本の取引網の広さにある。高見屋は、文化5年（1808）、京都・大坂・江戸・名古屋の当時一流の本屋と直接取引をし、さらに飯田・高遠など同国内の城下町や越後糸魚川の本屋と取引をしていることが分かる。そして同年の在庫目録には、「儒書之類」・「詩作物」・「医書之部」・「歌書」・「草紙もの」・「小本形字引類」・などと「大本節用類」・「絵本類」などに分けて、じつに多種多様な書物名が書き留められている。

ここから儒学書や医書、そして和学書などから実用的な本、そして娯楽作品まで、高見屋は身分を超えたさまざまな要望に応える品ぞろえに努めていることを読み取ることができるだろう。そしてそれらを購入した信州松本城下とその周辺の人々の読書傾向と知の普及の状況を判断でき、意外に早く江戸で流行の書物などが入っているところからみて、時代の流れに敏感に反応していたことがうかがえる。

村の蔵書家が図書館の役割を どの地方にもこんな前向きな本屋が近くにあれば問題はない。通信販売でも利用すれば読みたい本は手に入る。しかし貧しい暮らしをしていればそんな余裕はない。そんな農民でも寺子屋で読み書きを習った。江戸に奉公に出たときは、貸本屋から借りた本を懐や帯の間に挟んでおいて暇さえあればむさぼり読んだ。村に帰るとそれができない。村には貸本屋もやってこない。

では江戸ではどんな読書経験をしているのだろうか。戦争がない、武力を使わな

い、こんな世が長く続くと、男の社会的な地位が落ち、社会での女の役割が高くなり、発言力が増す。大坂の陣から二百年、大南北の芝居には、「なにいてやがるんだ」「なんぞという、力自慢に瘤をだして、あのまあ鈍な顔を見せやがって」なんて堂々と悪態をつく女房たちが登場するし、三馬の『浮世風呂』には、女性を読者として想定する「女湯の巻」に、生き生きとした女たちの会話が描かれ、それがたいへんな人気を呼んだ。そして春水の「梅暦シリーズ」（「春色梅児誉美」ほか一一冊）や柳亭種彦の合巻「修紫田舎源氏」は、まちががなく女性を読者として意識して描かれたものであり、その内容は彼女たちを一喜一憂させるものだった。

そこで一例だけ明治維新の時、来日した亡命ロシア人のメーチニコフが著した『回想の明治維新』（岩波文庫、1987年）の一節を紹介しておこう。以下の資料を見てください。

さいわいわたしはかなり短期間で、日本の大衆文学の園のおもいもかけぬ案内人を見つけることができた。人足——すなわち埃と汚物にみちた首都の街路を、あの有名な二輪車で威勢よくわたしを引っぱってくれた人夫たちや、別当、つまり頭のとっぺんから爪先まで三色の色あざやかな入墨で飾りたて、素裸で（わたしはじきに自分の持馬を持つようになった）のまえを走ってくる男、小使つまり召使、さらにどんな店でも茶店でも見かける娘たち——彼らがみんな、例外なく何冊もの手垢にまみれた本を持っており、暇さえあればそれをむさぼり読んでいた。彼らは仕事中はそうした本を着物の袖やふところ、下帯つまり日本人が未開よろしく腰に巻いている木綿の手ぬぐいの折り目にしまっている。そうして本は、いつもきまって外見ばかりか内容までたがいに似通った小説のたぐいであった。後になって分かったが、日本の下層階級のほとんど唯一の精神的糧ともいべきこれらの俗っぽい出版物は、上流階級の人間（良家の子女までふくめて）にも読まれているのであった。それらの小説にはきまって故意に猥褻な性格が盛りこまれているにもかかわらずである。数百冊におよぶそうした小説のもっとも大きなコレクションは、いろは文庫と総称されている。「いろは」とはABCのことであり、この名称はこの文庫が古典的な漢字ではなく、この国の教育程度の低い人々のABCともいべき平仮名で書かれてええいることに由来する。

これはメーチニコフの目に焼きつた東京の下層市民の読書光景を紹介した一節であるが、その中で私が今回注目するのは、下層市民だけでなく、武家の子女までが「俗っぽい出版物」に親しんでいるという指摘についてである。そんな「故

意に猥褻な性格が盛り込まれている」小説が女性一般の読物だったと見た点である。メーチニコフは、18世紀になると、日本の大衆小説は現実味をおびた芸術的表現の傾向と、当時の風俗の社会や政治的諸条件へのいささかの批判的な姿勢が顕著になってくると評価し、なかでも『修紫田舎源氏』は、「内容的深みという点ではまさに出色である。(中略) 愛好家たちのあいだで非常に高く評価されている」(同)と絶賛した。

ただメーチニコフは、「大衆小説は、主としてほとんどすべてのページが挿絵や図解入りだということを忘れてはならない」といい、「大衆がこうした小説類を容易に読めるのは挿絵のおかげ」と、絵草紙こそが日本の大衆小説との代表的作品と見た。しかも大方の大衆小説でもっとも喜ばれたのは、

芸者(歌手あるいは踊り子の意)とか女郎(娼婦の意)が、上流身分の男に恋をするが、男はもろもろの事情で女を妻にできないといった筋立てである。たいてい女は恋する男の輝かしい運命の妨げになるまいとして、自分を犠牲にし、時にはひどく感動的な場面設定のなかで自殺して果てるか、相手に心変わりさせるために、本人の前でなにかしらわざと喜劇を演じて見せるといった具合である。濡れ場の叙述になると、上述のリアリズムは、これでもかといわんばかりに猥褻の度合いを強め、さらに日本の小説に欠かせない挿絵がそれに一層拍車をかけたのである。

と、身分の低い女性が恋する男の犠牲になるという悲恋のラブストーリーだったため、それに扇情的な挿絵が人気に拍車をかけたというのである。

メーチニコフが取上げたに「俗っぽい」小説とは、彼の表現から見て合巻のことを指していると言ってよいだろう。合巻は絵草紙=絵本である。だから描かれている絵を挿絵というのは当然だ。そしてこうした小説類の出現は、天保の改革で『修紫田舎源氏』や為永春水の『春色梅児譽美』の絶版以後、ようやく風俗統制が弛緩した幕末期の現象であって、それゆえメーチニコフが読んだわいせつの度合いを強めた合巻類だったとあってよいだろう。

江戸で以上のような読書経験をし読書の面白さを知った若者たちが、ある時手伝いにいった村役人さんの庭で、たくさんの本が虫干しされていた光景を思いだす。たしか江戸の初期から過去に士分だった系譜をもつような村役人の家などでは、早くから書物に親しむ傾向があり、漢籍や日本の古典を収集して、それを代々大切に受け継いできた家が多い。それゆえ全国各地のこうした家に蔵書目録が残されていて、どんな書籍が収蔵されてきたかをうかがうことができる。

それは己の家の格式を裏付けるための蔵書であり、当然漢籍が多くを占め、つ

いで日本の古典文学、さらに俳諧、謡曲、茶の湯、生け花のテキスト、そして農書・医学書など、ぼう大な数にのぼる。しかし通俗的な書物はほとんど収蔵の対象になっていない。

それは家の格式のためであろうが、十返舎一九のベストセラー『東海道中膝栗毛』を読まなかったわけではない。まちがいなく読んでいた。しかしそんな戯作本は日ごろ愛読しても、女子どもの読む本として、蔵書目録の対象からはずされ、妻の部屋に置かれ、いつしか捨てられてしまったのである。あえて蔵書に加えると言えば、馬琴の読本類や三国志や水滸伝のような歴史物くらいである。

しかしそんな蔵書目録が残されている村の蔵書家の家の村方文書のなかに、時おり書籍の貸出帳がまじっていることがある。それはどうも村人に蔵書を貸し出したときの台帳らしい。調べてみると、その通りで、その貸出帳には、馬琴だけでなく一九や種彦の作品名が出てくることがある。

江戸後期になると、多数の蔵書を持つ豪農になかに、村人にそれを貸出す家があらわれたことを物語る。読み書きの普及によって村人にも書物に関心を持つ者が出て不思議ではない。しかし農村には貸本屋はなく、やっても来ない。農民の多くは購入する経済力もない。そこで村の蔵書家が村人の期待に応え、貸出しに応じるようになったのだろう。そしてときには、村人の要望する本を購入してまで貸し与えるにいたるのである。先ほど紹介した江戸で暮らした経験を持つ若者たちは、こうしてなんとか本を読むという娯楽にありつけたのである。

こんな事実を最初に見つけだしたのは、埼玉県立博物館の長谷川宏さんと近世文化史研究者の小林文夫さんだが、武州旛羅郡中奈良村（埼玉県熊谷市内）の野村家の事例から驚くべき事実を明らかにした。

野村家もかなりの蔵書家であった。その蔵書構成は、表のようである。書籍は寺院・武家・旅人など多様な経路を利用して集められたという。巡回してくる貸本屋から購入したものもあるが、注目すべきは、蔵書の大部分を占めるのが趣味・娯楽関係で次いで実用・教養書の書籍である点である。

そしてもう一つの表を見てみよう。これは野中家に残されら「万書籍出入留」という貸出台帳から小林さんが作成したものだが、書籍のうちでもっと貸出数が多いのが実録物で次いで読本類であることがわかるだろう。借りだしているは近隣の村役人と「小前」と呼ばれるふつうの農民である。

ここで蔵書の種類と貸出した本の種類がほぼ一致する。小林さんは、基本的には、これらの本は他人に貸し出されることを前提に購入されていると見てよいという。そしてさらに重要なのは、蔵書類のなかで野中家が関心をもって収集し、村役人たちからの貸し出し要望が強かった書籍類として、天保8年（1837）に起こった大塩の乱関係の書籍類だったという指摘である。しかも事件発生直後

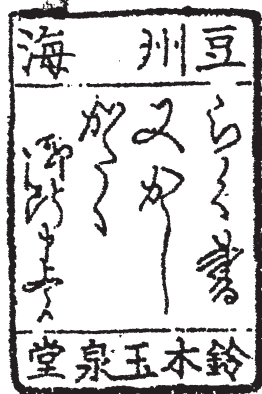
から貸借の頻度が高くなることから、地域の村役人たちが、いかに強い衝撃を受けたかを判断できるからである。

小林さんの分析後、各地で同じような動きがあることが紹介されるようになった。江戸後期になると、いまの公共図書館の役割を果たすような施設が誕生したことを物語るが、知的情報はもう広く共有できる条件がつけられつつあったのである。そして小林さんの論文が広く読まれるようになると、全国各地で同じような事実が次々と明らかになり、歴史が大きく書き直されだしています、

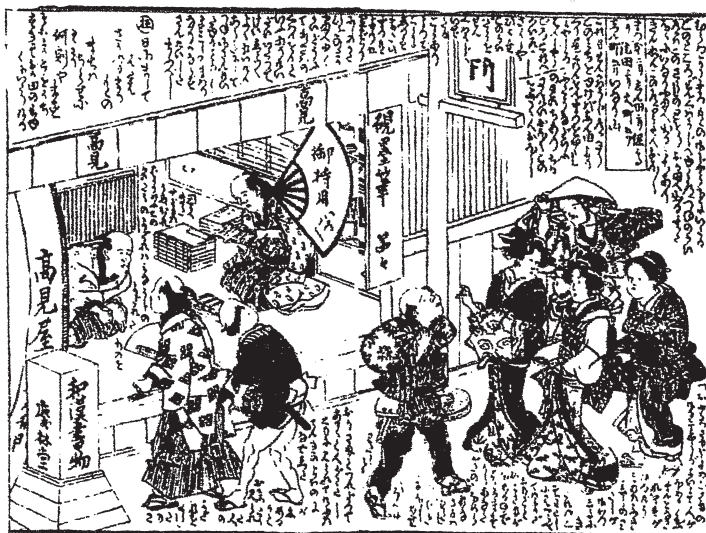
以上で私の話は終わります。日本は幕末維新期にここまでできていたのです。龍馬や晋作もいいですが、普通に暮らしていた村の農民たちも意外に知的だったのです。そしてそうした知的要望に応えた施設が作られだしていたのです。ご静聴ありがとうございました。



●貸本屋、大惣（總）の蔵書印
 全国一の規模を誇る尾張名古屋の
 貸本屋大惣（大野屋惣八）の蔵書
 印。尾張の村方には、大惣蔵書印
 のある書籍がいまも見つかる。



●貸本屋の蔵書印
 本への落書きなどを禁じた伊豆国
 熱海にあった貸本屋の屋号入り蔵
 書印。それほど落書きや又貸しが
 たくさんあった証拠。



●松本市内にいまでも残る高見屋の店頭風景
 文政三年（一八二〇）刊行の『金草鞋』に描か
 れた本屋高見屋の店先。本のほかに、硯、
 筆といった文房具、さらには扇までも扱っ
 ていたことが、店先の看板からわかる。

種別	書籍											文書	計	
	往来	教訓	実録	読本	芝居	宗教	飢饉	信仰	紀行	漢籍	武家			改革
名主	3	1	12	4			4		2		2	7	61	96
名主に準ずる者		2			1		1		1	2		2	5	14
小前	2	5	14	9	3	1	1	10	1			2		48
寺	4	4	6		3	1	3			1		1	10	33
計	9	12	32	13	7	2	9	10	4	3	2	12	76	191

●野中家の蔵書の貸し出し傾向
 本を借りるのは白村のふつうの農民が多く、借
 りる本は実録物や読本で、おそらく通俗的な戯
 作であろう。

*信仰の項には守札等の板木・たんぼの貸出も含まれる。改革＝文政の改革組合村関係の文書・教諭書も含む
 [近世後期における「蔵書の家」の社会的機能について]より作成

「iPad で学術書が読めるか？～学術書の新しい読書体験」

慶應義塾大学理工学メディアセンター 島田 貴史 (keishi2g@lib.keio.ac.jp)

○問題設定

慶應義塾大学では、平成 22 年度より 2 年間の計画で「電子学術書利用実験プロジェクト」を行っています。このプロジェクトは、国内出版社の協力のもと、実際に日本語の学術書を電子化し、学内に提供して、その評価を行うことを目的としています。実際、2010 年 12 月 15 日より、学生モニターに対する配信を行っており、彼らの電子書籍に対する意見や要望を集めています。そこで、これらの実験システムや利用者の声を前提として、以下の 2 点について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

- ① iPad で学術書が読めるだろうか？
- ② 読めるとしたら、それはどのような読み方になるのか？

○内容

発表では、上記の設定に答えるため、以下について紹介する予定です。

- a. プロジェクトの概要
- b. 学生の本（紙の本）の使い方について考えてみる
- c. 電子学術書に触れた学生の反応

a では、慶應でのプロジェクトの概要や特徴について紹介します。b では、貸出統計を中心に学生の本の読み方と利用法について紹介します。最後に、モニター学生に行った調査を使って、冒頭で設定した 2 つの問いについて考える予定です。

また、電子書籍と 1 年間付き合ってみて感じたことについても報告したいと考えています。時間があれば、実験システムに皆さんが触れる機会も準備したいと思います。

○参考 URL

1. 電子学術書利用実験プロジェクト

<http://project.lib.keio.ac.jp/ebookp/>

#プロジェクトの概要やイベント情報があります。また、利用実験の報告書（アンケート調査）も掲載されています。

2. Springer eBook White Paper Series

<http://www.springer.com/librarians/e-content?SGWID=0-113-2-773809-0>

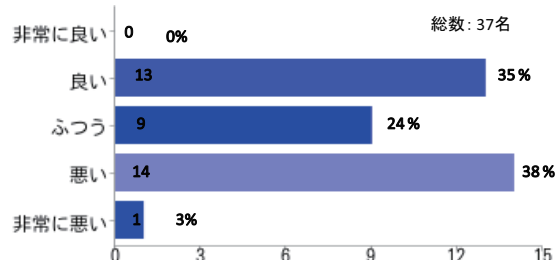
#Springer が行った電子書籍に関する調査結果です。慶應での調査と比較してみると、共通点や相違点を知ることができると思います。

電子学術書利用実験 第二期モニターアンケート結果概要

慶應義塾大学メディアセンター
電子学術書ワーキンググループ
2011年9月29日

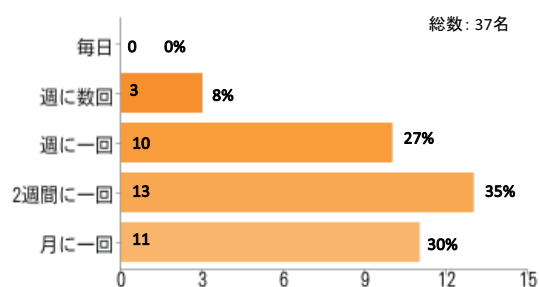
1

A-1. BookLooperを総合的に 評価してください。



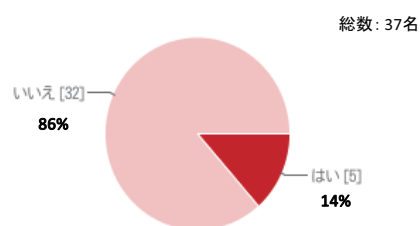
2

A-2. BookLooperに搭載された電子 ブックをどのくらい使いましたか？



3

A-3. BookLooperの電子ブックを学習 や授業等で使いましたか？



4

はいと答えたモニターが読んだタイトル

- ・『実験化学講座』
- ・『角運動量とスピン』
- ・『細胞培養ラボマニュアル』
- ・『酵母ラボマニュアル』
- ・法学系タイトル

5

A-3 コメント例: 授業等で使った人

- ・実験化学講座をダウンロードし、必要な情報を検索して使用した
- ・以前受講した授業の復習のため『細胞培養ラボマニュアル』と『酵母ラボマニュアル』を読みました。
- ・レポートの作成時の文献として、また、法律科目の授業中に使いました。

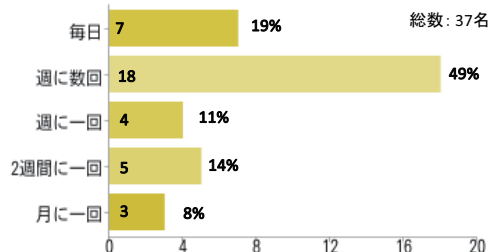
6

A-3 コメント例:授業等では使わなかった人

- ・自分の履修している授業や研究に関わりが深い本がなかったから。
- ・授業で使える本がなかった。その人の分野に合わないと、あまり意味がないと思った。使おうにも使いきれなかった。
- ・ダウンロードに手間がかかった(直感的ではなかった)

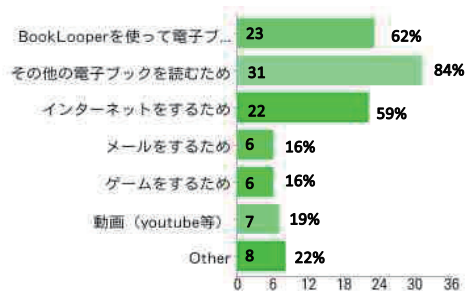
7

A-4. iPadはどのくらい使いましたか？



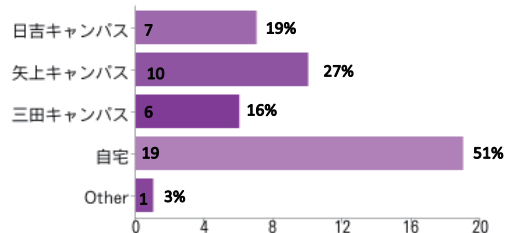
8

A-5. iPadをどのような目的で使いましたか？(複数回答可)



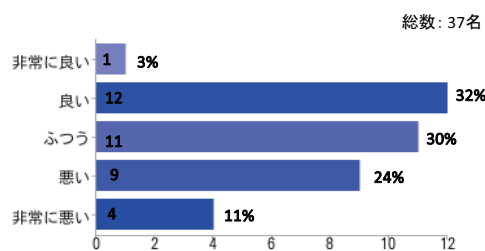
9

A-7. 主にどこで電子ブックをダウンロードしましたか？(複数回答可)



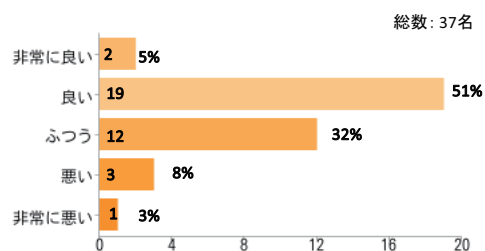
10

A-6. BookLooperの安定性 (起動やどの程度落ちたか)



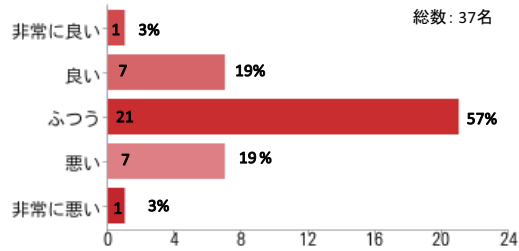
11

A-6. BookLooperの解像度 (ページの見やすさ)



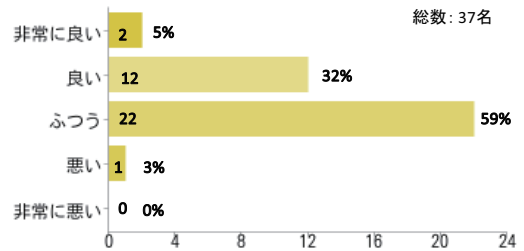
12

A-6. BookLooperの検索機能 (検索のしやすさ、精度)



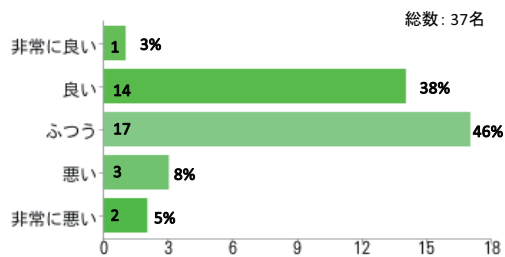
13

A-6. BookLooperのしおり機能



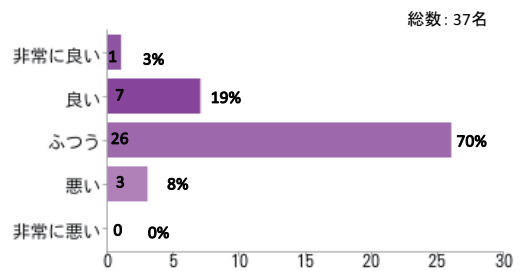
14

A-6. BookLooperのマーカー機能



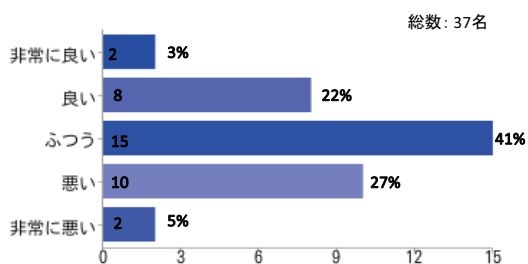
15

A-6. BookLooperのメモ機能



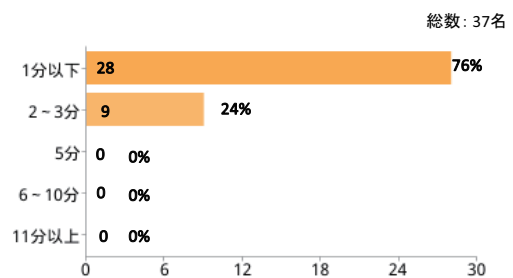
16

A-6. BookLooperのページ送り



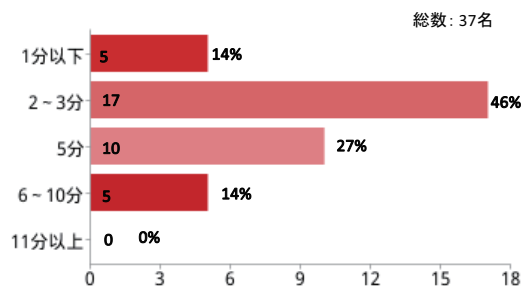
17

A-8. 理想のダウンロード時間は どれくらいですか？



18

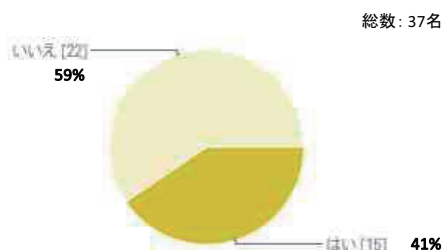
A-9. 我慢できるダウンロード時間はどれくらいですか？



A-10 ダウンロード機能について (記述式:コメント例)

- ・時間がかかる二段階でダウンロードするのが面倒
- ・やっぱり家でDLできるのは大きい。わざわざメディアに出て行く必要がないので。プロセスをもっと簡素化すればいいと思う。
- ・ストア画面でのDLから本棚画面でのダウンロードに自動的に移行してほしい
- ・全ページがダウンロード出来ていない状態でも一部が読めるのは便利
- ・特になし→インタビューで詳細を確認

A-12. しおり機能やマーカー、メモ機能を他人と共有したいですか？



A-12 「はい」(共有したい)の理由

- ・他人に読んでほしいところをしおりを使って知らせたり、書き込みを他人と共有できたりすれば離れた場所においても情報を共有できるので。
- ・共有したい人とはできる、あるいは共有する内容を取捨選択できるようにしたらよい。優秀な友人が何を読んでいるかを知れて、またそこから話が広がることは、勉学をしていく上で有意義と思われる。
- ・共有に選択性があればいいと思う。

A-12 「いいえ」(共有したくない)の理由

- ・特に必要ないように感じる。
- ・他人の読み方に左右されたくないため。
- ・自分の理解のためにしおりやマーカーを使うのは悪くないと思うが、他人との共有には疑問がある。本は著者の考えなどを基に作成されているので、読者の意思が入り込むような機能は、他人が読む場合に著者の意図を読み違えたり、理解する妨げになる可能性があるため、控えるべきだと考える。

A-13. BookLooperに印刷機能は必要だと思いますか。



A-13 コメント例:印刷は必要

- ・ 現段階では紙のほうがiPadの画面と比べて読みやすい。ほんとうに必要なだと感じられる部分に関しては印刷できるようにしてほしい。
- ・ 印刷によって、いくつものページを比較できた方が都合がよいから。
- ・ とっておきたい資料や、参考にしたい資料は印刷したい。
- ・ メモが増えてきたときに印刷したくなる可能性があるから。

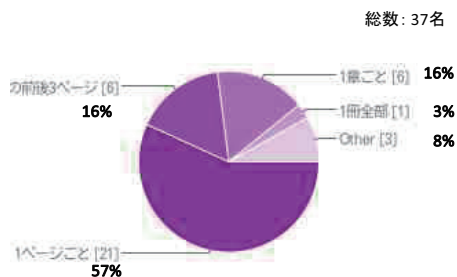
25

A-13 コメント例:印刷は不要

- ・ なぜ電子でせつかくあるのにそれを紙にする意味がわからない。
- ・ 便覧に載せられるような複雑な図表ならば手で写すよりコピーしたくなりますが、実生活で本をコピーしたくなることがほとんどないので、あまり必要はないと思います。
- ・ iPadを持っていればいつでも見られるため。

26

A-14. 印刷できる場合、どんな単位で印刷したいですか。



27

A-15. 電子ブックにどんな機能がついていたら、コピー代以上で印刷したいと思いますか。(金額と理由)

5~10円	10円以上	その他 (金額記載なし等含)
18人	15人	4人
49%	40%	11%

プリントアウトやコピー代程度の価格を要望する意見がほぼ半分。
メモやマーカーが反映されていたり、コピー範囲を容易に指定して一度にプリントアウトできるようであれば、15円~20円などの価格でもよいという意見も4割程度あった。画像などもきちんと印刷できる必要があり、メモやマーカーについては、付けて印刷・付けずに印刷などのオプションも必要との意見があった。

28

A-16. 一冊3,000円の学術書(教科書・参考書)を電子ブックで買うとしたら、いくらで買いますか?

~1000円	1001~1500円	1501~2000円	2500円以上	10000円	その他
12人	14人	2人	7人	1人	1人
32%	38%	5%	19%	3%	3%

1000円、1500円という回答が多い。
モノとして存在する紙よりは安いことを希望する声が多い。
半額程度の価格付けの理由として、中古価格を目安にしている学生も多い。

29

コメント例:価格について

- ・ 1000円くらいならうれしい。同じ値段であれば電子書籍ではない本を買う。理由は、やはりハードウェア(iPad)の充電状況や、トラブルが起こる可能性等を考えると、普通の書籍の方が信頼性が高いから。
- ・ 1,500円。感覚として電子ブックの方が価値が低いと感じてしまうから。これまで紙媒体の書籍に慣れ親しんできたため、データのみ存在である電子ブックに同額を支払うのには抵抗がある。
- ・ 3,000円。収納場所、持ち運びやすさ、という点にメリットがあるので、学術書以上の値段にならないければ、購入する。

30

A-17 電子ブックにしてほしい学術書

- ・ 自由記述(省略)

31

A-18 BookLooperに搭載された電子ブックの改善点を記述してください。

- ・ 返却期限までの期間が短く読みきれなかった。設定はいらぬのでは。
- ・ アプリの動作が遅い。
- ・ めくり方が他の電子書籍に比べ少しくどい気がした。読みたい時はすぐに読みたいから、ホーム画面にアイコンのようなものが出せるといいと思った。あとは本が充実してくれば使うようになると思います。
- ・ 図表のみのリンクを貼って、タブ機能と共に図表と文章を見比べられるようになると非常に便利。
- ・ 本の種類の増加

32

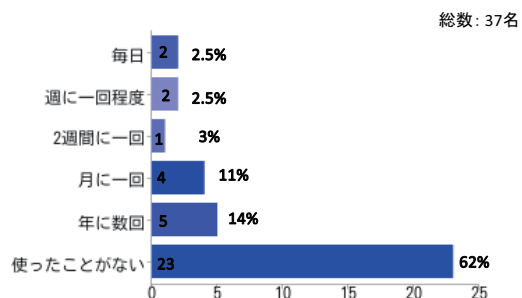
- ・ コンテンツの量と種類。多ければ多い程良いし、新しく話題の本や、古典がラインナップされるともっと使う機会が増えると思う。
- ・ 返却日になったら勝手に本が返っていくのが嫌だったので、メディアの貸出期限お知らせのように、3日前ぐらいに表示されるとよい。
- ・ 表紙だけではなく、内容も見ながらダウンロードする本を選びたい。分野分けをして欲しい。立ち上げが遅い。種類が少ない。返却期限が短すぎる。
- ・ ダウンロードをするプロセスが非常に面倒くさい。借用の期間も短く、更新の手続きも面倒。

33

質問B. 資料や情報の使い方 についてお聞きします。

34

B-1. モニター参加以前に 電子ブックを使っていましたか？



35

B-1. 使ったことがある電子ブック

以前モニター時にiPadを使って利用した人が数人いた。また、電子ブック以外に電子ジャーナルやデータベースを利用しているという意見があった。

- ・ 以前のバージョンのBookLooper、前回の電子学術書利用実験プロジェクト時にiPadにインストールされていた電子ブックすべて
- ・ iBooks
- ・ 豊平文庫(青空文庫)
- ・ 産経新聞
- ・ 化学書資料館、判例集、新聞記事のデータベース

36

B-1. 使わなかった理由

- ・パソコンで見るには文字が小さいし、近くで見えないから、ストレスを感じる。
- ・電子ブックを読むための端末をもっていなかったのだ。
- ・電子ブックで読もうと思う書籍がほとんどなかったし、まわりの人達も使っていなかったのだ。

37

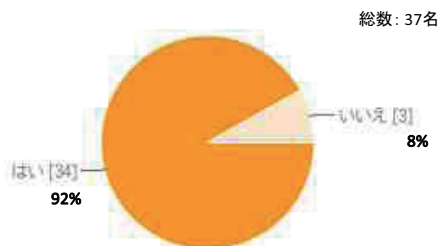
B-2. 紙の本と電子ブックはどんな風に使い分けていますか？

携帯性、内容、使う時間や場所を考えて使い分けしたり、今後使い分けたいと考えている。

- ・論文などの書き込みをする必要があるものは、マーカー機能やメモが使い易ければ電子ブックで読むが、使いにくければ紙の本で読む。
- ・勉強に必要な学術書は紙の本、小説などの娯楽的な本は電子ブックで読むと思う。
- ・しっかり読みたい時は、本を買う 全体をなんとなく把握したい時は、電子ブックを使う。電車では非常に電子ブックが使いやすい
- ・紙の本は、目的を定めて、腰を据えて読む目的で。長時間、図書館等で勉強する時など。逆に電子ブックは、空き時間など、電車内の移動中、カフェなど。

38

B-3. 今後もっと電子ブックを使ってみたいと思いますか？



39

B-3. 理由

- ・一度に多くの書籍を持ち運べるというのは魅力的
- ・電車の中やちょっとした空き時間に使うのに便利どれが読みたい、という目的がなくても媒体さえあればいいから
- ・これから電子ブックは量が増え、使いやすくなっていくと予想できるから。
- ・「いいえ」というよりも、検索が必要な膨大な資料であれば使いたいと思うかもしれないので「はい」と「いいえ」の間なのですが、電子ブックはインターネット上の情報と同じく、来ては流れ去っていく流動的な情報のような印象が強く、きちんと手に入り頭に入った情報ではないような印象をもちました。印刷ができるとまた違うのかもかもしれません。抜き出したところもまとめて印刷して「引用ノート」のようなものが作れるといいと思います。

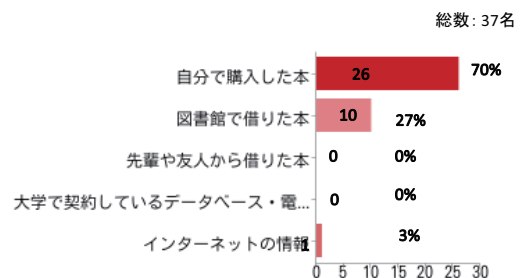
40

B-4. 現在、自分で買う本と図書館で借りる本は、どのような使い分けをしていますか？

- ・買う本...ずっと持ち続けたい、何度も読みたい本。借りる本...一回しか読まなそうな本、高い本。
- ・まず、ほしい書籍があれば、図書館にあるかどうかを調べます。あれば、図書館から借りて、まず読みます。読んだ後、この書籍はこれからも持つべきの良い内容でしたら、本屋で購入します。最初から図書館になれば購入します。もちろんアマゾンなどでユーザの口コミを参考にしながら購入を決めます。
- ・書き込みたい本(何度も使う本)は買うが、それ以外は借りている。

41

B-6. 授業で、どんな情報を一番利用しますか？



42

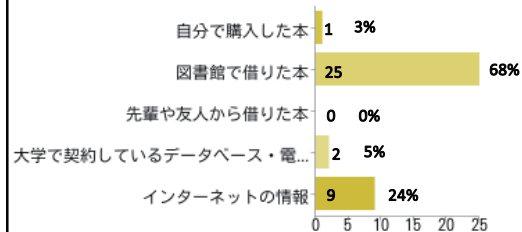
B-6. 理由や状況(授業)

- ・ 授業で用いる本は基本的に購入して常に使えるようにしている。
- ・ 授業⇒授業で使う本は一定以上の期間恒常的に利用するため購入する
- ・ 授業では、課題図書がある場合がほとんどで、予習復習等、1学期間通して自分のペースでやりたいので購入することが多い。
- ・ 授業で薦められた参考書をすべて買っていたら、高くつくから図書館で借りる。

43

B-6. レポート作成で、 どんな情報を一番利用しますか？

総数: 37名



44

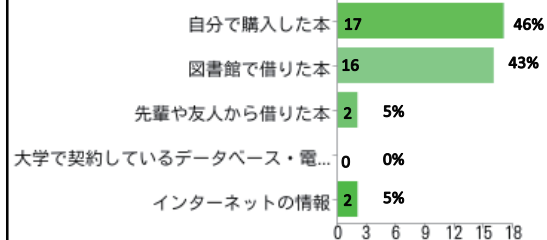
B-6. 理由や状況(レポート)

- ・ レポートなどは何冊も参照することが必要なこともあるから買わない
- ・ レポートは実験のレポート作成が多く、手っ取り早く該当箇所の内容について調べたいと思った時に図書館を利用する。
- ・ レポートでは電子ジャーナルも用いるが、使いたい資料に限って公開されていない事が多いので、図書館の本に頼る事が多くなっている。

45

B-6. 定期試験勉強で、 どんな情報を一番利用しますか？

総数: 37名



46

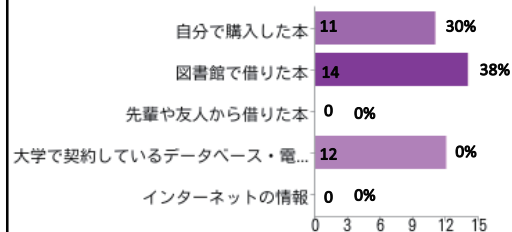
B-6. 理由や状況(定期試験)

- ・ 試験も授業内容での試験なので、授業で使う本(=購入する本)がメインになります。
- ・ 授業や定期試験勉強はリンクしていることが多く、長く使いそうな本を自分で買っているので主にそれを使い、補助目的で図書館で借りる。
- ・ 授業と定期試験勉強には指定の教科書を使うため、購入した本を使います。
- ・ レポート・試験勉強⇒一時的にしか使わないため購入はしない。また、インターネットは不確かな情報が多く混ざっているため、主に用いるのは図書館で借りた本になる。

47

B-6. 研究で、 どんな情報を一番利用しますか？

総数: 37名



48

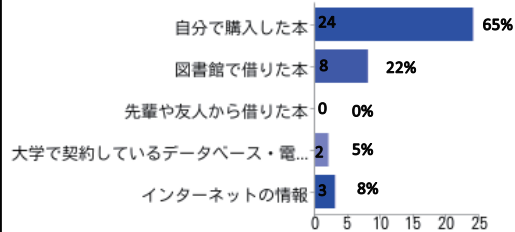
B-6. 理由や状況(研究)

- ・レポート作成や研究には、欲しい文献が検索するだけですぐに見つかるので、データベースを使うことが多いですが、データベースにないときには図書館の専門書を見ます。
- ・研究→専門的な知識に関してはデータベースが豊富
- ・研究に関しては電子ジャーナルで論文を読むということがほとんどである。最近の論文はほとんど電子化されていて大半は電子ジャーナルで読めるからである。
- ・研究は研究室の本プラス図書館で調べる。

49

B-6. 個人の勉強で、 どんな情報を一番利用しますか？

総数：37名



50

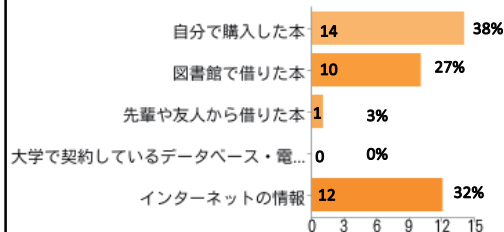
B-6. 理由や状況(個人の勉強)

- ・個人の勉強は自分の好きなことを勉強するので、本を買って書き込んだりして使いたい。
- ・個人の勉強ではやったところに印をつけていって達成感を得るのが好きなので、借りた本よりも買った本をよく使っている。

51

B-6. 趣味・娯楽で、 どんな情報を一番利用しますか？

総数：37名



52

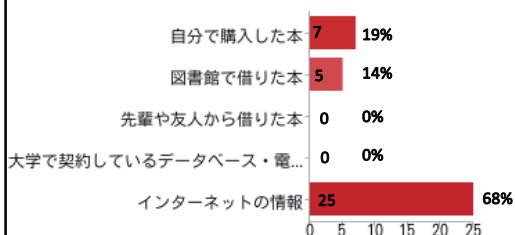
B-6. 理由や状況(趣味・娯楽)

- ・趣味・娯楽の本は一生ものなので自分で買い、何度も楽しむ。
- ・趣味の分野には、お金を惜しまないので購入しやすい。
- ・その他の個人勉強や娯楽などは、インターネット情報を先に参考にして、必要であれば、関連書籍を購入するパターンが多いです。
- ・趣味・娯楽・サークル活動などは、情報の質も低くていい場合が多いのと、お金をかけるのがもったいないので、インターネットで済ませます。

53

B-6. 部・サークル活動で、 どんな情報を一番利用しますか？

総数：37名



54

B-6. 理由や状況(部活・サークル)

- ・サークル活動に関しては、情報量の多いインターネットを使うのが一番便利だと感じている。
- ・サークルではやはりその場に応じた情報収集が求められるため、インターネットを活用することが多い。
- ・正確な情報は必要とせず、手軽に情報を得ることが目的になるため、インターネットを主に利用する。

55

B-7. 過去1年間に、何冊くらい図書館で本を借りましたか？

～5冊	6～10冊	11～20冊	21～30冊	31～40冊	41～50冊	51～70冊	71～100冊	101～200冊
3人	1人	11人	5人	4人	2人	3人	5人	3人
8%	2%	30%	16%	11%	3%	8%	14%	8%

- ・平均 約48冊

56

B-8. 将来の電子ブックはどのようになっていると思いますか？5年後を想像し、自由に書いてください。

<普及している>

- ・本の電子書籍化が進み、今と比べて分野も書籍数も多くなって、もっと一般に普及していると思う。
- ・今電子ブックデバイスは、iPadかキンドルくらいが主流なものがないが、今後増えていくのなら電子ブックは増えていくように思える。
- ・利用者が増えてるのは間違いない。一方紙媒体を追いやるほどではないと思う。
- ・5年後は電子ブックの数が多くなっており、また通信インフラもよくなり、電車の中でも通信ができています。自由に通信ができ、思いついた瞬間その場で、書籍を検索し、口コミや目次などから購入するかどうかを判断して、購入します。電車にのって、目的地までいかに読みたい本を読み、フェイスブックなどのSNSにこの本を読んで、この部分が良かったなどの情報を共有すると思います。

57

B-8. 将来の電子ブックはどのようになっていると思いますか？5年後を想像し、自由に書いてください。

<まだ普及していない>

- ・5年後はまだ日本では電子ブックに変化はないと思われる。著作権法の改定、また権利者への印税の増額等で権利者に電子化を進める意欲を持たせないと現状のまま変わらないと思われる。
- ・まだ普及しない。出版業界や書き手がまず電子に向かわないと、紙を電子にする手間をふんでいるかぎり普及はまだまだ。情報に強い人間には普及し、情報弱者はいつまでも紙にこだわると思う。ただ、電子ブックが拡大市場であることは確か。

58

B-8. 将来の電子ブックはどのようになっていると思いますか？5年後を想像し、自由に書いてください。

<電子学術書に関する意見>

- ・学術向けになるのはもっと先の時代となると思う。先生が作ったpptや授業補助資料などを電子書籍端末で読む学生は増えている気がする。
- ・一部の先生が自分のレジュメと電子の教科書を連動させ始めそれを他が追隨する。学生の間では流行が発生し、読まれる本と読まれない本の差が顕著になると思う。
- ・論文程度であれば学術的な内容でも電子ブックで読む事は広まると思うが、学術書となるとそれらは広まらないと思う。
- ・学術書、参考書など書き込んだりするものは一部紙媒体が残っていると思う。
- ・iPad+Kindleのような目に優しいカラーのリーダーが登場して、書き込みながら使える電子ブックが大学で利用できるようになっている、と嬉しい。
- ・授業の教科書はすべて電子ブックになっている。
- ・学術書や論文がすべて電子ブックになっていると考えます。
- ・5年後にはかなり我々の生活に電子ブックが定着していて、大学では”ペーパーレス・オンライン講義”を売り出すところが出てくるかもしれない。

59

B-8. 将来の電子ブックはどのようになっていると思いますか？5年後を想像し、自由に書いてください。

<図書館に対する意見>

- ・いつでも使える図書館のような存在。貸出によるストレスがなくなる。
- ・図書館の本は全て電子書籍として借りることができるようになっていなければならない(これは慶應が主体的にやるべき)
- ・図書館の本も大多数が電子化している。

60

2011 年度私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会

2011 年 10 月 27 日(木) 15:30~17:00

大学生の読書について考える

東京家政大学 平山祐一郎

このレジュメをお読みになる方へ

- ◇このレジュメは上記テーマの講演時の補助資料です。
- ◇講演の際はパワーポイントを用います。スライドもご覧下さい。
- ◇講演でお話する内容は、このレジュメの構成と一致しない場合があります。

1. 研究の動機

～なぜ大学生の読書を研究することになったか～

(1) 私の研究史Ⅰ：「作文研究」

- ①教育実践の効果を実証的に把握したい。
- ②効果を理論的に説明した。
→学術的な興味

(2) 私の研究史Ⅱ：「読書研究」

- ①日常接している大学生の読書実態を知りたい。
- ②大学生に読書をして欲しい。※読書指導（支援）方法の開発もしたい。
→教育（実践）上の関心
☆読書研究の本音の動機と5つの仮説

2. 研究の経緯

～どのように研究を進めてきたか～

(1) 調査研究

☆今までの調査研究のすべては、下記の書籍にまとめました。

平山祐一郎 2008 大学生の読書状況に関する教育心理学的考察 (財)野間教育研究所
以下にこの書籍に収められた研究の概略を示します。

①自由記述研究 ー研究の仮説設定と質問項目作りのためにー

《質問内容：回答は自由記述による。》

- 問 1-1 あなたの読書量を教えてください。
- 問 1-2 あなたは本屋・書店にどれくらい通っていますか？
- 問 1-3 あなたは図書館にどれくらい通っていますか？
- 問 1-4 あなたの周囲にいる読書家は誰ですか？
- 問 1-5 あなたの蔵書スペースはどれくらいですか？
- 問 2-1 あなたは本を大切にする方ですか？
- 問 2-2 本を大切にするとはどういうことですか？
- 問 2-3 本を大切にしないとどうということですか？
- 問 3-1 本を読むことによって得られることは何ですか？
- 問 3-2 本を読むことによって失われることは何ですか？
- 問 4-1 自分をもっと本を読むようになるためには、何が必要だと思いますか？
- 問 5-1 読書離れとは何ですか？自分なりに定義して下さい。
- 問 5-2 読書離れはなぜ起きていると思いますか？
- 問 5-3 読書離れを防ぐにはどうしたらよいと思いますか？

②導入研究 ー自由記述回答を基に作成された質問紙による多読者と少読者の比較ー

- 1) 多読者と少読者の比較から見えてくること
- 2) 多読者と少読者の比較では見えないこと
- 3) 大学生の読書習慣を支えているものは何か

③読者類型化研究 — 4つの読者類型から見えてくるもの —

【目的】多読者と少読者の単なる二者比較ではなく、「どんなときに読書をするか」という観点から読者を「4つの類型」で捉える。

☆「どんなときに読書をするか」

→「すき間時間」読書と「ゆとり時間」読書の2観点

《「すき間時間」読書を問う質問項目》

- 1) 外出（大学に行くなど）するときには、本を持っていく。
- 2) 電車やバスを待っている時に、本を読むことがある。
- 3) 立ったまま本を読むことがある。
- 4) 休講などで突然に出来たひまな時間に、本を読むことがある。
- 5) 本を読む場所を選ばない。
- 6) ちょっとしたひまな時間に本を読むことがある。
- 7) 授業の休み時間に本を読むことがある。

《「ゆとり時間」読書を問う質問項目》

- 1) 休日にゆっくりと読書することがある。
- 2) ゆっくり過ごせるゆとりのある時間に本を読むことがある。
- 3) 長い休み（夏休みや冬休み、春休みなど）にゆっくりと本を読むことがある。
- 4) ゆっくりと長い時間をかけて、本を読むことが楽しい。
- 5) 寝る前にゆっくり読書することがある。
- 6) もし時間がたくさんあれば、本に使う。
- 7) いったん本を読み始めたら、しばらく読み続ける。

【4つの読者類型化】

4つの類型 → 「本格（日常）」「消費（携行）」「稀少（不読）」「趣味（余暇）」

- 1) 「すき間時間」でも「ゆとり時間」でも読む。……本格（日常）的読書タイプ
- 2) 「すき間時間」中心に読む。……消費（携行）的読書タイプ
- 3) 「すき間時間」でも「ゆとり時間」でも読まない。…稀少（不読）的読書タイプ
- 4) 「ゆとり時間」を中心に読む。……趣味（余暇）的読書タイプ

【4つ読者類型から見えてくるもの】

④読書動機研究 ー大学生はどのような動機で読書をしているかー

①の自由記述研究を主たる素材として、大学生の読書動機を測定する質問項目を作成し、その回答結果に対して因子分析を行った。そして、4つの因子を抽出した。

- 1) 「娯楽休養」読書動機 reading for recreation
- 2) 「錬磨形成」読書動機 reading for self cultivation
- 3) 「言語技能」読書動機 reading for linguistic skills
- 4) 「影響触発」読書動機 influenced reading

《質問項目》※以下の各項目の冒頭に「私が本を読むのは」が付きます。

1) 「娯楽休養」読書動機

- 1-1 リラックスするためだ。
- 1-2 のんびりくつろぎたいからだ。
- 1-3 本の世界が好きだからだ。
- 1-4 読書を楽しみたいからだ。
- 1-5 気分転換をするためだ。
- 1-6 あれこれと想像することが好きだからだ。

2) 「錬磨形成」読書動機

- 2-1 自分自身についてあれこれ考えを深めるためだ。
- 2-2 自分を見つめなおすためだ。
- 2-3 人間として成長したいからだ。
- 2-4 自分の悩みの解決に役立てたいからだ。
- 2-5 いろいろな考え方を知るためだ。

3) 「言語技能」読書動機

- 3-1 読解力をつけるためだ。
- 3-2 漢字の読み書きに強くなりたいからだ。
- 3-3 文章の書き方を学ぶためだ。
- 3-4 語い（ボキャブラリー）を豊かにするためだ。

4) 「影響触発」読書動機

- 4-1 (その本が) 世間で評判になっているからだ。
- 4-2 (その本が) 友達の間で話題になっているからだ。
- 4-3 (その本が) 話題になっているからだ。
- 4-4 (その本を) まわりの人が読んでいるからだ。
- 4-5 (その本を) 友達が熱心に読んでいるからだ。
- 4-6 ひとからすすめられるからだ。
- 4-7 (その本が) 映画やドラマの原作だからだ。

⑤発展研究 ー①～④の研究をまとめた質問紙による研究ー

4つの読書タイプを特徴づけるため、

- 1) あなたは1週間のうち、平均するとだいたい何日くらい本を読みますか？
- 2) あなたの読書時間は、平均すると1日に約何分くらいですか？
- 3) 本年4月の1ヵ月間に、何冊本を読みましたか？
- 4) 本年5月の1ヵ月間に、何冊本を読みましたか？
- 5) 携帯電話を1日何分くらい使用していますか？
- 6) テレビを1日何分くらい見えていますか？
- 7) パソコンを1日何分くらい使用していますか？
- 8) ゲームは1日何分くらいしますか？
- 9) 娯楽休養読書動機得点
- 10) 錬磨形成読書動機得点
- 11) 言語技能読書動機得点
- 12) 影響触発読書動機得点
- 13) 読書愛好得点
- 14) 読書環境得点
- 15) 友人重視得点
- 16) 読書歴得点
- 17) 読書重視得点
- 18) 読書敬遠得点
- 19) 読書習慣得点

以上の19観点から、「本格（日常）」「消費（携行）」「稀少（不読）」「趣味（余暇）」

の読書タイプを比較した。

※特に、消費（携行）型読書タイプに注目した。大学生に対する読書指導（支援）を考える際に、このタイプの大学生は目標像の一つになるのではないだろうか。

(2) 概念研究

☆読書に関する基本的な平山の考え方を以下の連載にまとめました。

連載 ネット時代の読書論 全 24 回

（「指導と評価」誌 財団法人日本図書文化協会 2008 年 4 月号～2010 年 3 月号）

※お手元にある印刷物です。

3. 現在の課題とこれからの展望

～現在直面している課題とその打開策について～

(1) 現在の課題、すなわち研究の壁（困難）について

- 1) 読書調査が不読者調査になりつつある。
- 2) 読者の類型化ができない。
- 3) 読書について、「突っ込んだ」質問項目を実施することができない。
- 4) 読書するという行為が変容している（過渡期である）。
- 5) 読書の意味が本質的に認識されなくなっている。
- 6) 読書との対比物（新聞、テレビ、インターネット、携帯電話等）が急速に変容している。

(2) これからの展望① 一紙の本の読書の一般化戦略

読書調査ではなく、読書指導（支援）へ。

(3) これからの展望② 一紙の本の読書の特殊化戦略…特技化路線

全ての大学生のための読書ではなく、それを特技としようとする学生のために。

読書のイメージ：「読むこと」への意識と描き方

1. 読書する人の姿

- ・ 読書画像：読書する人を描いた絵画、挿絵、彫像などの図像（以下「読書画像」）
- ・ 近年、欧米を中心に関心が高まる
- ・ 読書の実態を知るうえで非常に貴重な資料
 - ⇒ 読書史や書物史の傍証
- ・ 特定の意図をもって描かれる読書画像：風刺や教化
 - ⇒ 読書の実態の忠実な反映であるとは限らない
- ・ 読書画像と読書史の関係についてはあまり研究が進んでいない
- ・ 今回の焦点：西ヨーロッパの中世以降の読書画像と読書史の関係
 - 読書史が描き出してきた読書行為は、どのように、またどの程度まで読書画像に反映されているのか
 - 読書画像の分析は、読書の分析にどのように役立つのか

2. 読書史が描く西ヨーロッパの読書・読者

(1) 中世初期

- ・ 誰が？ ⇒ 修道士（男性）
- ・ 何を？ ⇒ 聖書の霊的な精読と瞑想
- ・ 読み方 ⇒ 集中的で反復的な読書（精読）
音読、瞑想や暗記の助けとしての呟くような音読、黙読

(2) スコラ学の時代（11 世紀～）

- ・ 誰が？ ⇒ 哲学者・神学者（男性）
- ・ 何を？ ⇒ 解説や注釈書、選集を使いこなす実用的・技巧的な読書
- ・ 読み方 ⇒ 専門家の間では黙読の確立

(3) 中世後期（14 世紀頃～）

- ・ 誰が？ ⇒ 貴族階級、印刷術の登場後は市民階級の男性も
- ・ 何を？ ⇒ 聖書、信心の書、文学作品（娯楽作品）・・・（自国語も増加）
- ・ 読み聞かせ（集団的な音読）と個人的な黙読
- ・ ルネッサンス期には書物の小型化と読書の場所の拡大が起こる

(4) 18 世紀後半の「読書革命」

- ・ 精読から、熱中する拡散的な読書（多読）へ
- ・ 朗読による社交的な読書と黙読による孤独な読書の二極化
- ・ 娯楽のための小説読書（特に女性の私的な小説読書）が増加

(5) 19 世紀：新聞・雑誌・小説の流行

- ・ 女性や労働者へ読者層が拡大

3. 読書画像データベースの作成

(1) 対象とする読書画像

- ・ 中世から 20 世紀末までの西ヨーロッパの読書画像
- ・ よく知られた画像を中心に収集
- ・ 極端に多い同種の画像、本が明らかに象徴的な意味しか持っていない画像は除外

世紀別の収集画像数(西洋)

世紀	13	14	15	16	17	18	19	20	不明	合計
画像数	3	7	70	44	93	64	155	29	10	475

(2) 参考：日本の読書画像

- ・ 資料が豊富な江戸時代を中心に、12 世紀（平安時代後期）から 20 世紀半ばまでの浮世絵・書物の挿絵・絵画・図録・写真などから収集
- ・ 執筆している姿との区別が明らかではないものや、極端に多い同種の画像は除外

時代別の収集画像数(日本)

平安後期	江戸					幕末・明治	大正	昭和	合計
	鎌倉・室町	前期	中期	後期	不明				
6	17	45	93	38	24	46	5	21	295

(3) 分析の項目

- ・ 基本データ：画題、画家、作成年代、所蔵機関、技法など
- ・ 画像の分析：読書主体の性別と年代、読書対象の数・形態・大きさ、読書の場所（窓辺、野外など）、時（季節や時間など）、姿勢（立っている、座っている、など）、本の持ち方（片手、両手）など

4. 読書画像の分析

(1) 象徴

- ・ 聖性、信仰心、人間の知識の虚しさ、学識の象徴
⇒ 神学者、十二使徒や福音史家、教父の図像学的特徴
- ・ 肖像画では書物を持って描かれる男性が定式化
- ・ 参考) 日本では僧侶、陰陽師、易者などの職業的権威の象徴。また江戸時代中期には知的美人の象徴として美人・遊女の読書画像が多い

(2) 読書主体

- ・ 男性 216 件、女性 259 件
- ・ 中世初期：男性の聖職者、学者、聖人の読書が中心
- ・ 中世後期：男性貴族と女性（聖人や貴族階級の一般信徒）の読書も描かれる

読書する聖母マリア像

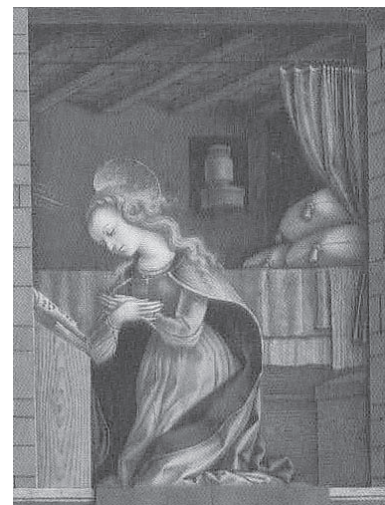
聖マグダラ（マグダラのマリア）

- ・ 17 世紀後半以降：一般女性の読書画像が増える

(3) 読書の場所と姿勢

- ・ 室内の場合は窓辺が多い
- ・ ベッドでの読書

13～16 世紀：男性聖職者、王侯貴族



17世紀以降：女性（娯楽的な読書）

- ・ 野外での読書
 - 13～17世紀：男女の聖人
 - 18世紀以降：娯楽的な読書
 - 19世紀以降：女性の娯楽的な読書
- ・ 姿勢：座っている、立っている、跪く
 - 近代には寝そべる、歩いている姿勢も登場
- ・ 参考) 日本では野外の読書の図像は少ない。古くからさまざまな、くつろいだ姿勢の読書が描かれており、独自の読書の姿勢「正座前のめり」も発見された。机の前に端座する読書画像は少ない。



5. 読書史と読書画像

(1) 音読・朗読と黙読

- ・ 音読や黙読といった区別が明示的に示されている読書画像は少ない
- ・ 人と一緒＝音読とは限らない
- ・ 農民や労働者の一家における大型聖書の読み聞かせの図像
 - ⇒ 教化を目的とした理想像の反映や誇張表現

(2) 女性の読書とリテラシー

- ・ 「理想の読者像」としての読書するマリア像
 - ⇒ 女性の読書への警戒や社会通念との葛藤
- ・ さまざまな段階のリテラシー
- ・ 書物を「開いていること」や「読むこと」と、「読めること」や「理解していること」は必ずしも同じではない
- ・ 19世紀の一人で物憂げに読書する女性、野外での読書
 - ⇒ 読者層の拡大やロマン主義の読者の誕生という現象と一致
 - ⇒ 光と影の効果を描くために好まれた題材
- ・ 参考) 日本では、明治より前には女性の読書に対する警戒の表現は見られず、教養やたしなみとして好意的に描かれていた。大正時代末期・明治時代には、雑誌に耽溺し、書物に過度に依存する女学生への風刺が登場した。

(3) 読書の様式と複数の書物

- ・ 中世：男性の聖人・学者の机の上や横
 - ⇒ スコラ学的な技巧的読書
- ・ 近代：読書主体との直接的な結び付きは弱い
- ・ 18世紀以降：女性と複数の書物
 - ⇒ 小説読書への批判・警告
- ・ 参考) 日本では、男女ともに複数の書物と共に描かれた。その場合、書物は乱雑に置かれ、読書主体はくつろいだ姿勢をとっていることが多い。

(4) 描かれにくい読書

- ・ 中世：飲食しながらの読書、汚れた手での読書、乱雑な取り扱い

- ・ 近代：男性のコーヒーやパイプ片手の読書が登場、食べながらの読書画像は少ない
何かしながらの読書 ⇒ カリカチュア
- ・ 私的空間での、何かをしながらの、くつろいだ読書の中立的な描写は少ない
- ・ 参考) 日本では、くつろいだ姿勢をとった読書主体が多く見られた。煙草を呑みながらの読書や、飲み物を傍らに置いた読書、炬燵に入っただけの読書など、行儀が悪いとされる読書は描かれている。一方、食べ物をとりながらの読書は、西洋と同じく描かれにくい。

6. まとめ

- ・ 読書史が描き出す読者・読書の類型と読書画像は、必ずしも常に対応していない
- ・ 読書画像が常に同時代の読書の実態を反映しているわけではない
- ・ 好んで描かれる読書行為の類型がある
- ・ 描かれにくい読書行為がある
- ・ 読書画像における書物の描き方や、読者の姿勢に注目することで、必ずしも均質ではない読書行為の実態を分析することが可能になる

7. 参考文献

【読書史】

Chartier, Roger; Cavallo, Guglielmo, eds. 読むことの歴史：ヨーロッパ読書史. 田村毅他訳. 大修館書店, 2000.

Chartier, Roger. 読書と読者：アンシャン・レジーム期フランスにおける. 長谷川輝夫, 宮下志朗訳. みすず書房, 1994.

Classen, Albrecht, ed. The book and the magic of reading in the middle ages. Garland Publishing, 1998.

Finkelstein, David; McCleery, Alistair, ed. The Book History Reader. London, Routledge, 2002.

Engelsing, Rolf. 文盲と読書の社会史. 中川勇治訳. 思索社, 1985.

Manguel, Alberto. 読書の歴史：あるいは読者の歴史. 原田範行訳. 柏書房, 1999.

【読書画像】

石井美樹子. 聖母のルネサンス：マリアはどう描かれたか. 岩波書店, 2004.

田村俊作編. 文読む姿の西東：描かれた読書と書物史. 慶應義塾大学出版会, 2007.

Bollmann, Stefan. *Women who read are dangerous*. Shuttleworth, Christine, trans. Merrell, 2008.

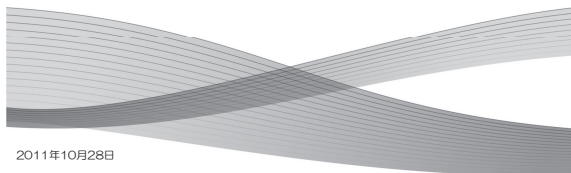
※ドイツ語（2005）からの翻訳、図版多数

Stewart, Garrett. The look of reading: Book, painting, text. University of Chicago Press, 2006.

※図版多数



紙と電子メディア: 読みの作業効率と環境負荷の比較



2011年10月28日

富士ゼロックス株式会社

研究技術開発本部 コミュニケーション・デザイン・オフィス
栗田 博仁, 高野 健太郎, 大村 賢佑
hirohito.shibata@fuji-xerox.co.jp

FUJI XEROX

アウトライン

1. 環境負荷の観点から紙と電子メディアを比較
 - ✓ 読んだり議論したりするシーンで、紙を用いる場合と電子メディアを用いる場合でCO₂排出量を比較
 - ✓ 紙とコンピュータ・ディスプレイの作業効率を比較
2. 電子書籍端末の評価を行い、紙の書籍に対する代替可能性を検討

FUJI XEROX

研究の背景

- ペーパーレスオフィスの第1の波 (1970年代)
 - ✓ PARC (Xerox Co.) 世界初のパーソナルコンピュータ Alto を開発
 - 紙を模した縦型のビットマップディスプレイを備え、Ethernetを介してコンピュータがつながる
 - ✓ しかし、紙の消費は増え続けた
 - より多くの文書を作るようになり、より多くの文書をプリントするようになった
- 第2の波 (1995)
 - ✓ インターネットの普及とPCの大衆化
 - ✓ しかし、それでも紙は増え続けた
 - より多くの情報にアクセスできるようになり、より多くの文書をプリントするようになった
 - 電子情報が指数関数的に増える一方で、紙の線形ではあるが、堅調に増え続けた
- 第3の波 (現代)
 - ✓ 電子書籍端末 (Kindle, iPad) の出現
 - ✓ エコ、セキュリティに対する意識の高まり
 - ✓ 2008年以降、オフィス紙の需要は実際に減少している



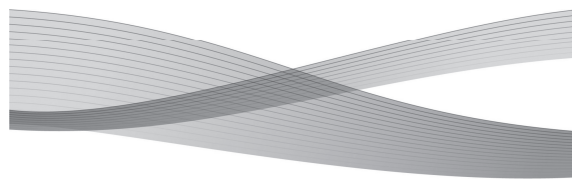
A.J. Sellen and R.H. Herzer 1990 用紙に代る電子ペーパーレスオフィスの神話-なぜオフィスは紙で賑わっているのか?、巻4号、(2007)



FUJI XEROX

Part 1 紙は環境の悪者か?

環境負荷・作業効率の観点からの紙と電子メディアの定量比較



FUJI XEROX

ペーパーレスオフィス研究

研究課題

- 紙は今後、どのようになるのか?
- 紙と電子メディアの利点と欠点は何か?

ペーパーレスオフィス研究 (紙の認知研究)

- 2007年「ペーパーレスオフィス・プロジェクト」として開始
- 狙いは「紙を排除することではなく、状況に応じて適切にメディアを使い分けること」
- これまでの調査・実験
 - ✓ 紙、電子メディアがどのように利用されているのかの調査
 - ✓ 紙を用いる場合と電子メディアを用いる場合の読み書きのパフォーマンスの比較実験
 - ✓ ペーパーレスワークスタイルの尺度構成
 - ✓ オフィスから紙を排除する試み
 - ✓ プリントログの分析

FUJI XEROX

紙はオフィスの悪者か? ~紙に対するイメージと現実~

紙の原料は木
木はエコ (グリーン) の象徴
→ 紙はエコの悪者?

日本製紙連合会の調査 (2008年、N=1000) によると
「紙の消費と森林減少に関係があるか」の問に対して
「あると思う」「ややあると思う」と答えた人が73.8%

紙は目につきやすい
机の上に高く積まれた紙は、無駄の象徴
森林伐採の産物であることを連想させる

アル・ゴア『不都合な真実』p315
「毎週、米国人に新聞の日曜版を供給するために、森1つ分に当たる50万本以上の木が必要になる」

実際には、紙の生産における古紙利用率は61.9%(2008年)
紙の原料の大半は紙
「紙は紙から作られている」

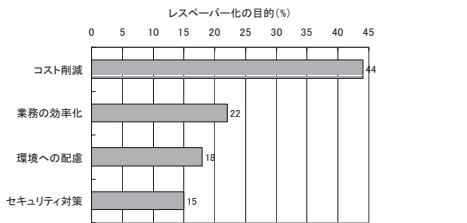
実際には、電力消費量も見えるようになれば、電力に対する受け止め方も随分と違うはず

実際には、少なくとも日本では、新聞用紙の生産における古紙利用率は75%(2005年)
パルプ材の調達においても、人工林からの調達、間伐材や製材残材が活用されている

FUJI XEROX

紙削減の実施と目的

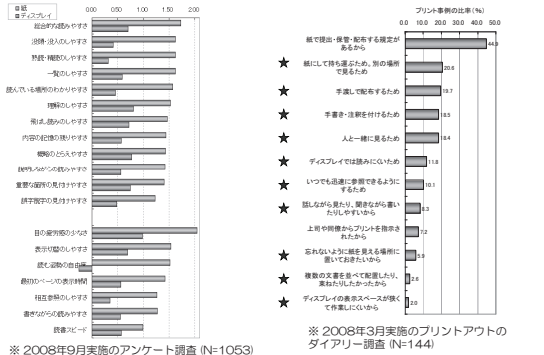
2009年8月実施 (N=2050) の調査から
 プリントやコピーにおける出力枚数を制限するレスペーパー化を実施している組織は全体の59%



FUJI XEROX

CO₂排出量の観点から見た紙

それでも紙は好まれている

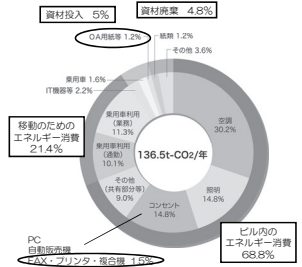


FUJI XEROX

オフィスでのCO₂排出量における紙の位置づけ

伊藤ら (2008) によると、日本の典型的なオフィスにおいて、オフィスでの全CO₂排出量に対して、紙の資源消費によるCO₂排出量の占める割合は1.2%
 ○ FAX、プリンタ、複合機の電力によるCO₂排出量の占める割合は1.5%

合わせて2.7%、これは、空調 (30.2%) の1/11 以下
 照明 (14.8%) の1/5 以下



算出の考え方
 ・ 9人のオフィス
 ・ 1台のPC保有
 ・ FAX、複合機、プリンタは3台保有
 ・ OA用紙は、1人1日21枚の消費
 ・ 1人1日あたり業務に伴う移動量は27km (うち、半分近くが乗用車、40%近くが電車)
 ・ 乗用車を5台所有 (10年間使用)

伊藤 裕二、川本 真樹、藤野 雅明『日本のオフィスの平均的CO₂排出量は紙削減の可能性検討』(エコデザイン2008 ジャパンシンポジウム)より

FUJI XEROX

問題提起

(組織が考えるように) 紙はオフィスの悪者か?
 (個人が考えるように) 紙は業務を進めるうえでなくてはならないものか?

CO₂排出量の観点から
 作業効率の観点から
 ビジネスシーンにおける紙の位置づけを検討する

FUJI XEROX

行為ごとのCO₂排出量の検討

- 電子文書を読む際、どちらのほうがCO₂排出量が少ないか?
 - ✓ 紙にプリントアウトして読む
 - ✓ ディスプレイで読む
- 会議で電子文書を共同閲覧する際、どちらのほうがCO₂排出量が少ないか?
 - ✓ 人数分、紙にプリントして配布する
 - ✓ プロジェクタで投影する

12

FUJI XEROX

情報を表示するためのCO₂排出の種類

	エネルギー消費	資源消費	見なし消費
紙	プリンタの電力	紙 トナー	プリンタ利用
電子	ディスプレイの電力 PCの電力 プロジェクタの電力		ディスプレイ利用 PC利用 プロジェクタ利用

見なし消費とは、製品の素材、製造、運送、廃棄の段階でのCO₂排出量を利用量に応じて均等配分し、各製品の利用でCO₂を排出したと見なすもの

情報表示のためのCO₂排出量の算出における2つの考え方

- 見なし消費を除いてCO₂排出量を算出する場合
 - ✓ ミクロな視点では直感に合う（今このときにプリンタを使わなかったとしても、プリンタがなくなる限りプリンタ利用の見なし消費は減るわけではない）
 - 『環境の側面からの紙と電子メディアの比較』（柴田・大村：紙ハブ技術タイムズ、Vol.53、No.6、2010）では、見なし消費を含めずCO₂排出量を算出した
- 見なし消費を含めてCO₂排出量を算出する場合
 - ✓ マクロな視点では現実を正しく反映（今このときだけでなく、プリントを継続的になくせば、プリンタが不要になり、プリンタの見なし消費が減る）

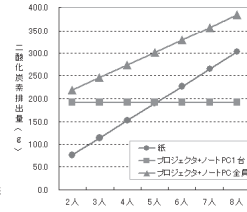
会議で文書を共同閲覧する場合 紙 vs プロジェクタ+PC

5人参加の1時間の会議で

- 10ページの文書を両面でプリントして全員に配布すると、
 - ✓ $5枚 \times 5人 \times (5g-CO_2 + 2.58g-CO_2) = 189.5g-CO_2$
- ノートPCをプロジェクタに接続して1時間投影すると、
 - ✓ $(27.59g-CO_2 + 163.85g-CO_2) \times 1hr = 191.4g-CO_2$

これをふまえると

- ノートPCとプロジェクタの利用1時間は紙25枚のプリントに伴うCO₂排出量の値に相当
 - ✓ 会議で配布する紙が25枚以上ならプロジェクタのほうがCO₂排出量が少ない
 - ✓ 25枚以下なら紙のほうがCO₂排出量が少ない
- 会議に全員がノートPCを持ち込むとCO₂排出量が紙での資料配布の場合と逆転する（紙で配布するほうがCO₂排出量が多くなる）には参加人数が16人以上の場合



プリント出力1枚は、ノートPCとプロジェクタでの投影2.4分のCO₂排出量に相当

製品ごとの単位数あたりのCO₂排出量

産業環境管理協会のWebサイトの情報をもとに、2008年以降の製品を対象に算出

製品の種類	選定条件	製品数	ライフサイクルCO ₂ 排出量 (kg)	ライフサイクルCO ₂ 算出の条件	単位数あたりのCO ₂ 排出量
標準的PC	インテルCore メモリ4GB以下	11	225.00	稼働4.5時間/日、省電力4.5時間/日、240日/年、4年間	49.60 g/h
高性能PC	インテルCore メモリ4GB超	6	446.42		98.42 g/h
17型ディスプレイ	17インチTFT	5	105.67		23.36 g/h
19型ディスプレイ	19インチTFT	6	119.58		26.36 g/h
ノートPC		9	125.16		27.59 g/h
プロジェクタ	解像度 1280×800以上	13	286.75	3.6時間/日、100日/年、5年間	163.58 g/h
プリンタ	A3プリント可 電子写真方式	3	2379.73	製品ごとに総プリント枚数が異なる	2.58 g/枚

さらに、環境情報科学センター『CO₂原単位表(2007年版)』によれば、OA用紙1枚あたりのCO₂排出量は4~5g-CO₂以降では、OA用紙1枚あたり5g-CO₂に相当するものとして議論する。

見なし消費を含める場合と含めない場合の違い

	単位数あたりのCO ₂ 排出量		見なし消費の割合(%)
	見なし消費を含む	見なし消費を含めない	
紙	7.5 g/枚	5.0 g/枚	34.0
ノートPC	27.5 g/h	11.9 g/h	56.9
標準的PC構成	72.9 g/h	43.3 g/h	40.5
高性能PC構成	124.7 g/h	86.0 g/h	31.1
プロジェクタ	163.8 g/h	121.1 g/h	35.5

ライフサイクルCO₂排出量における見なし消費の占める割合は小さくない。
表示メディアのCO₂排出量の算出においては、見なし消費を含めるか否かを事前に十分検討する必要がある。

電子ペーパーにおいては、見なし消費が大きな割合を占めるはず。

文書を読む場合 紙 vs ディスプレイ

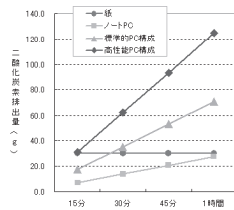
8ページの文書を読む場合

- 紙に両面プリントして読む場合、
 - ✓ $4枚 \times (5g-CO_2 + 2.58g-CO_2) = 30.3g-CO_2$
- 17インチディスプレイを備えた標準的PC（標準的PC構成）で30分読む場合、
 - ✓ $(49.6g-CO_2 + 23.3g-CO_2) \times 0.5hr = 36.4g-CO_2$

これをふまえると

- 標準的PC構成で30分文書閲覧するよりも、紙にプリントして読むほうがCO₂排出量が少ない
- 読むのに1時間かかるならノートPCよりも紙のほうがCO₂排出量が少ない
 - ✓ 英語の論文だと数時間かかる
- 後で読んでも、紙では追加でCO₂が発生することはない

プリント出力1枚は、ノートPCで16.5分、標準的PC構成で6.4分、高性能PC構成で2.6分のCO₂排出量に相当



作業効率の観点から見た紙

作業効率の検討の必要性

メディアが異なると作業効率も異なるのではないかな？

作業効率が悪いと労働時間が増える。

空調、照明といったオフィスインフラも長時間稼働することになる。

伊藤(2008)の分析によれば、空調、照明、PCなどの電力が、オフィスにおけるCO₂排出量の68.7%を占める。

実験1：単一ページのテキスト文書の校正読み

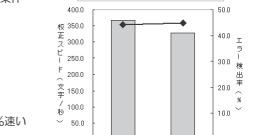
方法

- 被験者は20名
- 課題はテキスト文書の校正
 - ✓ 誤字脱字の表層エラーに加えて、文章の前後関係を正しく理解しないと検出できない文脈的エラー(「おじさん」であるべきところが「おばさん」になっているなど)を埋め込む
 - 90年前後に実施されて従来研究では、表層エラーの検出を行っていたが、高性能ディスプレイを利用する条件では紙とディスプレイで校正のパフォーマンスに違いはない
- 条件は紙とディスプレイ
- 修正箇所は、紙条件ではペンで書き込み、ディスプレイ条件ではAcrobatの書き込みツールで書き込み
- ✓ 両者の書き込み時間を計測して、後で結果を補正
- スピードは被験者に変える(セルフペース)

結果

- エラー検出率に違いはない
- 校正スピードについて、紙はディスプレイよりも11.9%速い

現在の最新のディスプレイを用いても、深い理解が求められる読みでは、紙はディスプレイよりも作業効率がよい。



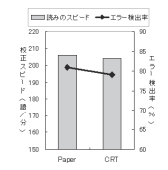
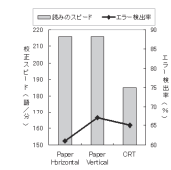
詳細については、大村 眞也、田口 海輝『高性能ディスプレイでの校正読みが紙より遅くなること』情報処理学会 創立50周年記念論文集 6, 2010年3月

紙とディスプレイでの読みを比較する Gould et al. (1987a, 1987b) による実験

J.D. Gould et al.: Reading is slower from CRT displays than from paper. Attempts to isolate a single-variable explanation. *Human Factors* 29 (5), 209-220, 1987b.

J.D. Gould et al.: Reading is slower from CRT displays than from paper. Attempts to isolate a single-variable explanation. *Human Factors* 29 (5), 209-220, 1987b.

J.D. Gould et al.: Reading is slower from CRT displays than from paper. Attempts to isolate a single-variable explanation. *Human Factors* 29 (5), 497-517, 1987a.



紙条件ではミスペルの単語を丸で囲む。ディスプレイ条件ではペンで指示する。

水平に置いた紙、垂直に置いた紙、CRTディスプレイと比較。ディスプレイは当時広く利用されていたCRTディスプレイ(IBM 5080, 解像度1024x1024)

紙とCRTディスプレイで比較。ディスプレイは高性能なCRTディスプレイ(IBM 5080, 解像度1024x1024)

当時の一般的なディスプレイではディスプレイは紙に劣るが、高性能ディスプレイを用いれば遅いとはなくなる

実験2：ページめくりを含んだ読み (1/3) 実験方法

タスク

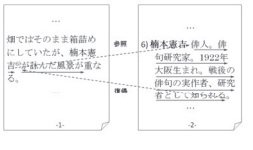
- 複数ページ(2ページ)からなる注釈付きテキスト文書(天声人語をもとに作成)を朗読
 - ✓ 1ページ目は本文(8つの注釈)
 - ✓ 2ページ目は注釈文のリスト
- 被験者ごとに6つのテキスト文書を朗読

被験者

- 18人(20代~30代、男女同数ずつ)

メディアは3種類

- 紙(B5サイズ、左上にホッチキス)
- 大きいディスプレイ(20インチ)
- 小さいディスプレイ(10.4インチ)
- ※ 電子環境では Acrobat Reader を利用
- ※ 紙、ディスプレイの両方で、文書の表示・印刷サイズが同じになるよう調整
- ※ 紙では両手でページめくり。電子環境では、スクロール、ページ切り替えボタンを利用してページめくり



朗読の音声波形から、音声の途切れと開始を取得することで、参照、復帰に要する時間を算出

詳細については、Shibata, H. and Omura, K.: Effects of paper on page turning: Comparison of paper and electronic media in reading documents with endnotes. In Proc. HCI International 2011, LNCS, Vol.6781, pp.92-101, (2011).

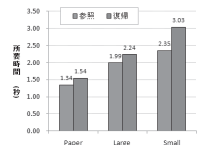
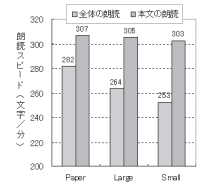
さらに追及すべき課題

1. 現在の最新のディスプレイでは、紙とディスプレイの読みのパフォーマンスに本当の違いが見られないのかを確認することが必要
2. メディアの操作性が読みに与える影響を分析することが必要
 - ✓ 従来の実験は、メディアの表示品質が読みに与える影響の分析に焦点が当てられてきた
 - ✓ われわれの調査(N=1053, 2008)では、ディスプレイの読み難さの要因として4つの因子があげられている
 - (1) 目にやさしくない表示特性
 - (2) 操作性上の制約(紙ならできることがディスプレイではできない)
 - (3) 身体的拘束
 - (4) 注意の集中を乱す視覚的乱
3. 電子書籍端末(Kindle, iPad)との比較が必要

3番目の電子書籍端末の評価については、次のパートで説明

ページめくりを含んだ読み (2/3) 実験結果

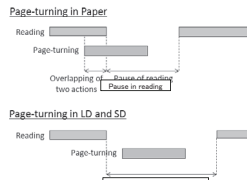
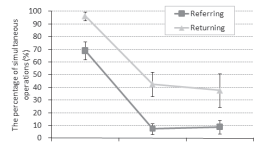
- 本文のみの朗読スピードについて、メディア間で違いはない
- 全体の朗読スピードについて、
 - ✓ 紙は Large-Display よりも6.8%高速
 - ✓ 紙は Small-Display よりも11.4%高速
- その理由として、
 - ✓ 紙では参照・復帰の中断時間が少ない



複数ページを頻繁に行き来する読みでは、紙はディスプレイよりも作業効率がよい。

ページめくりを含んだ読み (3/3) 紙での参照・復帰が速い理由

電子環境に比べて、紙では読みながらページをめくっている割合が高い [p<.001]



紙では読む行為とページをめくる行為が同時に行われている
i.e. 2つの行為が重なり合っている

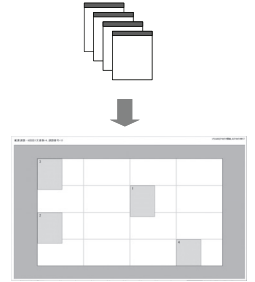
電子環境では読み終わってからページをめくっている
i.e. 2つ行為が完全に分断している

PC操作は視覚に強く依存している

複数文書の相互参照を含む校正読み (3/4) 追加実験: 紙でのパフォーマンスが高い理由

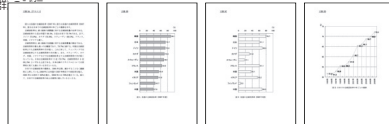
方法

- 被験者24名
- 指定した配置に紙またはウィンドウを配置
- 紙の操作に対する制約
 - ✓ 片手 (Single-hand) : 片手で操作
 - ✓ 領域制限 (Area-restricted) : 上部に青色の帯のついた紙を配布し、その部分に触りながら操作する
- 実験条件は5種類
 - ✓ Free (自由)
 - ✓ Single-hand (片手で操作)
 - ✓ Area-restricted (触る位置に制限)
 - ✓ Single-hand & Area-restricted (片手 & 位置制限)
 - ✓ PC (ウィンドウの配置)



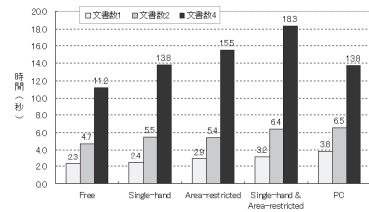
実験3: 複数文書の相互参照を含む校正読み (1/4) 実験方法

- 被験者24名
- 4つの文書からなる文書群 (3つの図とそれをもとに作成したテキスト文書) を相互参照しながら校正
 - ✓ 修正箇所アンダーラインを引く (紙、PCともに別文書に書き込み)
 - ✓ テキスト文書1つにつき、4つの修正エラー (修正の別の順序で検出できるエラー、4つの修正エラー 複数の図を参照しないと検出できないエラー)
 - ✓ 時間制限はなし、各自の好きなペースで校正
- 実験環境は3種類
 - ✓ 紙 (作業スペースに制限はない、紙文書はB5)
 - ✓ 作業スペースを制限した机での紙 (ディスプレイと同じサイズ、紙文書はB5)
 - ✓ PC (27インチディスプレイ、文書はB5サイズと同じ)
- 1人6文書群 (各環境2文書群)



詳細については、安田 博仁、大村 賢吾: 文書の移動・配置における紙の効率: 複数文書を用いた相互参照の読みにおける紙と電子メディアの比較. ヒューマンインタフェース学術論文誌, Vol.12, No.3, pp.301-311, (2010).

複数文書の相互参照を含む校正読み (3/4) 追加実験: 紙でのパフォーマンスが高い理由



結果

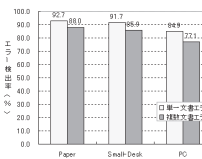
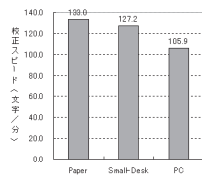
- 紙はPCよりも速い
- 紙において、片手で操作したり、触る位置を制限するなどの制約を加えると遅くなる

紙での文書配置が効率的な理由

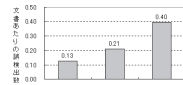
- 両手を使って複数文書に同時操作できること
- 視線を向けることなく操作が可能である
- 手を使った直接操作が可能なこと

複数文書の相互参照を含む校正読み (2/4) 実験結果

- 結果
 - ✓ 校正スピードについて、紙はPCよりも25.5%早い
 - ✓ エラー検出率について、紙はPCよりも10.7%高い
 - ✓ 誤ったエラー検出において、紙はPCの3分の1以下
- PaperとSmall-Deskに有意差はない、Small-DeskとPCの間に有意差
- ✓ メディア間でのパフォーマンス (校正スピード、エラー検出率) の違いは、作業スペースの広さによるものではない、文書の操作性によるもの



複数の文書を頻りに参照する読みでは、紙はディスプレイよりも作業効率が高い。



まとめ

まとめ

CO₂排出量について

- 紙とディスプレイ、紙とプロジェクタのどちらの方がCO₂排出量が多いかという問題は状況に依存
 - ✓ 紙のCO₂排出量は1回きり。電子機器の場合は表示時間に比例。よって、短時間の読みではPCディスプレイ、長時間の読みでは紙のほうがCO₂排出量の少なくなる傾向にある
 - ✓ 少人数の会議では紙、大人数の会議ではプロジェクタを利用するほうがCO₂排出量の少ない

作業効率について

- 次の作業では、作業効率の観点から紙の利用を検討すべき
 - ✓ 文脈を把握しながらの校正読みの場合
 - ✓ 複数のページを行き来する読みの場合
 - ✓ 複数文書を参照したり比較することが頻繁に生じる読みの場合



レスペーパー化が必ずしも環境に配慮した働き方になるとは限らない
紙はオフィスの悪者とはいえない



実験の概要

用途：趣味の読み

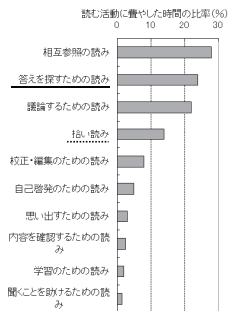
- 実験1: 短編小説の読み
 - ✓ 実験1A: 読みの速度比較 (紙 vs. iPad vs. Kindle)
 - ✓ 実験1B: ページめくりの操作性評価 (認知負荷測定)

業務での読み

- 実験2: 答えを探すための読み
 - ✓ 実験2A: マニュアルから答えを探す課題 (読んで答えを探す)
 - ✓ 実験2B: 写真集から同じ写真を探す課題 (見て答えを探す)
- 実験3: 文書タッチが読みに与える影響の分析
 - ✓ 実験3A: 紙 vs. iPad
 - ✓ 実験3B: 紙での操作を制限

現状の電子書籍端末は、複数の文書を対象にした相互参照の読みを支援するようにはデザインされていない
・ 複数文書を同時閲覧できない
・ デバイスが大きすぎて並置・重ね合わせが難しい

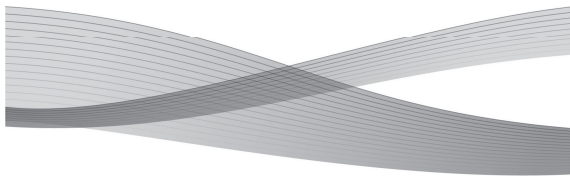
業務での読みの種類 (10種類)



Part 2

電子書籍端末は紙をなくすか?

紙の書籍と電子書籍端末の比較実験



実験1 短編小説の読み

研究の背景と目的

- 2008年以降、日本でのオフィス紙の消費は緩やかに減少している
- 出版業界の売上も緩やかに減少
- 2010年、電子書籍元年
 - ✓ Kindle
 - ✓ iPad
- プリンストン大学で講義資料をKindleで配布したところ、プリント量が半減



Research question

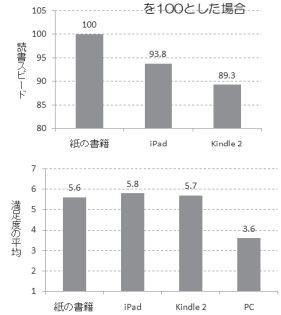
- 世の中は一気にペーパーレス化へと進むのか?
- 私たちの調査では、紙の最後の砦は「読みやすさ」にある。iPad や Kindle が、どれだけ紙の読みやすさに近づいているのか?



Jakob Nielsenによる電子書籍端末の評価実験

- 比較対象
 - ✓ 紙の書籍
 - ✓ iPad
 - ✓ Kindle 2
- 課題はヘミングウェイの短編小説を読むこと
- 被験者は24名
- 被験者内デザイン
- 評価指標
 - ✓ 読書スピード
 - ✓ 満足度 (7段階)

紙の書籍での読みのスピードを100とした場合...



実験1A：実験の狙い

Nielsenの実験では

- 実験条件の詳細が不明確
- 読みのスピードに違いが生じた理由が不明

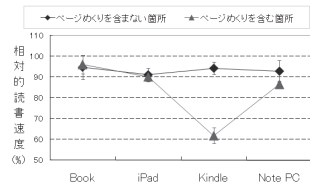


そこで

- 短編小説の読みを対象に、読みのスピードを比較する実験を再度実施
- ページめくりを含む部分と含まない部分を分離してスピードを比較
 - ✓ 高解像度ディスプレイを利用すれば、紙と電子メディアとに読みのスピードに違いはない (Gould 1987)



実験1A：結果：読みのスピード



- ページめくりを含まない場合
 - ✓ メディア間で読みのスピードに違いがない
- ページめくりを含む場合
 - ✓ ノートPCは文庫本よりも有意に遅い
 - ✓ KindleはノートPCよりも有意に遅い
 - ✓ iPadと文庫本との間に有意差はない
- 表示品質の違いが読みのスピードに変化をもたらすことはない
- ページめくりの操作性が読みのスピードに違いをもたらす



実験1A：実験方法の概要

- 材料は村上春樹の短編小説『カンガルー日和』より4編 (1編あたり7~9ページ)
- 全条件にわたって同一サイズ、同一レイアウトで小説を読む
 - ✓ 文庫本 (Book条件)
 - ✓ iPad Wi-Fiモデル (iPad条件)
 - ✓ Kindle DX (Kindle条件)
 - ✓ Let's note (Note PC条件)
- 自由なペースで、自由な姿勢で読む
- 被験者は24名
- 被験者間デザイン。全員、はじめに紙の本で読む (ベース条件)。その後、6名ずつ、各条件で3編ずつ短編小説を読む
- 読書後に1分間で小説を要約
- 読書後にNasa-Task Load Index (NASA-TLX) 検査により作業負荷を測定



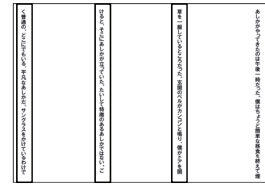
条件	1回目の読書 (ベース)	2回目の読書	3回目の読書	4回目の読書
Book条件 (6名)	全員が紙の本で小説を読む	紙の本	紙の本	紙の本
iPad条件 (6名)		iPad	iPad	iPad
Kindle条件 (6名)		Kindle	Kindle	Kindle
Note PC条件 (6名)		ノートPC	ノートPC	ノートPC



実験1B：方法：二重課題法による認知負荷の計測

- 一次課題：音読
- 二次課題：音がなったらペダルを踏む

ヘッドフォンをしながら読書。音読中に音が鳴ったら、すぐに足元のスイッチを踏む



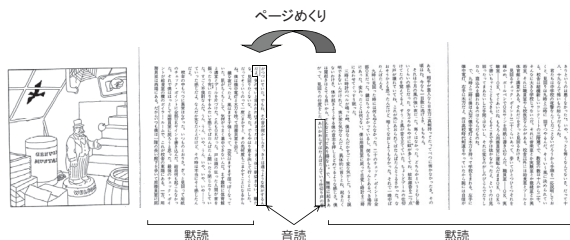
文章は1ページに4行。2、3、4行目を読んでいる最中に1回ずつランダムなタイミングで音を鳴らした

- 一次課題の認知負荷が高ければ反応が遅れる
- 二次課題に多くの心的リソースを導入できないから



実験1A：読み方

ページめくりを含む部分と含まない部分を区別するために、ページめくりの前後を音読



音読箇所 → 各媒体のページ捲りの影響を受ける
 黙読箇所 → 各媒体の表示品質のみに影響を受ける

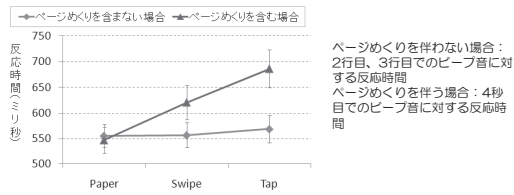


実験1B：実験方法の概要

- 材料は村上春樹の短編小説『カンガルー日和』より3編選定
 - ✓ 1頁2行 (見開き4行) 11ページ
- 課題
 - ✓ 全文の音読
 - ✓ 主課題である音読の速度を落とさずかつ可能な限り速い音への反応を教示
 - ✓ 自由なペース、自由な姿勢
 - ✓ 読書後に文章内容の確認テストを行うことを教示
- 作業条件
 - ✓ Paper: 紙を束ねて作成した書籍
 - ✓ Swipe: iPadを使用し、ページめくりはスワイプ (手を横にスライドさせる動き) を利用
 - ✓ Tap: iPadを使用し、ページめくりはタップ (ページの端を軽くタップ) を利用



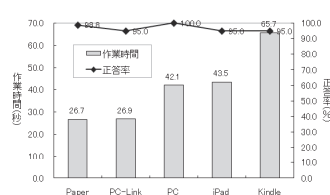
実験1B：結果：二重課題での反応時間



- ページめくりを含まない場合、二重課題への反応時間に違いはない [p<.1]
→ ページめくりを含まない場合、読みの認知負荷に違いはない
- ページめくりを含む場合、Paper条件、Swipe条件、Tap条件の順で反応時間が速い [p<.05]
→ 紙でのページめくりの認知負荷が最も少ない、次がiPadのSwipe、最後にiPadのタップ
- Paper条件では、ページめくりを含む場合と含まない場合で反応時間に違いがない [p>.1]
→ 紙でのページめくりには、ほとんど認知負荷を必要としない

FUJI XEROX

実験2A：実験結果：作業時間・正答率



作業時間について条件間で有意差 [F(4, 76)=15.07, p<.001]
LSD法の多重比較の結果
Paper ≪ PC-Link < PC ≪ iPad < Kindle [p<.05]

正答率については有意差なし [p>.1]

- 紙はiPadより38.6%高速
✓ iPadよりもPaperのほうが、ページナビゲーションが高速
- 紙はリンク付PDF文書に対する問合せ作業と同程度に速い
✓ PC-Linkでは、答えのあるページを自次で正しく選択できるときは非常に高速であるが、そうでない場合はPaperよりも時間がかかる。すなわち、PC-Linkのほうがはつきりが大きい
- iPadの作業時間はリンクなしPDF文書に対する場合と同程度
- Kindleは比較条件間で最も遅い、作業時間は紙の2.4倍、iPadの1.5倍
✓ Kindleではページめくりの時間がかかる。さらに、ページジャンプの操作が煩雑

FUJI XEROX

実験2 答えを探す読みでの比較

実験2B：写真を探す(見て探す) 実験方法の概要

- 材料
 - ✓ 写真集3つ
 - 40枚の写真、1ページに1つの写真(全て風景写真)
 - A5サイズの紙にカラーで片面印刷し、ホッチキスで止めて製本
- 課題
 - ✓ 提示した写真と同じものを探してページ番号を答える
- 被験者
 - ✓ 男女同数の12名(20~30代) 平均は30.4歳
 - PC利用歴3年以上
 - 矯正視力0.7以上
- 環境
 - ✓ Paper (紙の書籍)
 - ✓ iPad
 - ✓ PC (PDF文書をAdobe Readerで閲覧)
- 被験者内デザイン、全員が各条件5試行
- 最後に、アンケート、インタビュー



FUJI XEROX

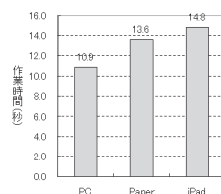
実験2A：マニュアルから答えを探す(読んで探す) 実験方法

- 材料
 - ✓ 「ビジネス・マナー・ガイド」
 - ビジネスマナーの入門書でWebから入手した情報をもとに実験者が自作
 - A5サイズで片面印刷し、ホッチキスで止めて製本
 - 全部で84ページ(表紙、目次の部分が6ページ)
- 課題
 - ✓ ビジネス・マナー・ガイドを参照して穴埋め課題の答えを探す
質問の例：乗台車の場合、()が上席。
- 被験者
 - ✓ 男女同数の20名(20~30代) 平均は30.6歳
 - PC利用歴3年以上
 - 矯正視力0.7以上
- 環境
 - ✓ Paper (紙の書籍)
 - ✓ iPad (iPad Wi-Fi モデル)
 - ✓ Kindle (Kindle 2)
 - ✓ PC (リンクなしのPDF文書をAdobe Readerで閲覧)
 - ✓ PC-Link (自次にリンクのついたPDF文書をAdobe Readerで閲覧)
- 被験者内デザイン、全員が各条件4試行
- 問合せ課題を終えてから、回答の位置記憶再認テスト、アンケート、インタビュー



FUJI XEROX

実験2B：実験結果：作業時間



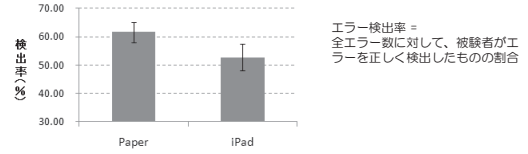
作業時間について条件間で有意差 [F(2, 22)=4.84, p<.05]
LSD法の多重比較の結果
iPad > PC [p<.01]
PaperとiPad、PaperとPC間には有意差はない

- PCはiPadより36.5%高速
- PCでは
 - ✓ 一定時間間隔で、ページを次々とめくることが容易で確実。しかも、ページを飛ばしてしまうことがない
- iPadでは、
 - ✓ PCと同様に、ページを次々とめくるのが容易で確実。ただし、めくりのスピードがPCに比べて遅い
- 紙では、
 - ✓ 数枚まとめて一緒にめくられることがあった(めくりの確実性に難あり)。そうなること戻ってめくり直し
 - ✓ ただし、途中から検索を始めたり、後ろから検索したりと、検索の仕方は多様で柔軟
 - ✓ 製本の仕方に問題があった。それでもPCと同レベルだということに意義がある

FUJI XEROX

実験3 文書タッチが読みに与える影響の分析

実験3A：実験結果：エラー検出率



制限時間があるなかで意味的な誤りを検出する場合

- iPadよりも紙のほうがエラー検出率が16.8%高い [p<0.05]
 - ✓ 紙の61.6%に対してiPadでは52.7%
- 作業時間には違いがない [p>.1]
 - ✓ 紙の213.5秒に対して、iPadでは221.6秒

エラー検出率 = 全エラー数に対して、被験者がエラーを正しく検出したものの割合

➡ 負荷の高い読みでは、iPadより紙？



実験3：背景

2010年夏、iPadで論文を読んでいる、読みにくいと感じた。文書に触れるたびに、文書が横にずれたり、拡大したり、ページがめくれてしまったりする。論文を読んでいる最中には、単語をポインティングしたり、文をなぞったりという行為が頻繁に行われており、それができなくなるととても不快のたとえ感じた。

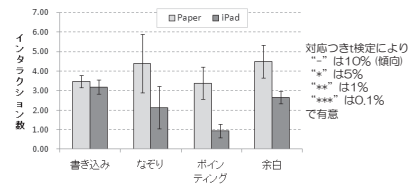


- 普段、ほとんど無意識に行っている文書に「触る」というインタラクション (文書タッチ) は、文書を理解するうえで認知的に重要な役割を担っているのではないかと？
 - ✓ チラリとめくって次のページを見たり、ペラペラめくって先読みしたりというライトなナビゲーションを支援できるのが紙の良さ。折る、広げる、ひっくり返すといった複雑なことが紙では無意識的にできる (Marshall & Bly 2005)
- 文書と本気で対峙すればするほど、人は文書とのインタラクションが増えるのではないかと？
 - ✓ 伝えたい思いが強いと人はジェスチャーが増える。対人コミュニケーションで生じるこの現象は、文書とのコミュニケーションでも生じるのではないかと？



実験3A：実験結果：インタラクションの種類

校正作業1分あたりのインタラクション数



- iPadよりも紙のほうが、なぞる [p<.1]、ポインティングする [p<.001]、余白に触る [p<.05] インタラクションが多い

対峙つき検定により
“-” は10% (傾向)
“*” は5%
“**” は1%
“***” は0.1%
で有意

➡ 紙でのパフォーマンスが高いのは、紙では頻りに文書タッチが生じるから？

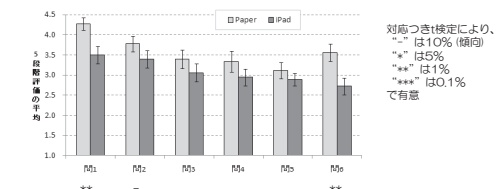


実験3A：実験方法の概要

- 材料
 - ✓ 朝日新聞の『天声人語』(2007年掲載)
 - 時事に関するもの、散文的な文章は除外
 - ✓ 意図的に誤りを5箇所づつ埋め込む
 - 意味的な矛盾点であり、文脈を正しく理解しないと検出できない
 - ex. 数値が「上昇した」はずなのに「減少した」となっている
- 課題
 - ✓ 文書を読んで、間違いを「速く」かつ「正確に」みつける
 - ✓ 制限時間は4分 (4分以内に5個の間違いを全て見つけるよう指示)
 - ✓ 間違い箇所のみ口頭で報告
- 被験者は男女同数の18名 (20~30代、PC利用暦3年以上、視力0.7以上)
- 作業条件
 - ✓ Paper (A5の紙に片面モノクロで印刷)
 - ✓ iPad (iPadの上に透明なフィルムを張り付けて、油性ペンで書き込みできるようにした)
- 被験者内デザイン、全員が条件ごとに2試行
- 実験後、アンケートとインタビュー



実験3A：実験結果：アンケート・インタビュー



問1 校正作業に集中できた。
問2 文書に入り込んで(感情移入して)校正することができた。
問3 校正した文書に親しみを感ずるようになった。
問4 数多くエラーを見つけることができた。
問5 校正作業を速く行うことができた。
問6 疲れが少なかった。

- 「iPadに書き込もうとして手を置いたら、文書が拡大してしまいました。以降、書き込む際に手のひらが触れないように注意しました」
- 「iPadはテクニカルでいて、触るのをためらってしまう」
- 「iPadは画面に光が反射して見づらい」
- 「(iPadは) 重さがきになって集中できない」

対峙つき検定により
“-” は10% (傾向)
“*” は5%
“**” は1%
“***” は0.1%
で有意

ただし、インタラクションの量や仕方については個人差が大きい。文書に全く触ることなく校正を行った人もいる。



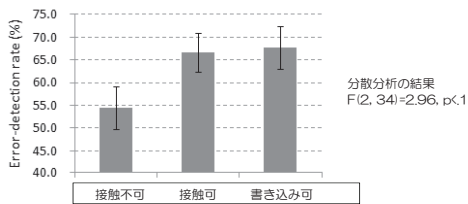
実験3B：実験方法の概要

- 目的：インタラクションに制約を課すことで、校正作業のパフォーマンスがどのように異なるのかを調べる
 - ✓ 紙に触ることができない
 - ✓ 紙に触ることができる
 - ✓ 紙に書き込むことができる
- 材料は実験3Aと同じ要領で作成
- 課題は実験3Aと同じ
 - ✓ 4分以内に意味的な誤り5つ全てを「速く」かつ「正確に」みつける
- 被験者は実験3Aと同じ18名
- 作業条件 (全て紙文書で実施)
 - 接触不可：文書に触ることができない
 - 接触可：触ることができるが書き込みはできない
 - 書き込み可：書き込むことができる
- 被験者内デザイン
- 実験後、アンケートとインタビュー

実験3B：考察：文書に触ることの意義

- 異なる箇所を比較しやすくなる
 - ✓ 視線の移動を誘導
 - ✓ 「『こっちは中国人なのに、こっちは日本人になってる。いいのかな』とかいう真面にチェックした」
- 読むスピードを制御できる
 - ✓ 一字一字を注意しながら飛ばさないように読む。急がないようにゆっくり読む
 - ✓ 「心理的にどうしても急いでしまう。(なぞることで)それを防げる」
- 注意をそこに向けることができる
 - ✓ 「指を置くことで、注意をそこに集中できる」
 - ✓ 「(触れないと)行を追って、途中で見失うことがある」
 - ✓ 「間違い箇所を指さすことで、どこに間違いがあったかをだいたい覚えらる。二度目の読みの際に同じ箇所をチェックしなくて済む」
- 作業に集中できるようにする
 - ✓ 文書に触れない場合について
 - 文書に入り込むことなく、遠くから眺めているような心理的効果
 - 「手に持てないのがもどかしい。距離感を感じてしまう。掲示板を見ているような感じ」

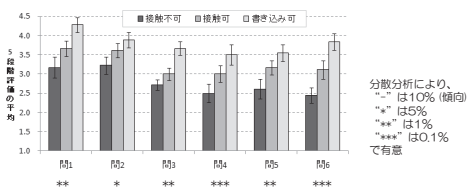
実験3B：実験結果：二重課題に対する反応時間



- 「接触不可」と「書き込み可」の間に有意差 [p<0.05]
 - 接触可は「接触不可」と「書き込み可」の中間に位置するが、両者とも有意差はない [p>.1]
- 触ることが文書を深く処理することを促すとは結論付けられないが、示唆される

まとめ

実験3B：実験結果：アンケート



- 問1 校正作業に集中できた。
 - 問2 文書に入り込んで(感情移入して)校正することができた。
 - 問3 校正した文書に親しみを感ずるようになった。
 - 問4 数多くエラーを見つけることができた。
 - 問5 校正作業を速く行うことができた。
 - 問6 疲れが少なかった。
- 「文書に触らずに読むということがこんなにも難しいことだと今日初めて知りました」
 - 「普段は気付かないけど、文書に触りながら読むことが多いんだなあと実感しました」
 - 「手に持てないのがもどかしい。距離感を感じてしまう。掲示板を見ているような感じ」

結論

- 娯楽の読みでは電子書籍端末は、主観的には違いはあるが、読みのスピードに関しては、紙に近いレベルにある [実験1]
 - 効率の観点から見た場合、娯楽の読みにおいて、現状の電子書籍端末の顧客受容性は高い
- 業務の読みでは、電子書籍端末は紙の書籍に及ばない
 - ✓ 答えを探す読み (業務での読みの24%) において、電子書籍端末より自作した紙の書籍のほうが効率的 [実験2]
 - マニュアルからの答えの探索において、iPadでの作業時間は紙の1.6倍。Kindleの作業時間は紙の2.4倍
 - 写真集からの写真の探索において、iPadは紙と同程度
 - ✓ 電子書籍端末は相互参照の読み (業務での読みの28%) を支援するようには設計されていない
 - ✓ 触れなくすると読みのパフォーマンスが劣化 [実験3]
 - 効率の観点から見た場合、オフィス業務において、現状の電子書籍端末が紙を広前にわたって代替することは困難

ご購入ありがとうございます

Welcome

hirohito.shibata@fujiXerox.co.jp

FUJI XEROX

技術の方向性

- 紙の読みやすさは「見やすさ」ではなく「扱いやすさ」にある
- 表示品質は既に（読みのパフォーマンスとしては違いをもたらさない程度に）十分なレベルにある
- 異なるメディアは異なるメリットとデメリットをもつ

未来の技術に対する期待

- インタラクションのデザイン、ワークスタイルのデザイン
- 状況に応じて適切なメディアを選択
 - ✓ 業務は単一の汎用ツールではなく、複数のツールの連携により支援される
 - ✓ 紙はそのためのひとつの（重要な）ツールとして機能する
 - ✓ メディアは他のメディアと連携すべき

FUJI XEROX

付録

被験者の募集条件

被験者はいずれも、人材派遣会社のDBから条件にマッチする人をランダムに選んでいる

被験者の募集条件

- 性別：男女同数
- 年齢：20～39歳
 - ✓ 比較的若い
- PC利用経験：日常的なPC利用歴3年以上
 - ✓ PCの利用に慣れている
- 言語：日本語を母国語とする人
- 視力：矯正視力0.7以上

FUJI XEROX

書物と読者をつなぐもの 読書論の課題

和田 敦彦

はじめに

- 1) 書物の場所・読書の場所を問うこと
- 2) リテラシー史という観点

1 読書論・読者論の陥穽

- 1) 「読書」「読者」という領域を自明とすることのあやうさ
- 2) 読書行為の広範さ
 - ・人文科学のあらゆる領域の成果＝それぞれの読者集団の読書実践記録
 - ・文学研究における「注釈」と「解釈」
- 3) 読者論をどのように評価、整理するか
 - ・「読書」「読者」における差異をいかに明らかにしているか
 - 読者の性差、年齢差、階層差、読書の場の空間的な、歴史的な差
 - ・それを明らかにするためにどういった領域の資料をどの程度用いているか

2 読書を知る手がかり

- 1) 読者の差異
 - ・「児童」「女性」「大衆」「エリート」読者の問題化
 - ・空間（図書館、車内、学校、書店）の読書
- 2) どのような資料をもとにするか
 - ・書物の生産、流通、享受の各プロセスに資料が存在する
 - ・作家、出版社、書店、学校、図書館、家庭
 - 出版社・図書館の史料の事例

3 書物と読者のあいだ

- 1) どのようにして書物が読者に届くのか
 - ・その間に介在する組織、人、システム
- 2) 書物流通の歴史と読者
 - ・明治期の教科書流通の事例

4 彼方の読書

- 1) 過去の、あるいは地域の読者から見えるもの
 - ・地域の明治期書店資料の事例
- 2) 海外の日本語図書館
 - 流通や所蔵、読者をめぐる環境の問題がより鮮明に
- 3) 地域における様々な読書資料
 - ・それぞれの場所にある読書資料とその保存

2011年度研修会の総括と回顧

研究部 研修委員長 伊原 千秋

1. 2011年度研修会の開催について

○ テーマ

「読むということ」

2011年10月27日（木）～10月28日（金） 於：専修大学生田キャンパス

○ 開催趣旨

「電子書籍元年」といわれた昨年は、国民読書年でもありました。文字の媒体が紙から電子へと変化するなかで、「読む」という行為やその意味は、どのように変化してきたのでしょうか、あるいは今後変化していくのでしょうか。本年度の研修会では、さまざまな角度から「読む」ということについて迫りたいと考えました。歴史から現状、そして最新事情までを学べるように多彩な分野から6名の方にご講演いただきます。

このような変化の中で、大学図書館はどのように対応していくべきなのか、講演を聞き、講演者や他の参加者の方々とも積極的に対話していただくことで、新たな気づきが得られるような場になれば幸いです。多くの方のご参加をお待ちしています。

○ 参加者数

参加者はのべ60大学68名。

○ プログラム

別紙のとおり、基調講演・講演：6件

○ 今年度特徴的な事項

・ポスター展示の企画について

受講者参加型の企画として主として研修会テーマに関連したポスター・広報物等の展示により、自館の取り組みを発表する場を設けた。アンケートの結果、大変好評であった。

また、懇親会時には、展示者による展示物の紹介を行ってもらった。

・参考文献の事前通知について

前年度に引き続き、受講決定者への参考文献の提示と講演者への質問の事前受付について通知した。今回も前年同様、質問はなかった。

2. 2012年度研修会に向けて

○ 研修会のあり方について

研究講演会、研究会（交流会）と研修会テーマがなるべく重ならないようにしていきたい。また、研究分科会と連絡をとりあうことを考えていきたい。

○ 研修会日程、場所について

4月中に日程、場所を決める予定である。

○ 2012年度研修委員会

事務局の東京農業大学以外の5名のメンバーが交代となり、新メンバーで活動を行っていくことになる。オブザーバーが出来るだけ出席し、サポートしていきたい。

以上

2011年度私立大学図書館協会東地区部会研究部
決算報告書
 (2011年4月1日～2012年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,366,000	2,402,400	△ 36,400	@13,000円 × 0.7 × 260 校 加盟館追加4校分 (36,400円)
研修会参加費収入	300,000	204,000	96,000	参加費：@3,000円×68名
研究会参加費	0	0	0	2011年度は研究分科会報告大会のため未計上
雑 収 入	1,000	584	416	預金利息
小 計	2,667,000	2,606,984	60,016	
前年度繰越金	3,229,703	3,229,703	0	
合 計	5,896,703	5,836,687	60,016	

支出の部

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	500,000	335,711	164,289	研究分科会報告大会 12月15・16日開催 (於 明治学院大学) 内訳：分科会発表資料作成費90,000円、資料発送費6,540円 飲料・弁当167,585円、配布資料用紙代等10,666円 会場費謝礼金20,000円、文具等40,920円
研修会開催費	700,000	664,200	35,800	研修会 10月27・28日 (於 専修大学)
運営委員会費	100,000	72,154	27,846	
運営委員・分科会 代表者合同会議費	160,000	135,127	24,873	年2回開催 (第1回5月13日於東京農業大学・ 第2回11月18日於早稲田大学)
分科会助成金	650,000	635,000	15,000	基本助成： 300,000 円 (30,000 × 10 分科会) 割増助成： 350,000 円 (@5,000×正会員70名 [上限13万円/分科会])
特別助成金	450,000	400,000	50,000	研修分科会支援金 (400,000円)
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	0	50,000	研究部活動 (運営委員会・研修委員会含む)
印 刷 費	350,000	302,925	47,075	研究部封筒：3,000部 研究部報告書：500部
通 信 費	100,000	110,650	△ 10,650	研修会案内通知、研究分科会報告大会案内通知、 研究分科会会員募集、会員決定通知発送
運 営 事 務 費	100,000	34,177	65,823	研究部担当理事校交代初年度のため増額
小 計	3,260,000	2,789,944	470,056	
予 備 費	2,636,703	0	2,636,703	
次年度繰越金	0	3,046,743	△ 3,046,743	
合 計	5,896,703	5,836,687	60,016	

2011年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上のとおりです。

2012年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

東京農業大学図書館

監 査 報 告 書



2011年度に係る決算報告書及び附属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査いたしました結果、適正であることを認めます。

2012年4月9日

東地区部会監事校

青山学院大学図書館



2012 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部
活動計画 (案)

(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

1. 研究部活動方針

- 1) 研究活動
- 2) 研修活動
- 3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議
年 8 回程度開催

2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議
2012 年 5 月、11 月の年 2 回開催

3) 研究会

「交流会」(研究分科会参加者の相互交流)の開催
2012 年 11 月 16 日(金) 於: 専修大学

4) 研修委員会

研修会開催(年 1 回)のため、年 8 回位開催予定

5) 研修会

2012 年 11 月 29 日(木)・30 日(金) 会場: 中央大学 後楽園キャンパス

6) 研究分科会

11 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する予定

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| (1) 分類研究分科会 | (7) 西洋古版本研究分科会 |
| (2) 逐次刊行物研究分科会 | (8) 和漢古典籍研究分科会 |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (9) 情報リテラシー教育研究分科会 |
| (4) レファレンス研究分科会 | (10) L-ラーニング学習支援研究分科会 |
| (5) 理工学研究分科会 | (11) 図書館運営戦略研究分科会 |
| (6) 企画広報研究分科会 | |

7) 研修分科会(単年度活動)

以上

2012年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

予 算 (案)

2012年4月1日～2013年3月31日

収入の部

単位:円

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,402,400	2,366,000	36,400	@13,000円 × 0.7 × 264校
研修会参加費収入	210,000	300,000	△ 90,000	参加費:@3,000円 3,000 × 70 名 × 1 回
研究会参加費	150,000	0	150,000	「交流会」参加費:@3,000円 @3,000円 × 50 名
雑 収 入	1,000	1,000	0	預金利息
小 計	2,763,400	2,667,000	96,400	
前年度繰越金	3,046,743	3,229,703	△ 182,960	
合 計	5,810,143	5,896,703	△ 86,560	

支出の部

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	500,000	500,000	0	「交流会」(研究分科会参加者の 相互交流)の開催
研修会開催費	700,000	700,000	0	2012年度は1回開催
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	160,000	0	年2回開催(5・11月)
分科会助成金	710,000	650,000	60,000	基本助成: 360,000 円 (30,000 × 12 分科会) 割増助成正会員: 350,000 円 (5,000 × 70 名)
特別助成金	450,000	450,000	0	研修分科会支援金(400,000円)
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動(運営委員会・研修委員会含 む)
印 刷 費	350,000	350,000	0	研究部報告書:500部
通 信 費	100,000	100,000	0	研修会案内通知、交流会案内通知、研究 分科会会員募集、会員決定通知発送
運営事務費	50,000	100,000	△ 50,000	研究部担当理事校2年目のため減額
予 備 費	2,540,143	2,636,703	△ 96,560	
合 計	5,810,143	5,896,703	△ 86,560	

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)
(2000 年 6 月 9 日 改訂)
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名

（東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名）

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する者若干名をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を発足するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

- 第 10 条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第 11 条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月末までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第 12 条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第 13 条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第 14 条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第 15 条 研究分科会代表者は、毎年 2 回（5 月・11 月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第 16 条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005 年 4 月 1 日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和56年4月 1日 制定)

(平成 2年4月 1日 改正)

(平成 8年3月28日 改正)

第1条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第2条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第3条 委員会は6名の委員をもって構成し、うち1名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第4条 委員の任期は2年とし、再任はさまたげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第5条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第6条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第7条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第8条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第9条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第11条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

この規則は平成8年4月1日より施行する。